中央公園サッカースタジアム（仮称）基本計画
（素案）

令和２年１月
広島市

目次

第１章　基本計画策定の目的

1.1 これまでの経緯 ・・・

第１章　基本計画策定の目的

1.1 これまでの経緯

広島におけるサッカースタジアムの整備については、平成 25 年以降、サッカースタジアム検討協議会による「広島に相応しいサッカースタジアムについて（提言）」の策定、広島県、広島市、商工会議所による実現可能性調査の実施など、関係者とともに議論を進めてきた。

こうした検討・議論を踏まえ、平成 31 年 2 月に広島県知事、広島市長、広島商工会議所会頭とサンフレッチェ広島会長の４者による意見交換を行い、建設場所を中央公園広場とすることや広島市を事業主体として事業を進めることなど、サッカースタジアム建設に係る基本的事項の合意に至った。また、令和元年５月にはこの合意事項を基に広島県・広島市・広島商工会議所において、「サッカースタジアム建設の基本方針」を策定したところである。

【これまでの検討経緯】

年月	内容
平成 25 年１月	サッカースタジアム建設早期実現のための約３７万件の署名が集まる
平成 25 年６月	サッカースタジアム検討協議会を設置
平成 26 年 12 月	検討協議会が、旧広島市民球場跡地と広島みなと公園の２か所を候補地とする提言を取りまとめ
平成 28 年３月	サンフレッチェ広島が旧広島市民球場跡地を候補地とするスタジアム建設案を公表
同年８月-9 月	広島県知事、市長、商工会議所会頭とサンフレッチェ広島会長の４者による意見交換（２回）を実施し、中央公園広場を候補地として追加することに合意
平成 29 年 12 月	作業部会が「サッカースタジアムに係る各建設候補地の比較」を公表
平成 30 年２月	基町の明日を考える会から「サッカースタジアム建設候補地から中央公園案を外すよう求める要望書」（署名簿含む。）を受領
同年６月-10 月	基町地区住民を対象に、基町地区の将来を見据えたまちづくりとサッカースタジアムについての説明会を開催（計７回）
平成 31 年２月	県知事、市長、商工会議所会頭とサンフレッチェ広島会長の４者による意見交換を実施し、建設場所や事業主体といった基本的事項について合意
令和元年５月	県知事，市長，商工会議所会頭の３者による会談を開催し，「サッカースタジアム建設の基本方針」を策定

1.2 サッカースタジアム整備の必要性

1. 現行スタジアムの課題

○　観戦環境の向上の必要性

現在、サンフレッチェ広島が使用している広島広域公園陸上競技場（以下、「エディオンスタジアム広島」という。）は、陸上との兼用競技場であり、スタンドとピッチとの間に陸上トラックが存在することから、サッカーを観戦する際に臨場感や選手とサポーターの一体感に欠けるなどの課題がある。

○　Ｊリーグクラブライセンス制度*1への対応の必要性

Ｊリーグのクラブライセンス制度*1の規定では、スタジアムの屋根は観客席の３分の１以上が覆われていることが定められているが、現在のエディオンスタジアムの屋根のカバー率は基準を充足しておらず、改善が求められており、洋式トイレの数についても、改善を続けているものの、基準を満たしていない状況が続いている。

また、ＡＦＣスタジアム規則*2では、全席個席で背もたれ付きであることが定められており、現在のエディオンスタジアムでは基準を満たしておらず、また、必要な照度についても、現行では1,500ルクスが求められているが、2021シーズンからは1,800ルクス、決勝戦においては2,500ルクスが求められることとなっており、対応が必要となる。

2. 新スタジアムへの期待

○　地域活性化・賑わいの創出の起爆剤

「観るスポーツ」のために最適化されたサッカースタジアムは、高い集客力が期待でき、サッカースタジアムそのものの経済効果だけでなく、飲食、宿泊、観光等の周辺産業へ経済波及効果や雇用創出効果を生みだす地域活性化の起爆剤となる潜在力の高い基盤施設と言える。

また、スタジアムと周辺エリアとの回遊性が生まれることで、都心が活性化するだけでなく、サッカー等のスポーツやイベントを通じて、県内、国内にとどまらず、海外との地域交流・国際交流の促進が図られ、さらには、スタジアムを多目的化*3・多機能化*4とすることで、多様な世代・属性の方が新たに集い、憩う場となり、まちの回遊性と活性化を加速することが期待されている。

○　地域の誇り・アイデンティティの醸成

広島市民球場（MAZDA・ZOOMZOOMスタジアム）における野球の盛り上がりに見るように、人々が一体となってスポーツチームを応援し、楽しむことは、広島に対する愛着や誇りを生み出すことにつながっているほか、都市としての魅力度向上につながるものである。

そうした中、サッカーについては、サンフレッチェ広島の２０１２年のＪリーグ初優勝及びその後の２度の優勝も相まって、多くのサポーター等の方から新たなスタジアムを要望する声が上がっており、世界に誇れるスタジアムの建設に対する期待が高まっている。

以上の状況から、街なかへの新しいサッカースタジアム建設が強く求められている。

1.3 「サッカースタジアム建設の基本方針」における基本的姿勢

「サッカースタジアム建設の基本方針」において、サッカースタジアム建設に向けた基本的姿勢は、以下のとおりとしている。

「サッカースタジアム建設の基本方針」より

サッカースタジアムは、広島の新たなシンボルとして広域的な集客効果を高めるなど、広島市ひいては広島県全体の活性化につながるものであり、さらに、サッカーを通じた国際交流が期待できる中で、その建設場所である中央公園広場と平和記念公園が一体となった平和発信の拠点となることを目指す。

また、サッカースタジアムは、サッカーのための施設にとどまらず、都心部の更なる活性化に寄与することが期待され、スタジアムが都心部の再生の起爆剤となるよう、スタンド下を活用した賑わい機能の導入を進めるなど多機能化*4・複合化*5を図り、年間を通じて人が集まるスタジアムとしていくとともに、若者を含む幅広い世代が楽しめるような施設とする。

さらに、旧広島市民球場跡地を含む中央公園全体の空間づくりなどを進めることで、平和記念公園から旧広島市民球場跡地、サッカースタジアム、広島城、ひいては紙屋町周辺に至る、中央公園全体を使った大きな周遊ルートの形成につなげ、この一帯が、中四国地方の発展を牽引する広島の新たな賑わいの拠点となるように取り組む。

1.4 基本計画の位置付け

本基本計画は、これまでの経緯、サッカースタジアム整備の必要性及び「サッカースタジアム建設の基本方針」を踏まえ、サッカースタジアム建設及び中央公園広場の再整備の整備方針とともに、整備計画及び管理運営に係る基本的な条件を定めるものである。

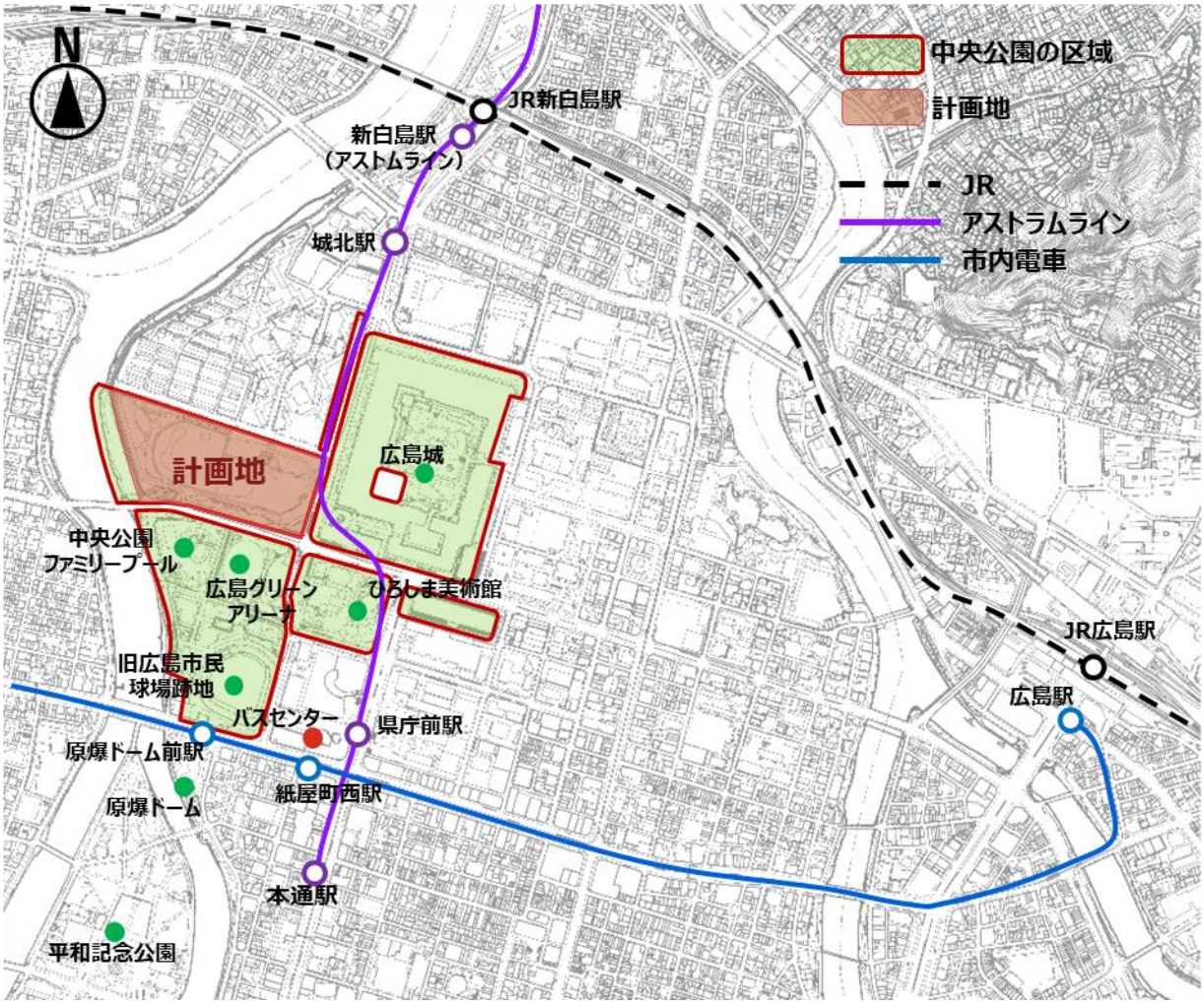
第２章　計画地の概要

2.1 計画地の現状

サッカースタジアム建設予定地（以下、「計画地」という。）の中央公園広場は、広島市中区基町の都市公園である中央公園（全体面積約 427,600 ㎡）の一角に位置する。

基本的な情報は以下のとおりである。

所在地	広島県広島市中区基町１５　中央公園広場 （都市公園区域内）	**アクセス**	・JR「新白島駅」下車、徒歩約 15 分 ・広島電鉄「紙屋町西駅」下車、徒歩約 10 分 ・アストラムライン「城北駅」「県庁前駅」下車、徒歩約 10 分 ・各種バスの「バスセンター」下車、徒歩約 10 分
用途地域	第二種住居地域 （建ぺい率 60%、容積率 200%）		
関係法令	国有財産法*6（国から広島市が無償貸与） 都市公園法*7（都市公園） 都市再生特別措置法(都市再生緊急整備地域*8)	**敷地面積**	約 85,600 ㎡ （中央公園全体：約 427,600 ㎡）



2.2 計画地の立地環境

1. 周辺に集客施設が集積

本計画地を含む中央公園は、広島グリーンアリーナ、中央公園ファミリープール、ひろしま美術館、広島城等、様々な集客施設が集積し、年間４５０万人の人々が集う交流の場となっている。また、原爆ドーム及び平和記念公園に隣接し、多くの観光客が集まるエリアに位置している。







しかしながら、中央公園広場は、東側と南側を幹線道路である国道54号線及び城南通りにより分断されており、平和記念公園や本通り商店街、広島城などからの回遊性に課題がある。

そうした中、平成２９年３月に策定された「ひろしま都心活性化プラン*9」においては、地域資源を生かして、広島ならではの水と緑豊かな都心のオアシスが形成され、人々が集い、憩い、交流する賑わいを創出する「歴史・文化・スポーツ交流ゾーン」に位置しており、今後サッカースタジアムが建設されることで、都心の回遊性が向上し、各ゾーンの連携により、さらなる集客が期待される。

2. 都心に立地

本計画地は、デパート等の大型商業施設、官公庁施設、企業の本社や支社を含むオフィスビルが建ち並ぶ中四国最大の商業業務地であり、広島市の都心の一翼を担う紙屋町・八丁堀地区に近接している。

この紙屋町･八丁堀地区は平成30年10月に都市再生緊急整備地域*8に指定されたことから、サッカースタジアムの建設を契機に周辺の新たな開発が触発され、都心部再生の促進の起爆剤になることが期待される。

3. 住宅地へ近接

本計画地の北側には、大規模な市営住宅群や店舗、小学校、保育園などで形成される基町地区が近接しており、居住・生活空間としての側面も有している地域である。そのため、サッカースタジアム建設及び公園の再整備にあたっては、近隣地域の住環境や生活環境への配慮が重要となる。

2.3 中央公園内及び周辺における他施設の動き

現在、都心を活性化するための先導的な取組として、中央公園全体について、「中央公園の今後の活用に係る基本方針*[10]」の検討（素案は巻末資料参照）が行われており、その中でサッカースタジアムは公園内の他の公共施設や周辺の民間施設等と連携することが求められている。

また、中央公園内の旧広島市民球場跡地や広島城三の丸において、公園の再整備の検討が進められており、各事業が連携して進められることにより、さらなる回遊性や集客性が期待される。

第３章　整備に係る基本的事項

3.1 前提条件

1. 事業主体

中央公園広場は広島市の管理する都市公園の一部であることなどから、建設及び管理運営の主体は広島市とする。また、事業推進に当たっては、広島県及び広島商工会議所等と力を合わせてサッカースタジアムの建設の推進及びこれと連携した賑わいの創出に取り組む。

2. サッカースタジアムの規模

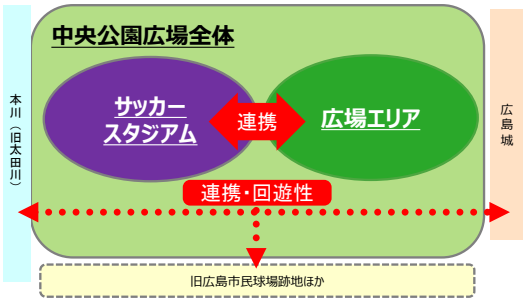
サッカースタジアムの規模は、新スタジアムの集客需要予測の結果や広島広域公園陸上競技場での近年の集客実績を踏まえ、また、サッカーの国際試合を誘致する上での優位性の確保についても考慮し、観客席３万人規模とする。

3. 整備エリア

中央公園広場において、サッカースタジアムを核とする区域を整備するとともに、残りの区域を広場エリアとして再整備する。また、両方の区域が連携した賑わいの空間を創出する。

さらには、旧広島市民球場跡地や広島城など中央公園内の他の区域や本川（旧太田川）の河川空間と連携することで、新たな回遊性や集客性を生み出し、賑わい効果を高める。

【イメージ図】



3.2 整備に当たっての基本的な考え方

1.「街なかスタジアム」の実現

サッカースタジアムと広場エリアが一体的に機能する魅力ある空間づくりを行うとともに、サッカースタジアム建設と連携した旧広島市民球場跡地を含む中央公園全体の空間づくりや紙屋町・八丁堀地区の賑わい創出及び回遊性の向上などまちづくりの視点を持って整備を行う。

また、全国に稀に見る都心に立地する「街なかスタジアム」という特性を生かし、サッカースタジアムの多目的化[*3]と多機能化[*4]及び広場エリアの複合化[*5]による一年中賑わいのあるサッカースタジアムを実現する。そして、様々なスポーツ・イベントの開催や工夫を凝らした高付加価値のサービスの提供を通じて、多様な人々が楽しみ、憩い、また来てみたいと思ってもらえるようなエリアとすることで県民・市民が誇りをもって、国内外にサッカースタジアムの存在価値をアピールできるような施設・エリアづくりを目指していく。

2. みんなでつくるサッカースタジアムの実現

県民・市民だけなく、日本中に存在するサンフレッチェ広島サポーター、さらには様々な分野の方々から幅広く意見を聴くとともに、国内外の先進的なサッカースタジアムや公園などの事例の調査を行い、県民・市民が誇りを持って国内外にサッカースタジアムの存在価値をアピールできるような施設・エリアの実現を目指していく。

また、建設資金として、地元企業からの寄附を募るとともに、県民・市民等の個人からも幅広く寄附を募ることにより、サッカースタジアム建設の気運の醸成を図る。

（参考）幅広く意見を聴くために、以下のような意見聴取を実施している。（以下、「アンケート等」という。）【巻末資料参照】
「サッカースタジアムについて意見を聴く会」
「広島県民・市民アンケート調査」
「民間事業者ヒアリング」

3. 広島らしさの発信

中央公園の緑と太田川の水という広島ならではの水と緑豊かな空間をいかした魅力ある賑わいと憩いの空間を創出する。また、国内外からの多くの人々が訪れる平和記念公園に近接するという特性を生かし、サッカーを通じた国際交流だけでなく、平和や広島のスポーツの歴史などについても世界中へ発信できるような施設を目指していく。

3.3 留意事項

1. 安心・安全なまちづくりへの貢献

中央公園広場の地震、津波及び大規模な火災の際の指定緊急避難場所としての防災機能などを維持するため、県営基町住宅跡地も含めて一定のオープンスペースを確保するとともに、サッカースタジアムの中にも自然災害発生時に対応可能な防災機能を確保していく。また、バリアフリーやユニバーサルデザイン*11にも配慮し、訪れる誰もが安心して快適に過ごせる施設を目指す。

2. 環境にやさしいサッカースタジアム（エコスタジアム）の実現

省エネルギー、省資源化を図るとともに、自然エネルギー、再生可能エネルギーを積極的に活用することで、持続可能なエコスタジアムを目指す。

3. 官民連携手法*12の積極的な活用

サッカースタジアム建設コストの縮減、サッカースタジアムの多目的化*3・多機能化*4及び広場エリアの複合化*5による収益の最大化など、効率的・効果的な管理・運営を図っていくため、官民連携手法*12の導入を図り、民間資金・民間のノウハウの積極的な活用等により、公費負担の軽減を図りつつ、投資及び事業効果の最大化を図っていく。

4. 周辺住民への配慮

本計画地の北側には住宅地や小学校などが近接していることから、サッカースタジアム建設及び公園の再整備にあたっては、周辺住民の意見を聞きながら、地域の生活環境を確保するために必要な対策について具体的に検討する。

第４章　サッカースタジアム・広場エリアの整備方針

4.1 整備方針

サッカースタジアムの計画地のおかれた状況や本計画策定に向けた意見聴取等の結果を踏まえ、中央公園広場の目指す姿（ビジョン）及びサッカースタジアム・広場エリアの目標像（コンセプト）を以下のとおり設定する。

1. 中央公園広場全体の目指す姿（ビジョン）

中央公園広場は、街なかに位置しており、「中央公園の今後の活用に係る基本方針*10（案）」において、スポーツ・レクリエーションゾーンとして、多様化するスポーツ需要に対応するとともに、多世代がアクティブに活動・交流できる空間とすることを目指している。整備にあたっては、これを踏まえ、多くの人々を惹きつける「みんなが集まる“わくわく”スタジアムパーク」を目指した空間づくりを行う。

■中央公園広場全体の目指す姿(ビジョン)

～みんなが集まる“わくわく”スタジアムパーク～

- ▶ 平和のまちを象徴し、開かれ、公園と一体となったスタジアムパーク
- ▶ 多くの市民・県民に親しまれ、多世代が楽しめる多目的スタジアムパーク
- ▶ 世界中の人々が訪れ、広島の魅力を発信するスタジアムパーク

【整備の視点】

- 広島の新たなシンボルとなるサッカースタジアムと公園広場が一体となり、年間を通じて多くの人が訪れる賑わいの拠点となることを目指す。
- 様々な世代が日常的に遊びやスポーツ等を楽しめるような賑わい空間づくりや憩いの場として都心のオアシスとなるような空間づくりを行う。
- 平和記念公園～中央公園～紙屋町周辺に至る回遊ルートを形成するとともに、本川（旧太田川）の河川空間と連携することで、新たな回遊性や集客性を生み出し、賑わい効果を高める。

2. サッカースタジアムと広場エリアの目標像（コンセプト）

(1) サッカースタジアムの目標像（コンセプト）

サッカースタジアムについては、国際都市広島として、世界に誇れるサッカースタジアムを核とし、常に幅広い世代が集うサッカースタジアムを目指していく。そして、サッカー以外でも活用される多目的化*3、またサッカースタジアムの多機能化*4により幅広い世代の県民や市民等が常に集い・賑わう交流拠点となるサッカースタジアムとしていく。

■サッカースタジアムの目標像（コンセプト）

世界に誇れるサッカースタジアム機能を核とし、多目的かつ多機能化した都心交流型スタジアム

【整備の視点】

～何度でも来たくなる魅力あるスタジアム～

観戦者、競技者、競技運営者等、様々な目線に立った最高の環境づくりを行い、世界標準のホスピタリティ[*13]を備えたサッカースタジアムを目指すことで、全ての利用者にとっての魅力向上を図り、何度でも来たくなるような施設とする。

～多様なスポーツ・イベントを楽しめるスタジアム～

年間を通じて人々が集まるサッカースタジアムとするため、サッカーの試合がない日にも活用される多目的スタジアムを目指して、多様なスポーツ・イベント等を開催し、年間を通じて賑わいの創出に寄与できるような施設とする。

～幅広い世代の県民・市民等が楽しめるスタジアム～

幅広い世代の県民・市民等が訪れ、楽しむことができる多機能スタジアムを目指して、スポーツを楽しみ・学び、自らの健康づくりに寄与することのできるスポーツ・健康機能、幅広い世代が日常的に集い、賑わいやコミュニティが創出されるような施設とする。

(2) 広場エリアの目標像（コンセプト）

広場エリアについては、サッカースタジアムと一体化した賑わいを創出する（複合化[*5]）とともに、年間を通じて子供から大人まで幅広い世代の県民や市民、さらには観光客が楽しめる都会のオアシスを目指し、賑わいのある拠点性の高い空間の実現を行う。

■広場エリアの目標像（コンセプト）

子供から大人まで多様な利用者が年間を通じて集い・交流できる拠点性の高い空間

【整備の視点】

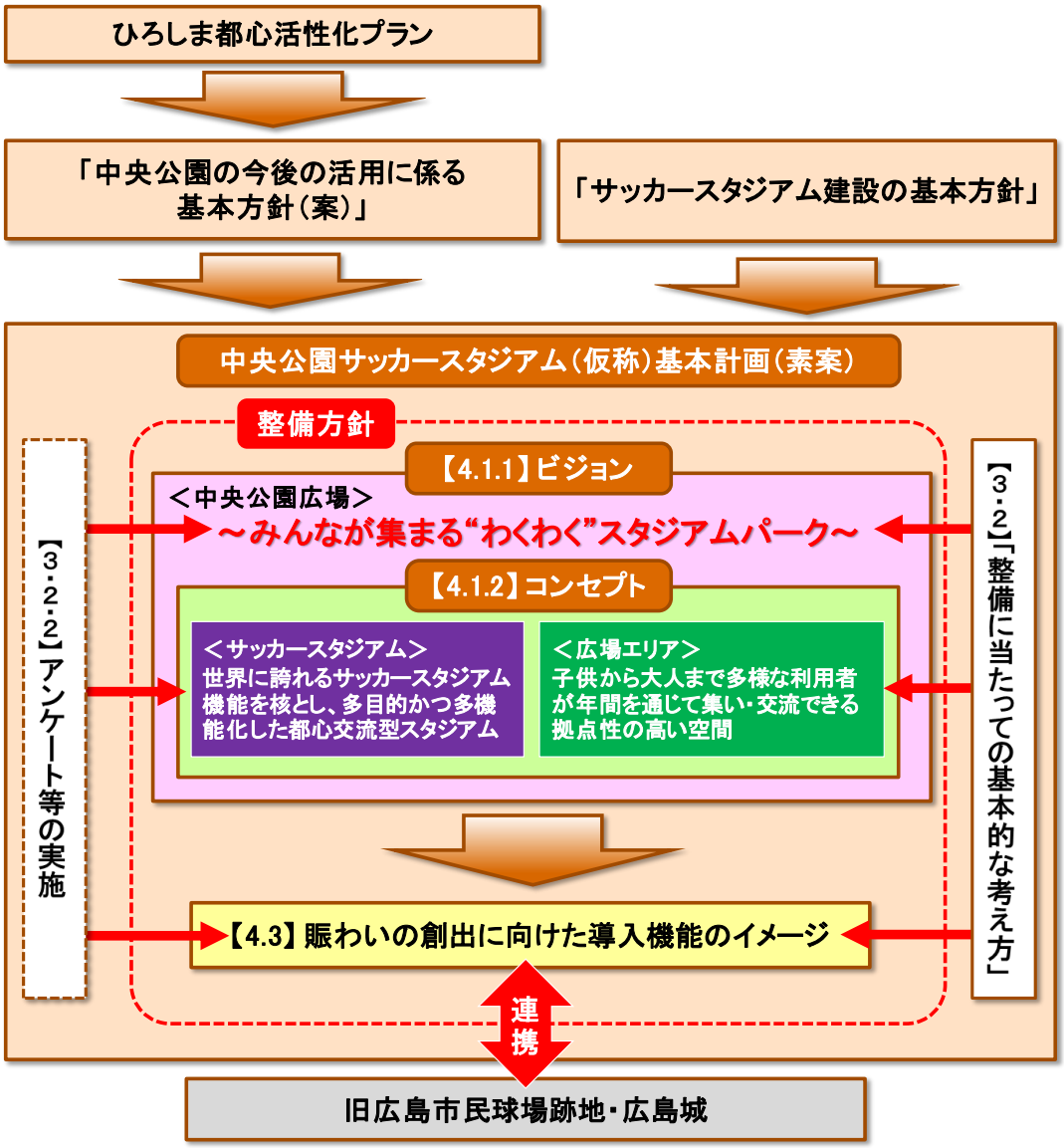
～一年中楽しめる都心のオアシス～

年間を通じての賑わいを創出し、エリア全体で県民・市民が楽しめる都心のオアシスを目指して、小さな子供から大人まで日常的に遊びやスポーツ等を楽しみ、健やかな生活づくりに寄与する機能、幅広い世代が日常的に集い、楽しめるとともに、各種イベントの開催等によりまた訪れたくなるような空間とする。

4.2 整備方針の体系

前節で設定した中央公園広場の目指す姿（ビジョン）及びサッカースタジアム・広場エリアの目標像（コンセプト）、次節の「4.3 賑わいの創出に向けた導入機能のイメージ」をまとめた整備方針と関連計画等の体系を示すと以下のとおりになる。

【整備方針の体系】



4.3 賑わいの創出に向けた導入機能のイメージ

賑わいの創出に向けた導入機能については、「3.2 整備に当たっての基本的な考え方」で示したように「広島県民・市民アンケート調査」、「サポーター等実態調査」、「サッカースタジアムについて意見を聴く会」（以下「アンケート等」という。）を通じて得た多くの方々の意見を参考にするとともに、国内外の先進的なサッカースタジアムについて調査を行い、賑わいの創出に向けて有効と思われる機能をまとめると以下のとおりである。

【導入機能イメージ】

【サッカースタジアム】

目標像	導入機能	機能イメージ		具体例
<多目的化> 多様なスポーツ・イベントを楽しめるスタジアム	多様なスポーツ・イベント等を開催し、年間を通じて賑わいの創出に寄与できる機能	スポーツ	様々なスポーツ観戦やスポーツイベントが開催できる機能	サッカー以外のスポーツ利用
				スポーツイベント
		イベント	ピッチやスタンドを使った、幅広い世代や家族が集い、楽しめるイベントが開催できる機能	コンサート/フェス
				パブリックビューイング
				フードフェス
				ピッチを使ったイベント
<多機能化> 幅広い世代の県民・市民等が楽しめるスタジアム	スポーツを楽しみ・学び、自らの健康づくりに寄与することのできる機能	スポーツ	広島のスポーツの歴史を学び、レガシーを共有できる機能	スポーツミュージアム
			次世代のスポーツを楽しめる機能	VR（エンターテイメント施設）
				eスポーツ
			幅広い世代が健康増進を図れる機能	フットサル
				フィットネスジム
				ランニングコース
				アーバンスポーツ
				３×３
		健康	幅広い世代が癒されくつろげる機能	温浴施設
				リラクゼーション施設（マッサージ等）
				クリニック
	幅広い世代が日常的に集い、賑わいやコミュニティが創出される機能	飲食・物販	カフェ・レストランなどの飲食・物販機能	カフェ
				レストラン
				ショップ
		コミュニティ	幅広い世代が集い学べる機能	多目的ホール/スタジオ
				図書館/自習室
			国際会議やビジネスなどに活用できるコンベンション機能	会議室（MICE、講義、パーティー等含む）

【広場エリア】

目標像	導入機能	機能イメージ		具体例
<複合化> 一年中楽しめる都心のオアシス	小さな子供から大人まで日常的に遊びやスポーツ等を楽しみ、健やかな生活づくりに寄与する機能	スポーツ	幅広い世代が健康増進を図れる機能	フットサル
				ランニングコース
				アーバンスポーツ
				３×３
		健康	幅広い世代が癒されくつろげる機能	温浴施設
				リラクゼーション施設（マッサージ等）
		子育て	子育て家庭が集い楽しめる機能	子どもの遊び場（遊具、アスレチック等）
				じゃぶじゃぶ池
	幅広い世代が日常的に集い、楽しめるとともに、各種イベントの開催等によりまた訪れたくなるような機能	飲食・物販	カフェ・レストランなどの飲食・物販機能	カフェ
				レストラン
				ショップ
				キッチンカー
		アウトドア	自然と食を楽しめる機能	デイキャンプ
				BBQ施設
		イベント	食や文化を楽しめるイベントが開催できる機能	コンサート/フェス
				パブリックビューイング
				フードフェス
				ビアガーデン
				フリマ/マルシェ

第５章　交通計画

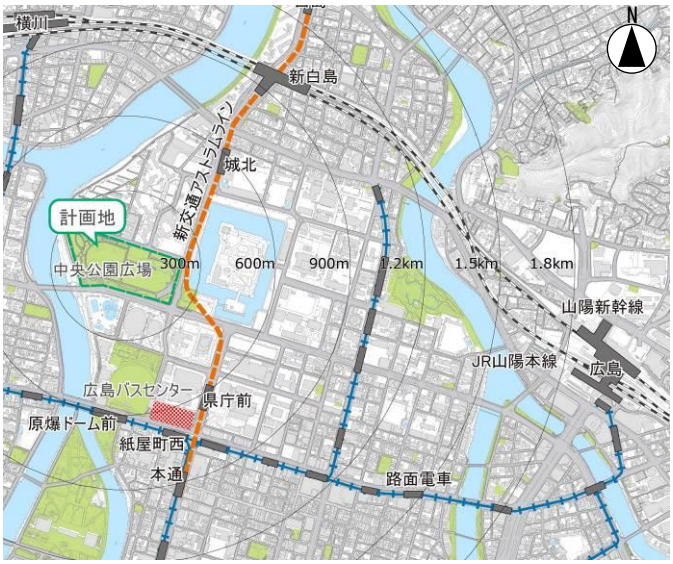
5.1 交通環境

1. 公共交通環境

本計画地周辺はＪＲ、新交通アストラムライン、路面電車、路線バス等の公共交通路線が各方面から集まる交通の要衝であり、各方面から多様な交通モード*14による来訪が可能な地域である。

近隣の乗降施設としては、ＪＲ1箇所、新交通アストラムライン4箇所、路面電車2箇所の他、路線バスのターミナル施設である広島バスセンターが存在する。

また、広島市外や広島県外の来訪者にとって広島市の陸の玄関となるJR広島駅からも、路面電車や路線バスの運行本数が充実しており、アクセス性が高い。



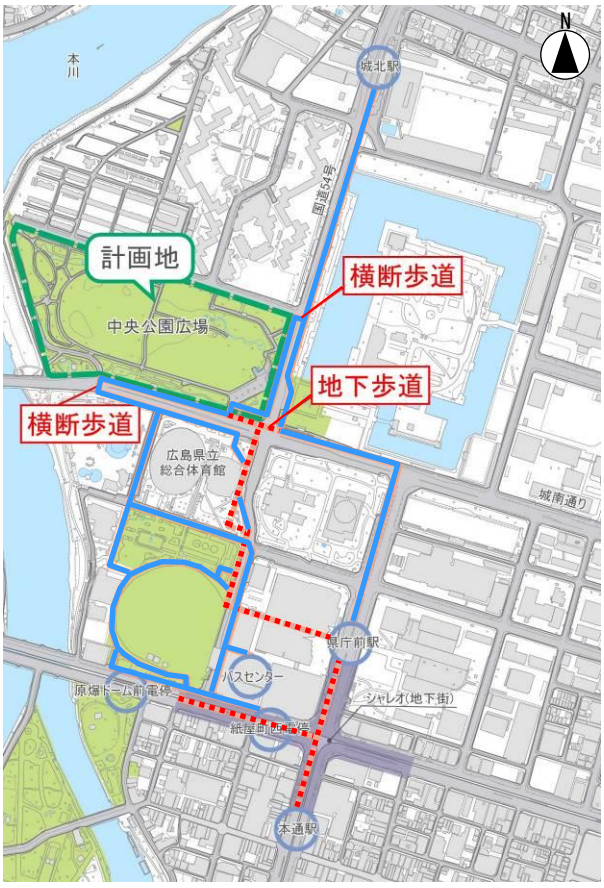
2. 歩行者交通環境

本計画地の南側には、公共交通機関の主要駅が集中しており、駅から計画地への歩行アクセスは幹線道路の歩道及び中央公園内の園路等の様々なルートがある。

しかし、本計画地は東側と南側を幹線道路である国道54号及び城南通りに囲まれており、東側及び南側からアクセスする際には当該道路の横断方法が課題となる。

現況では、本計画地の北東部及び南西部の横断歩道、もしくは南東部の地下歩道を利用する必要がある。

凡例
：アクセスルート(地上)
：　〃　(地下)



5.2 交通計画

1. 交通計画の検討

交通計画の策定にあたっては、「街なかスタジアム」であることを生かして、以下の方針に基づき、公共交通利用を基本とした計画を検討する。

歩行者
- 歩行者の集中する試合終了後に円滑に通行可能な歩道幅員を確保する。
- 生活交通、周辺環境に配慮したアクセスルートを設定する

自転車
- サッカースタジアム内に一定の駐輪場を確保しつつ、周辺駐輪場と連携して、自転車利用環境を整える

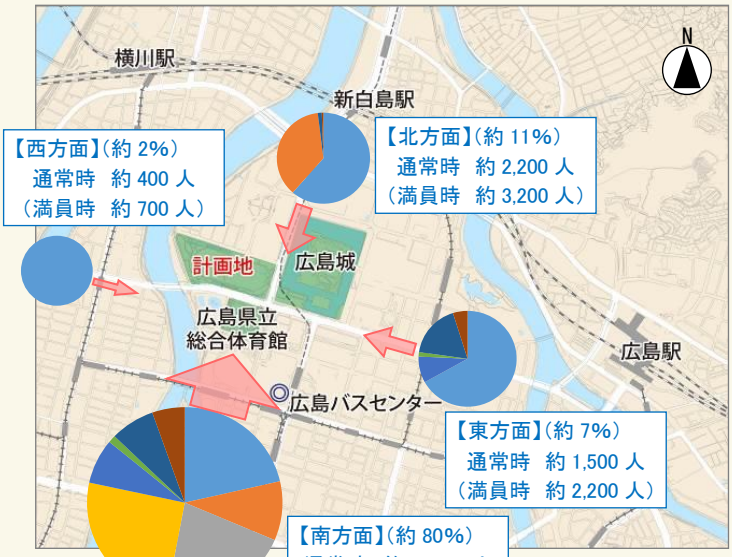
公共交通
- 既存公共交通機関との連携による、臨時便の運行等、円滑な輸送サービスの実現を目指す

自動車
- 試合開催日には、来場者用駐車場は設けず、自家用車の利用抑制と公共交通利用の促進を呼びかける

2. 交通需要予測

交通需要予測においては、エディオンスタジアムの過去 5 年間の来場者数実績による平均的な来場者数を基に、アンケート等の結果による新スタジアムの来場者数の増加や、開催日による変動幅を考慮して通常時の来場者数を 20,000 人(満員時 30,000 人)と設定する。この来場者の行動パターンを人流ビッグデータ*15により分析し、各方面別の交通需要予測を行った結果は以下のとおりとなる。

各方面別の交通需要予測



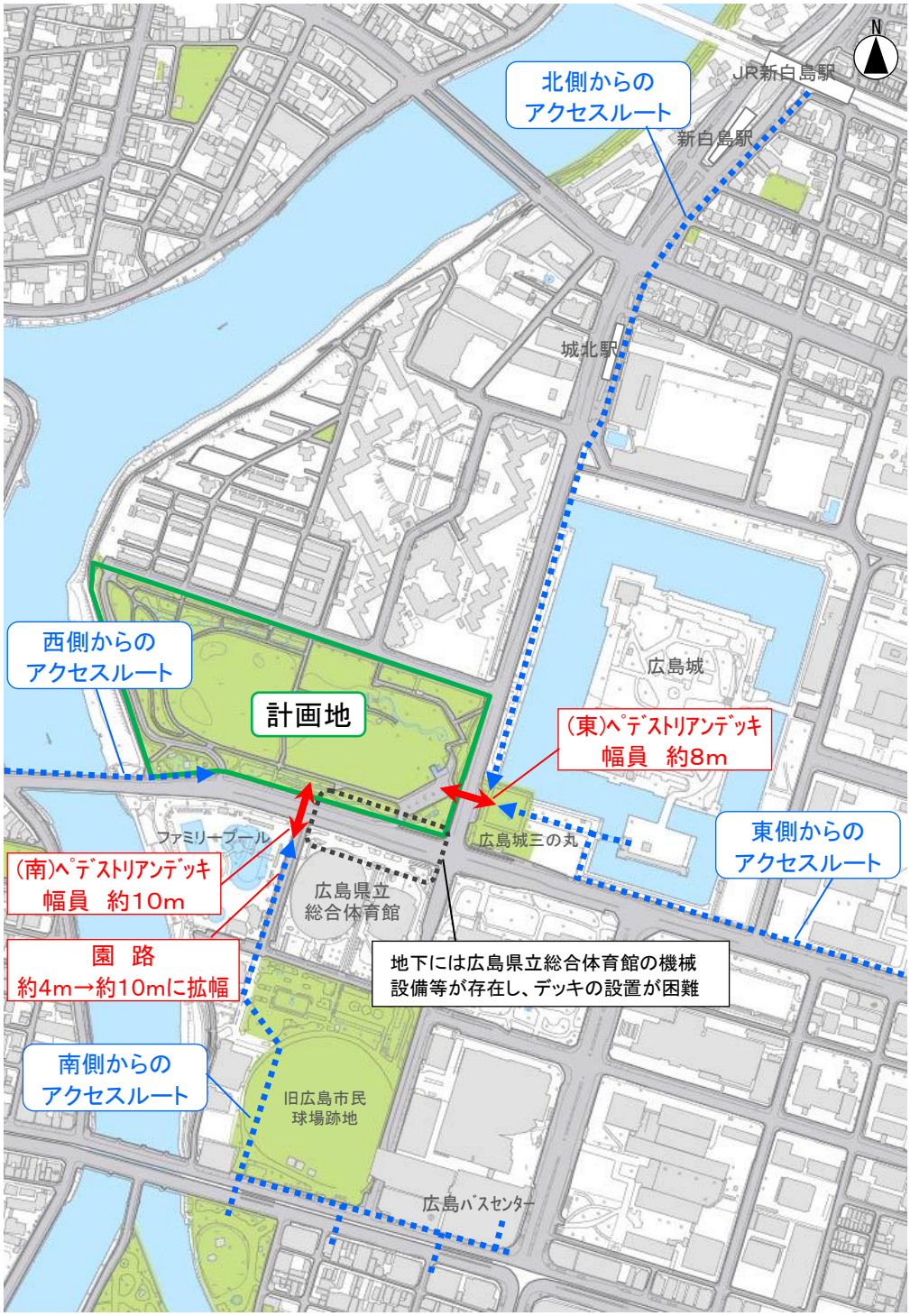
【来場者数の設定】
通常時 20,000 人
(満員時 30,000 人)

(凡例)
- 新幹線・JR
- アストラムライン
- 市内電車
- バス
- 自動車
- バイク
- 自転車
- 徒歩

3. 歩行者の交通計画

(1) アクセスルートの設定

本計画地までの主要なアクセスルートについては、生活交通、周辺環境に配慮したルートを設定する。具体的なルートについては、「中央公園の今後の活用に係る基本方針*10（案）」に示された「回遊性・アクセス性の向上に資するルート」とも整合を図り、北側からのアクセスルートは広島城の西側園路とし、南側からのアクセスルートはファミリープール東側の園路を設定する。



(2) ペデストリアンデッキ*16の配置

前項で設定したアクセスルートについては、隣接する幹線道路の横断方法が課題となることから、ペデストリアンデッキ*16を設置することとし、自動車交通と交錯しない安全で快適なアクセスルートを整備する。

ペデストリアンデッキ*16の配置について、南側は地下施設等が存在しないファミリープール東側の園路付近とし、東側は、広島城三の丸の賑わい施設（整備予定）との回遊性が高まるよう三の丸の噴水付近とする。

(3) 歩行者通路の幅員

(1)で設定したアクセスルートについては、試合開催日やイベント開催日の来場者数に対応できる歩行者通路の幅員を確保する。

試合開催日については、交通需要予測に基づき通常時の来場者数として設定した２万人が余裕を持って歩行可能な幅員とするとともに、満員時の３万人においても交通処理が可能な幅員とする必要がある。そのため、来場の約８割が集中する南側アクセスルートは約１０ｍの幅員を確保する。

また、東側ペデストリアンデッキ*16については、フードフェスティバルのようなイベント開催日には中央公園広場と広島城を行き来する歩行者が増えるため、その交通処理が可能な幅員として約８ｍの幅員を確保する。

4. 自転車の交通計画

試合開催日には、自転車による多数の来場が想定されることから、サッカースタジアム内または公園広場内に駐輪場を設置するとともに、周辺の既存駐輪場の活用及び臨時駐輪場の設置等も検討する。

5. 自動車の交通計画

スタジアム内には、駐車場附置義務条例に基づき一定数の駐車場を設けることとしているが、試合開催日には、スタジアム周辺に自動車交通が集中しないよう来場者用の駐車場は設けず自家用車の利用抑制を図るとともに、公共交通利用の促進を呼びかける。また、送迎車の駐停車や違法駐車等についても、案内看板の設置や警備員による誘導などの対策を検討する。

団体バスについては、スタジアムに乗降場を確保するとともに、待機用駐車場の確保について検討する。

6. 公共交通の交通計画

アンケート等の結果から、サッカースタジアムが都心部に建設されることにより、現在のエディオンスタジアムと比べて公共交通を利用した来場者が増加することが想定される。

そのため、今後、交通事業者等との連携を図りながら、来場者が集中する公共交通の乗降場付近での歩行者の滞留や、一般の利用者が多い路線での輸送能力の検証を行い、必要に応じて増便等の公共交通利便性向上対策をサッカースタジアムの開業に向けて調整していく。

公共交通に関する検証事項



5.3 交通処理対策

1. 歩行者の誘導対策

(1) 南側からのアクセス

来場者の約８割が南側からのアクセスであるため、南側アクセスルートへの歩行者の誘導や交通需要の集中の緩和等が課題となることから、以下のような対策を行う。

(課題１) アクセスルートへの誘導	(対策案) ・警備員による誘導 ・誘導看板の配置 ・アクセスルートの装飾 ・アクセスルートの情報提供の充実
(課題２) 交通需要の集中緩和	(対策案) ・試合後のイベントの充実 ・スタジアム内外でのコンテンツの充実

【アクセスルートの装飾（イメージ）】



【試合後のイベント（イメージ）】



(2) 北側からのアクセス

来場者の約１割が、近隣に住宅地がある北側からアクセスするため、住宅地内への歩行者及び自動車の侵入やゴミ捨て等が課題となることから、以下のような対策を行う。

(課題１) アクセスルートへの誘導 （近隣住宅地等への進入防止）	(対策案) ・警備員による誘導 ・誘導看板の配置 ・アクセスルートの装飾 ・アクセスルートの情報提供の充実
(課題２) 住宅地内の通り抜け・駐車対策	(対策案) ・警備員による誘導 ・誘導看板の配置
(課題３) 住宅地内のごみ放置対策	(対策案) ・巡回清掃員の配置

※具体的な対策については、周辺住民の意見を聴きながら検討する。

【スタジアム外のゴミ回収（磐田）】



【警備員による誘導（大宮）】



2. 自家用車の利用抑制対策

(1)試合開催日の駐車場利用制限

自家用車の利用抑制対策として、試合開催日にはサッカースタジアム内の駐車場は一般開放せず、公共交通利用の促進を呼びかける。

(2)公共交通の利用促進

公共交通の利用促進を図るため、以下のような対策を検討する。

①割引やサービス提供等のインセンティブ付与

公共交通で来場した人を対象に運賃の割引や、サービス提供等のインセンティブを付与するなど、公共交通の利用促進策を検討する。

②パーク・アンド・ライド

アンケート等の結果より、来場手段を自家用車から公共交通に変更するため条件として、駅付近等でのパーク・アンド・ライド駐車場の設置希望の回答が多かったことから、パーク・アンド・ライドの実施について検討する。

第６章　施設整備計画

6.1 サッカースタジアムの配置計画

1. サッカースタジアムの配置計画

(1)　向き

スタジアム標準*17で求められている南北方向を基本とし、敷地形状を考慮した向きとする。

(2)　配置

中央公園広場のいずれの場所に配置しても一定程度の整備効果が見込めるが、検討を行った結果、下表のとおり、中央公園の回遊性、歩行者の交通処理、地下埋設物への影響等において西側配置に優位性があることから、サッカースタジアムを中央公園広場の西側に配置する計画とする。

中央公園の回遊性	東側を広場とすることにより、平和記念公園～原爆ドーム～旧広島市民球場跡地～広島城の回遊ルートの形成が容易 また、サッカースタジアムを西側に配置することで、隣接する基町環境護岸との往来も想定でき、新たな回遊ルートの形成が可能
歩行者の交通処理	東側の地下道からスタジアムを離すことにより、南側アクセスルートへの歩行者誘導が容易となり、幅員が狭い地下道への歩行者の流入の抑制が可能
地下埋設物への影響	西側には近世武家屋敷跡はあるものの、東側にある広島城西の出丸の馬出しなどのような歴史的価値が高い遺構が発見される可能性が低い。 また、西側配置の場合、水道・下水道等の地下埋設物への影響がない。

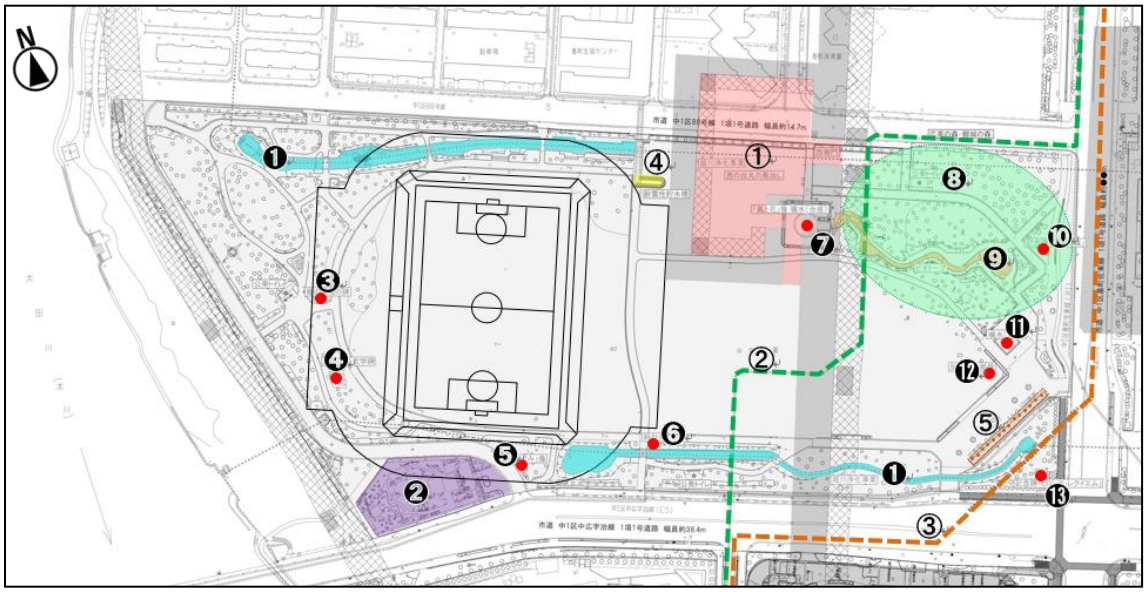


(3)　モニュメント等への影響

西側配置とすることで、移設等が必要となるモニュメント等については、現在の場所に配置することとなった背景等を十分に考慮した上で対応を行う。

なお、主な地下埋設物及びモニュメント等は下図のとおり。

図：主な地下埋設物等



＜地下埋設物＞

①西の出丸の馬出し
②水道管（直径 80cm）
③下水道管（直径 100cm）
④耐震性貯水槽
⑤マンホールトイレ（災害用トイレ、20 箇所）

＜モニュメント等＞

❶堀川
❷渝華園
❸緑の羽根の碑
❹太田洋子文学碑
❺「針のめぐみ」像
❻時計塔
❼「風と花」像・噴水（台座）
❽広高の森・鯉城の森
❾ビオトープ
❿記念碑「広高の森」
⓫噴水「飛翔」
⓬加藤友三郎像
⓭記念碑「ヒロシマ・レクイエム」

6.2 サッカースタジアムの整備計画

1. サッカースタジアム整備の方向性

最新技術を駆使したワールドワイドなサッカースタジアムとして、J リーグなどプロサッカーはもとより、日本代表戦などの国際試合、天皇杯などの国内大会の開催のほか、県民・市民にも広く開放されたスタジアムとして、アマチュア（小中高校生等）などの大会の決勝戦等での利用ができるものとする。

なお、整備にあたっては、都市公園法*7 等の関係法令を遵守するほか、以下の基準を満たすものとする。

・公益財団法人　日本サッカー協会(JFA)「スタジアム標準*17」のクラス 1
・公益財団法人　日本プロサッカーリーグ「J リーグスタジアム基準*18」の J1 基準
・アジアサッカー連盟「AFC スタジアム規則*2」





＜多様な利用について＞

ア　多目的利用

サッカー以外のスポーツ、ピッチやコンコースを使ったスポーツ教室、その他多くの人が楽しむことのできるイベントができるものとする。

【利用の一例】

・サッカー以外のスポーツ（ラグビー、アメフト　等）
・スポーツ利用（スポーツ教室、ヨガ教室　等）
・イベント等その他利用（コンサート、フェス、ウェディング　等）



ピッチでのウェディング
トゥイッケナムスタジアム(イングランド)HPより
https://www.twickenhamstadium.com/pitch-side-and-players-tunnel



ピッチでのスポーツイベント
メルクール・シュピール・アレナ(ドイツ)HPより
https://www.merkur-spiel-arena.de/impressionen/bildergalerie/

イ　多機能利用

スタンド下等の空間を活用し、飲食や広島らしさを発信する多機能スペースの導入により賑わいや交流の拠点となるよう計画する。

スポーツを楽しみ・学ぶ機能の導入により、健康づくりに寄与するものとなるよう計画する。

【利用の一例】

・賑わいや交流の拠点・情報発信（レストラン、カフェ、多目的スペース（平和学習、広島のものづくり体験など）等）
・健康を育む場・広島の歴史やスポーツを学べる場（ﾗﾝﾆﾝｸﾞｽﾃｰｼｮﾝ、ｽﾎﾟｰﾂ体験できるｴﾝﾀｰﾃｲﾝﾒﾝﾄ施設、ｽﾎﾟｰﾂﾐｭｰｼﾞｱﾑ等）

※なお、上記ア、イの【利用の一例】はあくまで参考として示すものです。



スタジアム内のレストラン
豊田スタジアム HPより
https://www.toyota-stadium.co.jp/restaurant/



ミュージアム
（オランダ）

ウ　防災施設としての利用

・災害時に避難場所とすることや、帰宅困難者の受け入れ等にも対応可能な施設とする。



帰宅困難者対策訓練の様子
「首都直下地震帰宅困難者等対策協議会・一時滞在施設の確保及び運営のガイドライン」より

【導入機能イメージ】（再掲）

【サッカースタジアム】

目標像	導入機能	機能イメージ		具体例
<多目的化> 多様なスポーツ・イベントを楽しめるスタジアム	多様なスポーツ・イベント等を開催し、年間を通じて賑わいの創出に寄与できる機能	スポーツ	様々なスポーツ観戦やスポーツイベントが開催できる機能	サッカー以外のスポーツ利用
				スポーツイベント
		イベント	ピッチやスタンドを使った、幅広い世代や家族が集い、楽しめるイベントが開催できる機能	コンサート/フェス
				パブリックビューイング
				フードフェス
				ピッチを使ったイベント
<多機能化> 幅広い世代の県民・市民等が楽しめるスタジアム	スポーツを楽しみ・学び、自らの健康づくりに寄与することのできる機能	スポーツ	広島のスポーツの歴史を学び、レガシーを共有できる機能	スポーツミュージアム
			次世代のスポーツを楽しめる機能	VR（エンターテイメント施設）
				eスポーツ
			幅広い世代が健康増進を図れる機能	フットサル
				フィットネスジム
				ランニングコース
				アーバンスポーツ
				３×３
		健康	幅広い世代が癒されくつろげる機能	温浴施設
				リラクゼーション施設（マッサージ等）
				クリニック
	幅広い世代が日常的に集い、賑わいやコミュニティが創出される機能	飲食・物販	カフェ・レストランなどの飲食・物販機能	カフェ
				レストラン
				ショップ
		コミュニティ	幅広い世代が集い学べる機能	多目的ホール/スタジオ
				図書館/自習室
			国際会議やビジネスなどに活用できるコンベンション機能	会議室（MICE、講義、パーティー等含む）

2. サッカースタジアムの建築計画

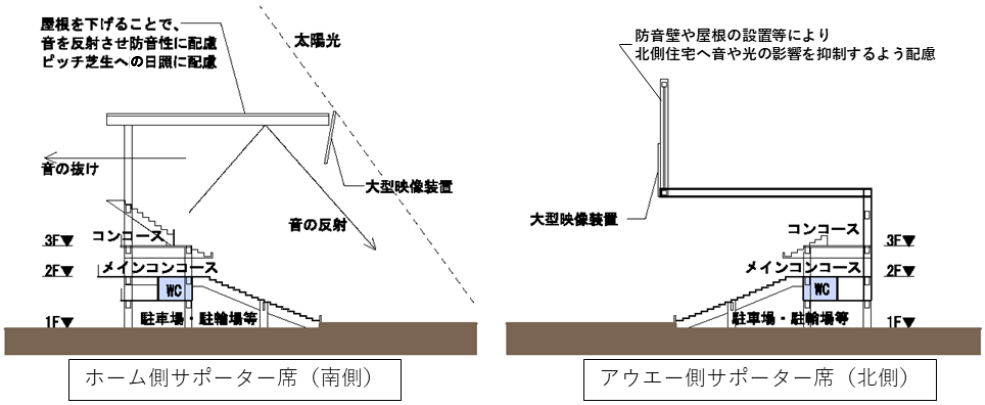
(1)　フィールド

・トップレベルの選手がパフォーマンスを十分に発揮できることに加え、多目的利用も想定し、日照、通風、地温、散水など芝生の育成等に配慮し、適切に管理された天然芝又はハイブリッド芝*[19]のピッチとする。

・サッカーでの利用がメインとなるが、ラグビーなど他のスポーツにも対応ができる計画とする。

(2) 屋根

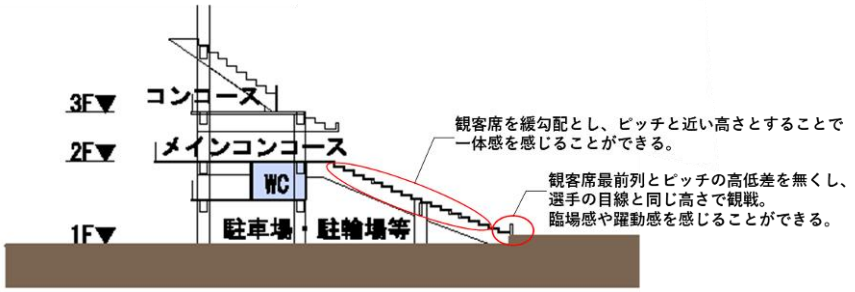
・観客が濡れずに観戦できる環境を提供するため、全ての観客席を覆う計画とする。
・芝生の育成に必要な日照が確保されるよう配慮する。
・騒音や照明が隣接する住宅等に与える影響をできるだけ抑えられる計画とする。



（参考図）基本断面案

(3) 観客席

・収容人数３万人規模の収容力を確保する。
・メインスタンドは西側、バックスタンドは東側とする。
・ホーム側サポーター席は南側とする。
・スタンドとピッチが近接するなど、臨場感、躍動感や一体感を感じる観戦環境を確保する。
（緩勾配のスタンドやゼロタッチ*20など）
・すべての観客席からピッチ全体が見えるよう、スタンドの勾配等に配慮する。
・全席背もたれ及びドリンクホルダー付きの個席とするとともに、ゆったりとした座席とするなどにより、快適な観戦環境を確保する。



（参考図）スタンド断面案

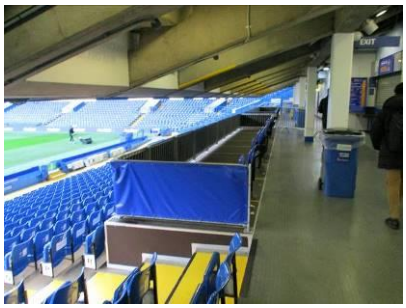


ゼロタッチ*20の観客席
（イングランド）



緩勾配のスタンド
（イングランド）

・車いす席は各種法令等による必要な席数を適切な場所に確保する。また、前の観客が立っても車いす利用者からピッチが十分に見える計画とする。
・障害のある方など多様な観客に配慮した客席、専用の観戦環境を整備できる計画とする。（欧州スタジアムに見られるセンサリールーム*21など）



車いす席（イングランド）



センサリールーム*21
（ワトフォードFC（イングランド）HPより
https://www.watfordfc.com/club/sensory-room-guided-tour）

・多世代の観客が楽しめる多様な観戦スタイルを想定し、選手をより身近に感じられるシートを設けるなど、バリエーションあるシートを整備できる計画とする。
・平常時だけでなく、非常時においても円滑な入退出を可能とするための十分な移動空間や経路を確保する。

(4) コンコース

・混雑時にも安全に移動できる幅員を確保したコンコースとする。
・離席時もプレイを見逃さない、ピッチへの視線が確保されたコンコースとするとともに、ピッチ周りを１周できるものとする。
・コンコース周りには、観客等の利便性を向上させる飲食・物販店舗等を配置するとともに、ハーフタイム時等の集中的な利用に円滑に対応できる最新のICTの積極的な活用に対応できる計画とする。（キャッシュレス決済等）
・飲食・物販用の車両等が配置できる計画とする。
・試合のない日も利用できるよう、セキュリティに配慮したコンコースとする。
・外部のペデストリアンデッキ*16からのアクセス性や、自然災害や火災発生時等に、観客等の迅速かつ安全な避難に配慮したコンコースとする。



ピッチへの視線が確保されたコンコース
（アメリカ）



コンコース周りの飲食店
（イングランド）

(5) ラウンジ


ＶＩＰラウンジ(イングランド)

・国際試合やプロリーグにおけるVVIPなどホスピタリティ*13やセキュリティの面で特別な配慮が必要な観客等のための諸室を整備できる計画とする。
・VIP席、VIPラウンジやビジネスシート等は先進事例を参考としながら、ホスピタリティ*13の向上に加え、収益を最大限確保できるよう整備できる計画とする。
・各種ラウンジは、VIPやスポンサー等企業向けだけでなく、一般利用者向けなどを整備できる計画とする。
・試合のない日にも会議室やパーティー会場として利用ができる計画とする。

(6) 多機能化*4施設

・コンコースや広場エリアと一体的に利用ができる等、年間を通じて賑わい形成にも貢献できるよう、日常的に利用しやすく、開かれた空間として整備する。

(7) 駐車場・駐輪場

・駐車場は、附置義務台数を確保し、この一部を施設関係者の駐車場として利用する。
・試合日等におけるチーム関係やメディア関係の大型車両用の区画を確保する。
・団体バスの乗降場を確保する。
・試合非開催時には一般開放される有料駐車場とする。
・試合開催時は周辺への交通に影響が生じないよう、一般開放せず、施設関係者等のみが利用できるよう計画する。
・車椅子用駐車区画は、ゲートにアクセスしやすい場所に十分な台数を設置する。
・緊急車両用の駐車場を確保し、必要な動線を確保する。
・駐輪場は、施設利用者用に十分な台数を整備するとともに、試合開催日には、一般用駐車場も、観客用駐輪場として利用できる計画とする。

(8) 管理・運営諸室

・選手・監督や運営・進行・管理に関わる関係者の諸室など、サッカーの試合の開催に必要な諸室を確保する。特にＪリーグの開催に必要な諸室、国際試合の開催に必要な諸室の確保・配置に十分に配慮する。
・様々な利用者にとって快適な施設となるよう十分な諸室を整備できる計画とする。
・開催を想定するその他のスポーツやイベントの規模・内容に応じた運営に対応が可能な計画とする。
・開催される試合の中継、放映や各種メディア等の対応における利用のしやすさに配慮した計画とする。
・試合やイベントが安定的に開催できるよう十分な機能を備え、効率的な運用が可能となるよう設備関連諸室を計画する。

(9) 防災施設

・災害時において、避難者や帰宅困難者の受け入れのため、観客席やコンコース、駐車場などの屋外施設だけでなく、屋内の利用開放も想定し、管理・運営諸室やVIP関係の諸室など必要なスペースを確保する。

・防災拠点となることを想定し、十分な備蓄物資の保管ができるよう、防災備蓄倉庫などのスペースを確保する。
・ライフラインの確保のため、既存の耐震性貯水槽を活用する。




防災倉庫や耐震性貯水槽の活用（神戸ウイングスタジアム広報誌より）

(10)　その他諸室

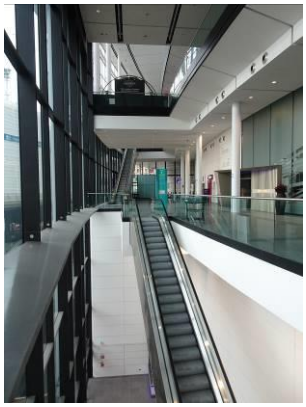
・子育て世帯が利用しやすいよう、ベビーカー置き場や授乳室を適切に設置する。
・トイレは適切な配置計画とするとともに、ワンウェイ（入口と出口を分離）とするなど、ハーフタイムなどの混雑緩和に十分配慮する。

3. サッカースタジアム内の動線計画とセキュリティ

(1) 動線計画

ア　共通事項

・歩行者と車両の動線を分離し、安全性を確保する。
・明確でわかりやすいゾーニングと動線の確保に配慮する。
・観客・公園利用者と施設関係者やサービス・搬入の動線は交差することのないよう十分に配慮する。
・高齢者や障害者等が容易に上下の移動ができるよう、適切な位置に適切な台数のエレベーターやエスカレーターを設置する。
・VIP ルームや各種ラウンジには独立してアクセスができるよう、個別のエントランスや動線を確保する。



エスカレーター（イングランド）

＜緊急動線＞

・自然災害や火災発生時等に、観客や施設関係者等が迅速かつ安全に避難できる避難路及び動線を確保する。
・緊急時には、城南通り以外の道路からも緊急車両がアクセスできる動線を確保するとともに、医務室やピッチ内まで迅速なアクセスが可能な経路を確保する。

イ　観客・公園利用者動線

＜試合日＞

・主たる移動手段を徒歩と想定し、ペデストリアンデッキ*16からのアクセスをメイン動線とする。
・基町環境護岸や広場エリアからも容易にメインコンコースへアクセスできるよう計画する。
・ホームサポーターとアウエーサポーターの動線の分離に配慮する。
・車いす利用者が容易に車いす席へアクセスできるよう、バリアフリー動線を確保する。

・試合観戦者と公園利用者の動線分離に配慮する。

＜非試合日＞

・広場エリアから基町環境護岸まで往来できる、回遊性のある動線確保に配慮する。

・公園利用者が、スタジアム内駐車場から広場エリアへ容易にアクセスできる動線を確保する。

ウ　施設関係者動線

・施設関係者は車両でのアクセスを想定し、城南通りからのアクセスをメイン動線とする。

・駐車場から各諸室へ容易にアクセスできる動線を確保する。

・選手、審判、メディア、運営等の各諸室における動線の分離に配慮する。

エ　サービス・搬入動線

・サービス・搬入等は車両でのアクセスを想定し、城南通りからのアクセスをメイン動線とする。

・各室へのサービス・搬入動線を確保する。

・試合開催時だけでなく、イベント開催などにも対応できるよう大型車両のピッチ内へのサービス・搬入動線を確保する。

・車両がメインコンコースにアクセスできる動線を確保する。

(2)　セキュリティ

・試合開催日、試合のない日等に関わらず、施設関係者エリアはセキュリティラインを形成する。

・最新の ICT の活用等により、高度なセキュリティ環境の形成を図る。

＜試合日＞

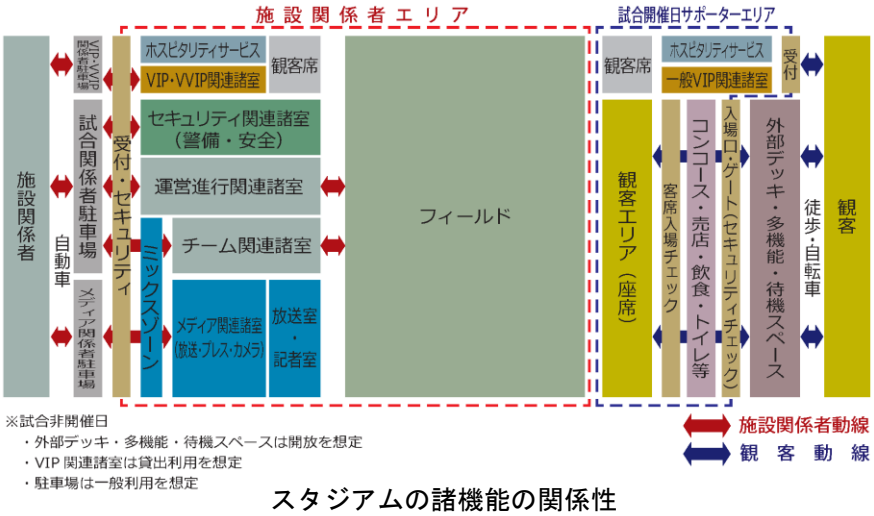
・入場ゲートラインを設定し、試合観戦者と公園等の一般利用者とのエリアを明確に分離する。

・メインコンコースに入場ゲートラインを設定し、チケットコントロールを行う。

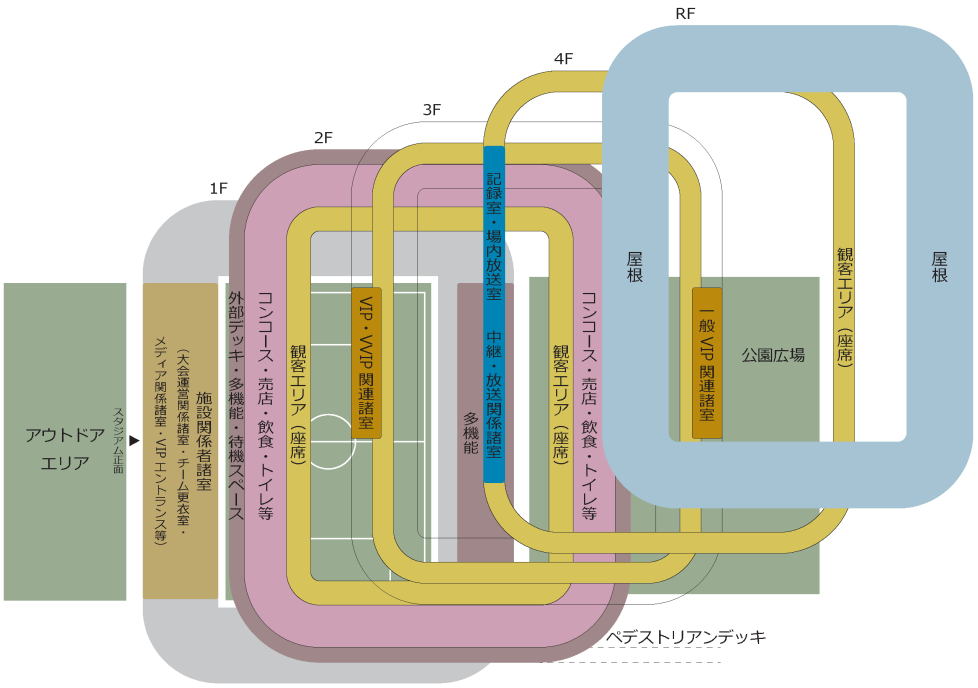
＜非試合日＞

・多機能化施設*4の日常的な利用に配慮したセキュリティエリアを設定する。

・施設利用者がいない場合は、コンコース内施設は利用できないようにセキュリティエリアを設定する。



スタジアムの諸機能の関係性
（機能配置と主な動線）



スタジアムの諸機能の配置イメージ

（参考）主となる階構成の一例

- ４階：観戦エリア、運営エリア、メディアエリア等
- ３階：VIP・VVIP エリア等
- ２階：メインコンコース、観戦エリア、多機能施設エリア、トイレ、売店等
- １階：施設管理者エリア、多機能施設エリア、駐車場・駐輪場エリア、設備エリア等

4. その他建築計画の配慮事項

(1)　管理運営

・安全快適な試合環境・観戦環境を作り出すとともに、運営がしやすい施設計画とする。

・メンテナンスのしやすさや耐候性、耐久性のある素材を用いる等、ライフサイクルコストの抑制に配慮した持続性の高い施設とする。

・将来的な客席バリエーションの変更等に柔軟に対応できるよう配慮した施設計画とする。

・ピッチへの日射や通風を確保し、芝の育成環境確保や管理のしやすさに配慮する。

(2)　外観デザイン

・敷地特性を活かし、サンフレッチェ広島のチーム名の由来と関係の深い広島城との融和性、川沿いの景観にも考慮する等、周辺環境との調和に配慮しつつ、広島の新たなシンボルとなるサッカースタジアムにふさわしいシンボリックな外観とする。

(3)　地域貢献

・広島県が有する豊富な森林資源を有効活用するため、県産材を積極的に活用し、県産材の利用モデルとなるようなスタジアムとする。



木材を使用したスタジアム
（京都スタジアム）

(4)　周辺環境

・日影規制を遵守した高さの抑制だけでなく、周辺環境に配慮し、圧迫感のない建築とする。
・周辺地域や隣接する市営基町住宅に対し、スタジアムから発生する音や光を低減させるため、全ての観客席を屋根で覆う、北側の屋根に防音壁を設ける、建物外周に遮音性の高い扉を設ける、ホーム側スタンドを南側とする、など十分に配慮した計画とする。
・指向性のあるスピーカーの使用等により周辺地域への音漏れがないよう最大限配慮する。
・スタジアム躯体や屋根の構造を工夫するなどにより、騒音に関する法令を遵守する。



指向性のあるスピーカー
（オランダ）



遮音性の高い扉
（ノエビアスタジアム神戸）

(5)　ユニバーサルデザイン*11

・車いす利用者、視覚・聴覚・知的・精神・発達障害者、子供連れ利用者、高齢者、外国人等、誰もが利用しやすい施設とするため、バリアフリー動線、ピクトグラムや多国言語表記等を用いたサイン計画、色彩計画、音声案内、点字誘導、多機能トイレ設備の充実など、ユニバーサルデザイン*11に十分配慮した計画とする。

(6)　環境配慮

・自然換気、自然通風、十分な断熱性能を確保する等、省エネルギー・省資源を実現し、環境負荷の低減及びライフサイクルコストの削減を図る。

5. サッカースタジアムの設備計画

(1)　電気設備

・試合・イベントの開催において高水準な演出が可能となる環境が整備できる計画とする。
・施設利用者への十分なホスピタリティ*13を実現するとともに、管理・運営者にも使いやすい設備計画とする。
・平常時だけでなく、災害時においても信頼性・安全性が高い設備計画とする。

ア　照明

・トップクラスのスポーツの演出に適した優れた照明環境とすると共に、演出効果を高めるよう映像装置と統合されたシステムが整備できる計画とする。

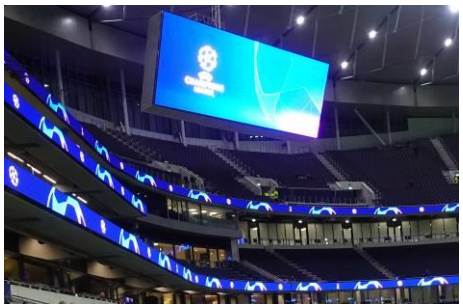
イ　音響

・全てのエリアで明瞭に聞える場内放送システムを備える計画とする。

ウ　映像装置

・すべての観客から視認可能な位置に、映像及び文字を表示できる大型映像装置を設置し、これを補完する機能としてサイネージや帯状映像装置等を設置できる計画とする。

・大型映像装置によりすべての客席に迫力のある映像を提供することに加えて、サイネージや帯状映像装置を連携させ、演出効果や情報発信機能を高めることのできる計画とする。



大型映像装置や帯状映像装置
（イングランド）

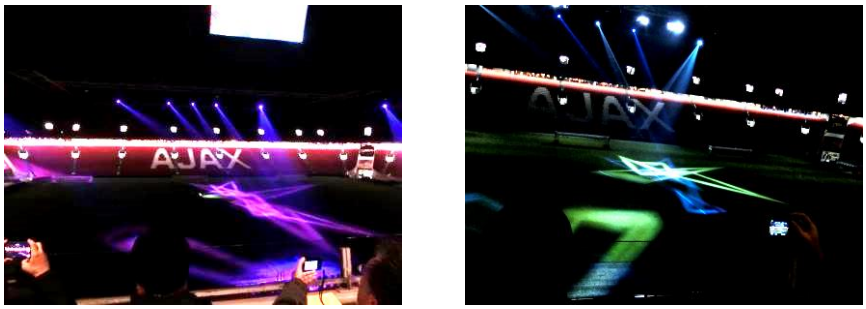


サイネージ
（吹田スタジアム）

エ　競技照明・競技音響・映像統合システム

・試合やイベントにおいて光と音の競演など演出効果を高めるために、照明・音響・映像の各設備を統合・連携させることを可能とするシステムを構築できる計画とする。

・持ち込み機材への対応など、イベント開催時に操作できる機材の設置場所を確保し、機材の制御や電源送りに必要な配線及び入出力盤等を設置できる計画とする。



照明と音響の競合による演出（オランダ）

オ　受配電設備

・試合や多様なイベントの運営に十分な規模の電力供給設備を最適な位置に配置する。

・大規模なイベントの開催に必要な電源供給については電源車の配備などにも配慮する。

カ　情報通信設備

・施設内全てのエリアにおいて、Wi-Fi を利用できる計画とする。

・チームや選手または試合の情報が検索できる等のスタジアム内アプリなどを活用し、全ての観客が楽しめる環境を整備できる計画とする。

・上記を含め、本施設全体の運営・運用システムに必要な機能を有する、最先端技術を効果的に活用できる拡張性、柔軟性を持った情報システム及び情報通信環境を整備できる計画とする。

キ　メディア関連設備

・記者室や会見室等メディアが利用するエリアに、電源、情報通信環境等の必要な要件を満たし、最新の設備にも対応した整備ができる計画とする。

・メディアの中継車の配備やケーブルの接続等にも配慮する。

ク　防災設備

・停電時にも利用できるよう、非常用発電機や蓄電設備等が設置できる計画とする。
・設備機器等の配置や設置する高さは、水害等の被害を回避することを考慮し整備する。
・施設利用者だけでなく、関係者などすべての人に安心、安全を提供する防災システムを整備する。
・中央監視装置を設置するなど、火災報知設備、非常放送設備等の防災設備と連携し施設全体の情報を統括するシステムを整備する。
・災害時に最適な避難誘導を行うことができるよう、大型映像装置、サイネージや帯状映像装置等と連携するなど、音と視覚により安全な防災システムを計画する。

(2)　機械設備

・広島の四季に応じた快適な観戦環境や、賑わい空間を快適な滞在空間とするために必要な空調環境を整備するとともに、衛生面や環境面に配慮した機械設備を導入する。

ア　空気調和設備

・気温・気候等の屋外条件の変化や人数・使用時間・作業内容等の変化等に対応できる空調システムとする。
・快適な室内環境確保やシックハウス対策のために必要な換気量を確保するとともに、空気清浄度を満たす換気システムとする。

イ　給排水衛生設備

・給水設備、給湯設備、排水設備、衛生器具設備等について、諸室に必要な環境に応じた適切な計画とする。
・観客が利用するトイレは、男性用、女性用に加え、身体障がい者や乳幼児利用に対応した多目的便所を十分設置するなど、適切な計画とする。

(3)　環境配慮

・省エネルギー・省資源を実現し、環境負荷の低減及びライフサイクルコストの削減を図る。
・太陽光発電など、自然エネルギー、再生可能エネルギーを活用できる設備の積極的な設置に対応できる計画とする。



屋根に太陽光発電設備
（パナソニック（株）公式サイト）

(4)　その他設備

・芝の育成環境に適した設備の導入に対応できる計画とする。



グローライト*22による芝の育成
（オランダ）



芝の散水設備

6. サッカースタジアムの構造計画

・まちなかにおけるシンボリックかつ大規模な構築物となることを意識し、景観にも配慮しながら、大規模施設建築物としての高性能の水準を備えた安全な構造とする。

(1) 耐震性能

・公共性の高い施設であることに加え、緊急避難所として対応できる施設であることから、「官庁施設の総合耐震計画基準及び同解説（国土交通省大臣官房営繕部監修）」に基づく耐震安全性の分類は「Ⅱ類」とし、人命の安全確保に加えて、大地震後も大きな補修をすることなく使用できる構造計画とする。

分類	耐震安全性の目標	対象とする施設
Ⅰ	大地震動後、構造体の補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて十分な機能確保が図られている。	・災害応急対策活動に必要な施設のうち特に重要な施設
Ⅱ	大地震動後、構造体の大きな補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて十分な機能確保が図られている。	・災害応急対策活動に必要な施設 ・避難所として位置づけられた施設
Ⅲ	大地震動後、構造体の部分的な損傷は生じるが、建築物全体の耐力低下は著しくないことを目標とし、人命の安全確保が図られている。	分類Ⅰ及びⅡ以外の施設

(2) 基礎構造

・地盤条件、施工性、経済性等を考慮して、沈下の生じない工法選定を行い、更に、地震時に液状化が発生した場合にも、杭が沈下や損傷を生じない構造とする。

(3) その他の性能

・強風時や大雪時などの安全性確保のほか、観戦における振動障害の防止等、サッカースタジアムの特性も考慮した構造計画とする。

・屋根は台風などの大きな風荷重に対して、構造耐力上の主要な部分が損傷せず、過大な変形を生じさせないよう十分な強度と変形性能を有する計画とする。

6.3 広場エリアの整備計画

1. 広場エリア整備の方向性

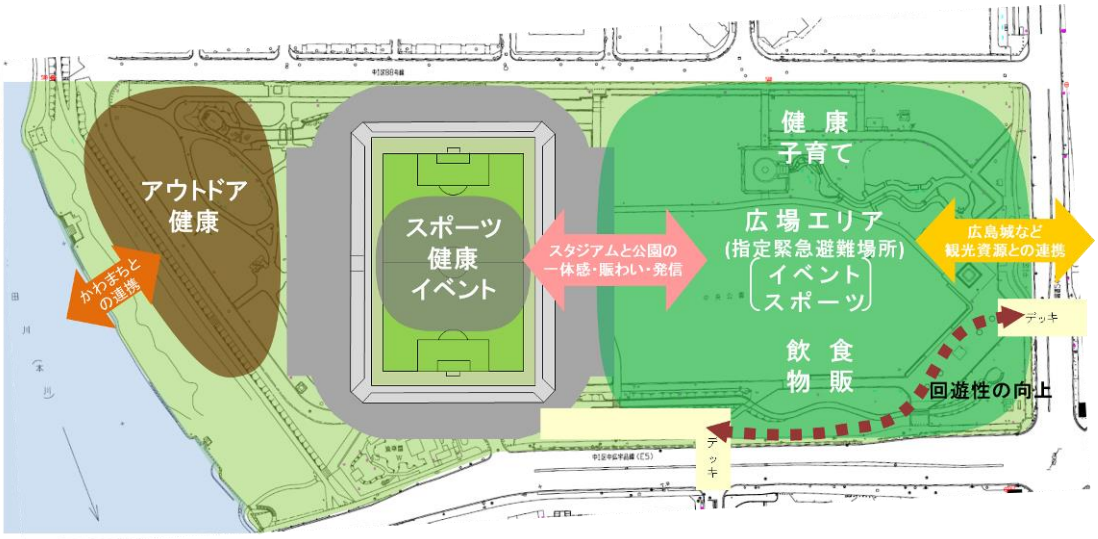
・広場エリアの整備にあたっては、サッカースタジアムの整備と連携を図るとともに、以下の考え方に基づいて整備を進める。

回遊性の向上	ペデストリアンデッキ*16の新設により平和記念公園～原爆ドーム～球場跡地～サッカースタジアム・広場エリア（複合化*5ゾーン）～広島城の回遊ルートを形成し、回遊性の向上を図る。
賑わい機能の導入	年間を通しての賑わい創出を目指し、エリア全体で市民が楽しめる都心のオアシスとなるよう、「4.1.2（2）広場エリアの目標像（コンセプト）」で示したような賑わい機能の導入を図る。
水辺空間の賑わいの創出	隣接する太田川基町環境護岸における「かわまちづくり」と連携し、水辺空間の賑わいの創出を図る。
広場機能、防災機能の維持	憩いの場や各種行事の開催場所などとしての機能や、地震、津波及び大規模な火災の際の指定緊急避難場所としての防災機能を維持する。
周辺住民への配慮	住宅地、小学校等が隣接することから、広場エリアの整備にあたっては周辺住民の生活環境の確保に努める。

2. 整備イメージ

前項の整備方針に基づいた整備イメージの一例を下記に示す。なお、今後、整備にあたっては、下図イメージにとらわれず、参画の可能性のある民間事業者の意見も取り入れながら、効果的な整備内容を検討する。

【整備イメージの一例】



【導入機能イメージ】（再掲）

【広場エリア】

目標像	導入機能	機能イメージ		具体例
<複合化> 一年中楽しめる都心のオアシス	小さな子供から大人まで日常的に遊びやスポーツ等を楽しみ、健やかな生活づくりに寄与する機能	スポーツ	幅広い世代が健康増進を図れる機能	フットサル
				ランニングコース
				アーバンスポーツ
				3×3
		健康	幅広い世代が癒されくつろげる機能	温浴施設
				リラクゼーション施設（マッサージ等）
		子育て	子育て家庭が集い楽しめる機能	子どもの遊び場（遊具、アスレチック等）
				じゃぶじゃぶ池
	幅広い世代が日常的に集い、楽しめるとともに、各種イベントの開催等によりまた訪れたくなるような機能	飲食・物販	カフェ・レストランなどの飲食・物販機能	カフェ
				レストラン
				ショップ
				キッチンカー
		アウトドア	自然と食を楽しめる機能	デイキャンプ
				BBQ施設
		イベント	食や文化を楽しめるイベントが開催できる機能	コンサート/フェス
				パブリックビューイング
				フードフェス
				ビアガーデン
				フリマ/マルシェ



多くの人が訪れる公園
（南池袋公園）



公園でのイベント
（大阪天王寺公園“てんしば”HPより
https://www.tennoji-park.jp/）

第７章　整備手法

7.1 整備手法

1. 基本的考え方

賑わいの効果を最大限に発揮する観点から、サッカースタジアムと広場エリアを一体的に整備する。

なお、一体的整備に当たっては、旧広島市民球場跡地及び広島城三の丸の整備検討など中央公園の他の事業と連携・調整を図るとともに、民間事業者との対話を十分に行う。

2. サッカースタジアム

サッカースタジアムの整備については、下表のとおり想定される事業手法を比較した結果、早期の供用開始を可能とし、性能発注により民間のノウハウ活用と効率的整備が両立できる設計・施工が一体となった「ＤＢ（デザイン・ビルド）方式*23」を基本とし、管理・運営の実施方法に応じて「ＤＢＯ（デザイン・ビルド・オペレート）方式*23」も視野に入れることとする。

		従来方式 （＋指定管理者*24）	DB方式*23 （＋指定管理者*24）	DBO方式*23	PFI方式
発注方式		設計・施工分離	設計・施工一括	設計・施工・運営一括	設計・施工・運営一括
事業方式		公設・公営(or 民営)	公設・公営(or 民営)	公設・民営	民設・民営
評価	事業期間	×分離発注のため、それぞれに発注手続きが必要なため、全体的に期間が長くなる。	○一括発注により、発注手続き期間を短縮可能。 ○設計段階から施工者のノウハウが反映され工期を短縮可能。	同　左	×PFI法に基づく事業者選定手続きに時間を要す。 ○設計段階から施工者のノウハウが反映され工期を短縮可能。
	事業費	△施工者のノウハウを反映できない。 △仕様発注のため、設計変更による事業費増のリスクあり。	○設計段階から施工者のノウハウが反映されコスト縮減可能。 ○性能発注のため、事業費増のリスクは少ない。	同　左	同　左
	管理・運営	△設計段階から運営者のノウハウを反映するには工夫が必要。 ○主たる施設利用者を指定管理者*24とする場合は調整が容易。	同　左	○設計段階から運営者のノウハウが反映されコスト縮減可能。 △主たる施設利用者と施設管理者が異なる場合、利害関係の調整が必要。	同　左

3. 広場エリア

広場エリアの整備については、Park-PFI*25等民間事業者の資金・ノウハウを活用した整備・管理手法により、公共の財政負担を軽減しつつ、公園利用者の利便性向上を図る。

7.2 概算事業費

当初約 190 億円(消費税抜き)と試算していた概算事業費について、建設事業者へのヒアリング結果等を考慮すると、サッカースタジアム建設及び関連整備に要する費用は約 220～260 億円(消費税込み)と想定される。これに埋蔵文化財発掘調査等の費用を加えると、概算事業費は下表のとおりとなる。

今後、令和 2 年度に実施予定のサッカースタジアム建設に係る設計・施工一括発注に向けた要求水準書や諸条件の整理の中で事業費を精査するとともに、コスト縮減に努める。

概算事業費	約 230～270 億円
整 備 内 容	・サッカースタジアム建設 ・関連整備 （公園再整備 ペデストリアンデッキ*16 整備） ・埋蔵文化財発掘調査等

※広場エリア等の賑わい施設については、民間事業者による整備とし、概算事業には含まない。

7.3 資金調達手法

サッカースタジアムの経済効果は、広島市ひいては広島県全体の活性化につながるものであることから、幅広く民間企業や個人から寄附を募るほか、国の交付金の最大限の活用や使用料収入等を償還財源とする市債の発行などにより資金の確保を図るとともに、広島市及び広島県が協力してその他の資金確保にも努める。

企業や個人からの寄附金	企業については、寄附の意向が示されている㈱エディオン、マツダ㈱から寄附を受けるとともに、広島商工会議所及び他の経済団体を通じて地元企業等からの寄附を募る。また、企業版ふるさと納税制度*26 の活用についても検討する。 また、個人については、サンフレッチェ広島等の協力も得ながら、ふるさと納税制度を活用して寄附を募るなど、寄附金の確保に努める。
国の交付金	「社会資本整備総合交付金」、「防災・安全交付金」等、国の補助金の最大限の活用に努める。
使用料収入等を償還財源とする市債の発行	サッカースタジアムの施設使用料等を償還財源とする市債を広島市が発行する。
地方公共団体による資金確保	その他、不足する部分については広島市及び広島県が協力して資金確保を図る。

第８章　管理・運営手法

8.1 管理・運営手法

サッカースタジアム及び広場エリアが、市民・県民等に親しまれ、賑わい・交流の場として利用され続けるためには、安定的・持続的な管理・運営を行う必要があることから、以下のような手法により管理・運営を行う。

1. サッカースタジアム

サッカースタジアムについては、民間事業者のノウハウ等の活用により管理・運営費を抑制できる指定管理者制度*24を採用することを基本とするとともに、サッカースタジアム内の賑わい創出など多機能利用に係る施設についても、民間事業者に管理及び運営を委ねることで収益の最大化を図る。なお、指定管理者の指定にあたっては、広島市民球場や国内のＪリーグホームスタジアム等の先行事例を参考に検討を進める。

2. 広場エリア

広場エリアについては、Park-PFI*25等の民間事業者による管理・運営手法を活用し、管理・運営の効率化を図る。

3. サッカースタジアムと広場エリアの連携的管理・運営

中央公園広場としての運営面での一体感醸成や柔軟で円滑な運営推進の観点から、サッカースタジアムの管理・運営者、広場エリアの管理・運営者に加え、周辺施設の管理・運営者であり、公園管理者である広島市など関係者によって構成される協議会を設置し、定期的な協議を行いながら一体的な運営に努める。

8.2 収支計画の基本的な考え方

収支計画の基本的な考え方は以下のとおりである。

なお、収支計画は、設計・施工の発注準備における民間事業者へのヒアリング結果等を踏まえた詳細な試算を基に作成する。

1. サッカースタジアム

サッカースタジアムの収支については、現在のエディオンスタジアムの実績や他都市の類似のサッカースタジアムの事例を踏まえると、年間のサッカーの試合数が少ないこと等から支出が収入を上回り、指定管理料が発生することが見込まれる。そのため、サッカースタジアムを多目的に利用するなどにより稼働率を向上させ施設利用料金収入を上げ、収支の改善を図る必要がある。

さらには、広告の掲示による収入、試合やイベントの開催と連動したコンコース等への店舗の設置や多機能化施設の使用料収入により、施設全体として黒字化を図り、指定管理料及び市債償還の財源の確保を目指す。

また、ネーミングライツについては、サッカースタジアム本体だけではなく、ゲートやシートなどの多様な設定を検討し、市債償還だけでなく、将来の修繕に備えて積立を行える財源を確保できるよう努める。

2. 広場エリア

広場エリアについては、Park-PFI*25等の民間事業者による整備・管理を行うことで、公園全体の維持管理に必要な財政負担の軽減を図るとともに、サッカースタジアムと一体的に機能し、相乗効果を生み出すことで収益性向上を図り黒字化を目指す。

第９章　事業スケジュール

事業スケジュールについては、「サッカースタジアム建設の基本方針」において示したスケジュールを基に、下記のスケジュールで事業を推進し、令和 6 年(2024 年)の開業を目指す。

【事業スケジュール】

令和元年度(2019 年度)	基本計画の策定
令和 2 年度(2020 年度)	設計・施工の発注準備、事業者選定
令和 2 年度(2020 年度)～令和 5 年度(2023 年度)	基本・実施設計、建設工事、開業準備

【参考】 基本計画の策定に向けた意見聴取等

「サッカースタジアム建設の基本方針」において、「サッカースタジアムは、サッカーのための施設にとどまらず、都心部の更なる活性化に寄与することが期待され、サッカースタジアムが都心部の再生の起爆剤となるよう、スタンド下を活用した賑わい機能の導入を進めるなど多機能化*4・複合化*5を図り、年間を通じて人が集まるサッカースタジアムとしていくとともに、若者を含む幅広い世代が楽しめるような施設とする。」としている。

この基本的な考え方を実現するためには、より多くの方々の意見に耳を傾ける必要があると考え、「サッカースタジアムについて意見を聴く会」、「広島県民・市民アンケート調査」、「サポーター等実態調査」、「民間事業者ヒアリング」を通じて多くの方々の意見を聴取するとともに、国内外の先進的なサッカースタジアムについて視察調査を行った。

1. サッカースタジアムについて意見を聴く会【資料編参照】

・開催日：①令和元年（2019 年）10 月 21 日（月）午後 2 時 30 分～4 時 30 分
　　②令和元年（2019 年）12 月 20 日（金）午後 2 時 00 分～3 時 40 分
・委　員：学識経験者、経済・観光分野の有識者、スポーツ分野の有識者、福祉分野の有識者、女性団体の代表者、若者代表者
・聴取事項：サッカースタジアムや中央公園広場に導入する賑わい機能、サッカー場としての機能・仕様等について

2. 広島県民・市民アンケート調査【資料編参照】

・開催日：令和元年（2019 年）10 月 1 日（火）～14 日（月・祝）
・調査対象：広島県民・市民等
・調査目的：サッカースタジアムと中央公園広場を、年間を通じて広島県民・市民など多くの人が訪れる、街なかにふさわしい魅力ある空間にしていくために、広島県民・市民のニーズ、観戦動向等を把握するため
・回答者数：9,517 人

※このほか、以下の実態調査を実施した。
・サポーター実態調査
・アウェイサポーター実態調査

3. 民間事業者ヒアリング

・実施期間：令和元年（2019 年）10 月～
・ヒアリング対象企業：飲食・物販、スポーツ・アウトドア、施設運営・管理、イベント関連、建設会社等
・主なヒアリング事項：①当該エリアでの事業展開の条件について
　　②本事業への関心について
　　③年間を通じた賑わいづくりの方策について

4. 欧州サッカースタジアム等視察【資料編参照】

・実施日：令和元年（2019 年）11 月 22 日（金）～30 日（土）

・視察先：オランダ（アムステルダム、ロッテルダム、アイントホーヘン）
ドイツ（デュッセルドルフ、レバークーゼン）
イギリス（ロンドン）

・視察対象：ヨハンクライフ・アレナ（アムステルダム）
スタディオン・フェイエノールト（ロッテルダム）
フィリップス・スタディオン（アイントホーヘン）
メルクール・シュピール・アレーナ［旧エスプリ・アレーナ］（デュッセルドルフ）
バイ・アレーナ（レバークーゼン）
ウエンブリー・スタジアム（ロンドン）
トッテナム・ホットスパー・スタジアム（ロンドン）
ロンドン・スタジアム（ロンドン）
エミレーツ・スタジアム（ロンドン）
スタンフォード・ブリッジ（ロンドン）
Ｏ２アリーナ（ロンドン）
グラナリー・スクエア（ロンドン）
ハイド・パーク（ロンドン）
ウインブルドン・ローンテニスクラブ・センターコート（ロンドン）

5. 国内サッカースタジアム等視察

・実施日：平成 28 年度（2016 年度）～令和元年度（2019 年度）

・視察先： ノエビアスタジアム神戸（兵庫県神戸市）
パナソニックスタジアム吹田（大阪府吹田市）
埼玉スタジアム２００２（埼玉県さいたま市）
ユアテックスタジアム仙台（宮城県仙台市）
Kobo パーク宮城（宮城県仙台市）
ゼビオアリーナ仙台（宮城県仙台市）
ミクニワールドスタジアム北九州（福岡県北九州市）
横浜スタジアム（神奈川県横浜市）
カシマサッカースタジアム（茨城県鹿嶋市）
京都スタジアム（京都府亀岡市）
大阪城公園／ＪＯ－ＴＥＲＡＣＥ　ＯＳＡＫＡ（大阪府大阪市）
天王寺公園／てんしば（大阪府大阪市）
名城公園／トナリノ（愛知県名古屋市）

用語集

＊	用語	概要
1	Jリーグクラブライセンス制度	公益社団法人日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）が 2013 年シーズンから導入した制度（2012 年 2 月 1 日より施行）であり、競技基準（育成部門、選手との契約締結など）、施設基準（スタジアムの仕様など）、人事体制など 5 つの審査基準を設け、基準を満たしたチームにライセンスが付与される仕組み。
2	AFC スタジアム規則	アジアサッカー連盟が定めた、サッカースタジアムの整備にあたってのガイドライン。
3	多目的化	サッカースタジアムにおいて、本来目的であるサッカー場としての利用だけでなく、スポーツイベントや他競技に活用すること。
4	多機能化	サッカースタジアム機能だけでなく、カフェやレストランなどの飲食機能やビジネスミーティングのための会議室など、本来機能以外の機能を導入すること。
5	複合化	単なる公園としての機能だけでなく、複数の機能を果たすことにより、サッカースタジアムとの相乗効果を生み出すこと。
6	国有財産法	国が保有する財産の管理のために制定された法律であり、財産の取得、維持、保存、運用及び処分などについて示す法律。
7	都市公園法	都市公園の設置及び管理に関する基準等を定め都市公園の健全な発達を図り、公共の福祉の増進に資することを目的として制定され法律。
8	都市再生緊急整備地域	都市再生特別措置法の政令により定められ、都市開発事業などにより緊急かつ重点的に市街地整備を推進し都市再生の拠点となるべき地域。
9	ひろしま都心活性化プラン	広島の都心のまちづくりの方向性として、都心の将来像・目指す姿及び具体的な施策を示した計画。
10	中央公園の今後の活用に係る基本方針	「中央公園の今後の活用に係る検討状況（中間報告）」（平成 24 年 11 月）などを踏まえ、外国人観光客の誘導や民間活力の導入などの新たな視点を加味し、有識者会議における議論を経て、中央公園の今後の活用に係る基本方針を取りまとめたもの。
11	ユニバーサルデザイン	年齢や障害の有無、体格、性別、国籍などにかかわらず、誰でも使用可能なように設計すること。
12	官民連携手法	公共施設等の建設・維持管理・運営等を行政と民間が連携して行うことにより、民間の創意工夫等を活用し、財政資金の効率的使用や行政の効率化等を図る手法（例：デザインビルド、指定管理者制度、包括的民間委託、PFI（Private Finance Initiative）など）。
13	ホスピタリティ	「心からのもてなし」「深い思いやり」など。相手にとって心地よい行動やサービスのこと。
14	交通モード	自動車、自転車、電車、バスなどの交通手段のことを示す。
15	人流ビッグデータ	スマートホン等の情報端末より人の位置情報を取得したデータであり、計画地周辺の人の動きを把握することにより将来の交通需要予測等に活用できる。
16	ペデストリアンデッキ	広場と横断歩道橋の両機能を併せ持ち、高架で設置された歩行者専用通路をいう。
17	スタジアム標準	財団法人日本サッカー協会が定めた、サッカースタジアムの建設・改修にあたってのガイドライン。

＊	用語	概要
18	Jリーグスタジアム基準	Jリーグが定めた、サッカースタジアムの整備にあたっての基準。 クラブライセンスの付与に必要な審査基準の一つでもある。
19	ハイブリッド芝	天然芝に一定割合の人工芝を混ぜて敷設した芝。芝の耐久性が向上する。 Jリーグ基準では、人工芝の割合は5%以下と定めている。
20	ゼロタッチ	観客席の最前列の高さが、ピッチと同じレベルに設置されていること。選手との距離が近く、臨場感のある観戦ができる。
21	センサリールーム	感覚過敏の特徴がある子どもたちとその家族が安心して過ごすことができる部屋。大きな音や眩しい光、人混みなどが苦手な人でも、落ち着いた環境で観戦を楽しむことができる。
22	グローライト	スタジアムなどスポーツ施設において、屋根による日影等による天然芝の育成不足を改善するため、人工的に光を作り出し、芝を健全に育成するための照明設備。
23	DB方式 / DBO方式	従来の公共事業では、設計（Design）と施工（Build）を分離して発注するが、DB方式は設計及び施工を一体として発注する方式。DBO方式は設計、施工及び運営(Operate)を一体として発注する方式。
24	指定管理者制度	地方自治法の一部を改正する法律（平成15年9月）により、公の施設の管理を地方公共団体の出資法人、公共団体や公的団体に限って委託できる「管理委託制度」が廃止され、これらの団体に加え幅広く民間事業者を含んだ地方公共団体が指定するものが管理を代行する制度。
25	Park-PFI	平成29年の都市公園法（昭和31年法律第79号）の改正により設けられた制度。飲食店、売店等の公園利用者の利便の向上に資する公園施設（公募対象公園施設）の設置と、当該施設から生ずる収益を活用してその周辺の園路、広場等（特定公園施設）の整備、改修等を一体的に行う者を、公募により選定する「公募設置管理制度」（Park-PFI）。都市公園に民間の優良な投資を誘導し、公園管理者の財政負担を軽減しつつ、都市公園の質の向上、公園利用者の利便の向上を図ることが期待されている。
26	企業版ふるさと納税制度	国が認定した地方公共団体の地方創生プロジェクトに対し企業が寄附を行った場合に、寄附額の３割を法人関係税から税額控除する仕組み。これにより、損金算入による軽減効果（寄附額の約３割）と合わせて、最大で寄附額の約６割が軽減され、実質的な企業の負担は約４割まで圧縮される。地方税法における「主たる事務所又は事業所」が所在する地方公共団体への寄附は本制度の対象外である。なお、令和２年度の税制改正に伴い、税額控除の割合が現行の３割から６割に引き上げられ、実質的な企業の負担は約１割まで圧縮される予定。

資 料 編

- 中央公園の今後の活用に係る基本方針（案）
- サッカースタジアムについて意見を聴く会　関係資料
- 新しいサッカースタジアム・公園に関するアンケート集計結果
- 欧州サッカースタジアム等視察について

中央公園の今後の活用に係る基本方針（案）

【　目　次　】

		ページ
1	はじめに	1
2	中央公園の区域の変遷	2
3	中央公園内の公共施設等の現状	3
4	中央公園の特性と課題	4
5	活用に当たっての基本的な考え方	4
6	中央公園及び周辺地域を含めた空間づくりの方向性	6

令和２年１月

広　　島　　市

1　はじめに

中央公園は、戦災復興のシンボルとして整備され、都心における緑豊かな空間として本市の個性と魅力ある都市空間の形成に大きな役割を果たしてきた。

平成 23 年 10 月に設置した市民の各界各層から成る旧広島市民球場跡地委員会（以下「跡地委員会」という。）が旧広島市民球場跡地（以下「球場跡地」という。）の活用方策を議論する際の参考とするため、本市では、公園内に立地する各種公共施設の老朽化が進行し機能面でも課題を抱えているという問題認識の下、関係各課で構成する庁内検討会議による検討を経て、平成 24 年 11 月に「中央公園の今後の活用に係る検討状況（中間報告）」を公表している。

その後、球場跡地については、跡地委員会での議論を踏まえて、平成 25 年 3 月に「旧市民球場跡地の活用方策」を、平成 27 年 1 月にその具体的なイメージを示した「旧市民球場跡地の空間づくりのイメージ」を策定・公表している。

こうした中、平成 25 年 6 月にサッカースタジアムの建設に向けた検討が開始され、その検討過程で、球場跡地、中央公園広場等が建設候補地となっていたが、令和元年 5 月に「サッカースタジアム建設の基本方針」を策定し、スタジアムの建設場所を中央公園広場とすることが決定したことから、球場跡地を含む中央公園全体を見据えた活用方策について、具体的な検討を進められる状況となった。

こうした成果を踏まえつつ、増加傾向にある外国人観光客の誘導やＰａｒｋ－ＰＦＩ制度の創設などを契機とする民間活力の積極的な導入などの新たな視点を加味し、中央公園の今後の活用に係る有識者会議における議論を経て、中央公園の今後の活用に係る基本方針を取りまとめるものである。

中央公園に関する主な検討経緯

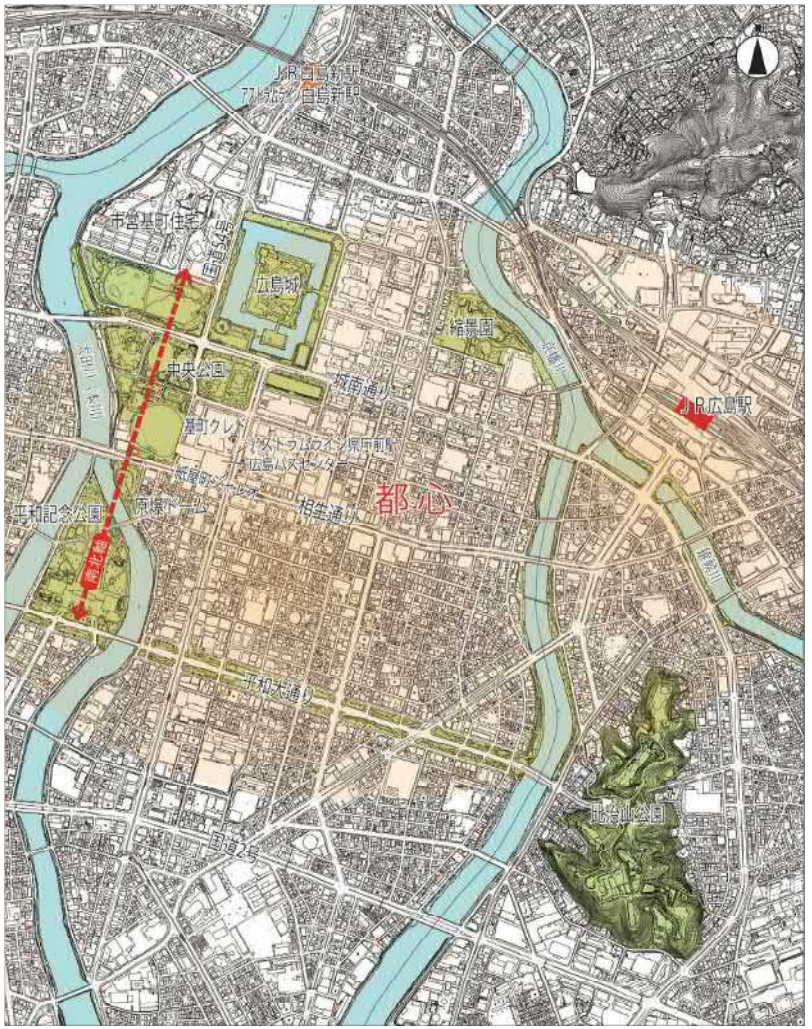
年　月		事　項
平成 23 年	10 月	跡地委員会を設置
平成 24 年	11 月	中央公園の今後の活用に係る検討状況（中間報告）を公表 （第 6 回跡地委員会に参考資料として配付）
平成 25 年	2 月	跡地委員会から市長に「旧広島市民球場跡地の活用について（最終報告）」を報告
	3 月	「旧市民球場跡地の活用方策」を策定
平成 27 年	1 月	「旧市民球場跡地の空間づくりのイメージ」を公表
令和元年	8 月	中央公園の今後の活用に係る有識者会議を設置

ひろしま都心活性化プランにおける位置付け

本市では、右記の位置図に示す広島駅周辺地区と紙屋町・八丁堀地区を都心の東西の核と位置付け、都市機能の集積・強化を図ることにより、相互に刺激し高め合う「楕円形の都心づくり」を進めています。

こうした取組をより一層推進し、都心を活性化するため、平成 29 年３月に広島県と連携し、「ひろしま都心活性化プラン」を策定しており、その「先導的な取組」として、「公共空間を活用したにぎわいづくり」を掲げ、「中央公園の在り方検討と旧広島市民球場跡地の活用」に取り組むこととしています。

都心における中央公園の位置

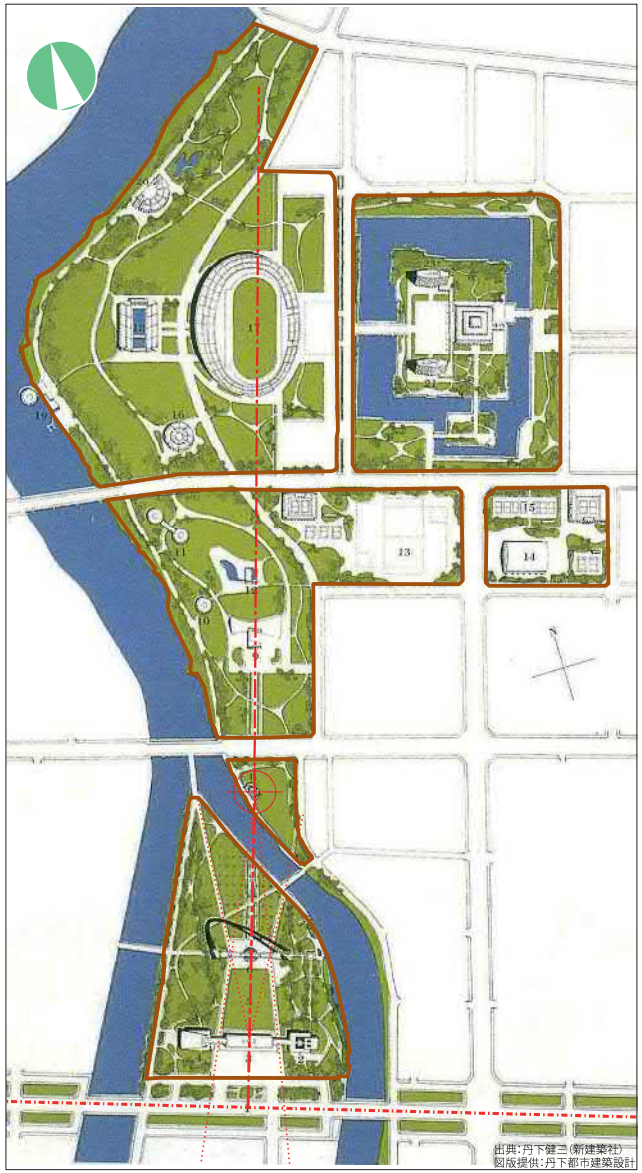


中央公園は中四国最大の商業業務地である紙屋町・八丁堀地区に隣接し、周辺には、世界文化遺産である原爆ドームを含む平和記念公園、広島バスセンターやアストラムライン県庁前駅などの交通施設、基町クレドや地下街シャレオなどの商業施設、基町住宅などが立地している。

また、平和記念公園及び比治山公園、平和大通りや河岸緑地などの緑地と、市内中心部を流れる多くの河川とともに、デルタ内における水と緑に囲まれた豊かな空間を形成している。

2　中央公園の区域の変遷

昭和25年　広島平和都市建設構想（案）（丹下健三氏）



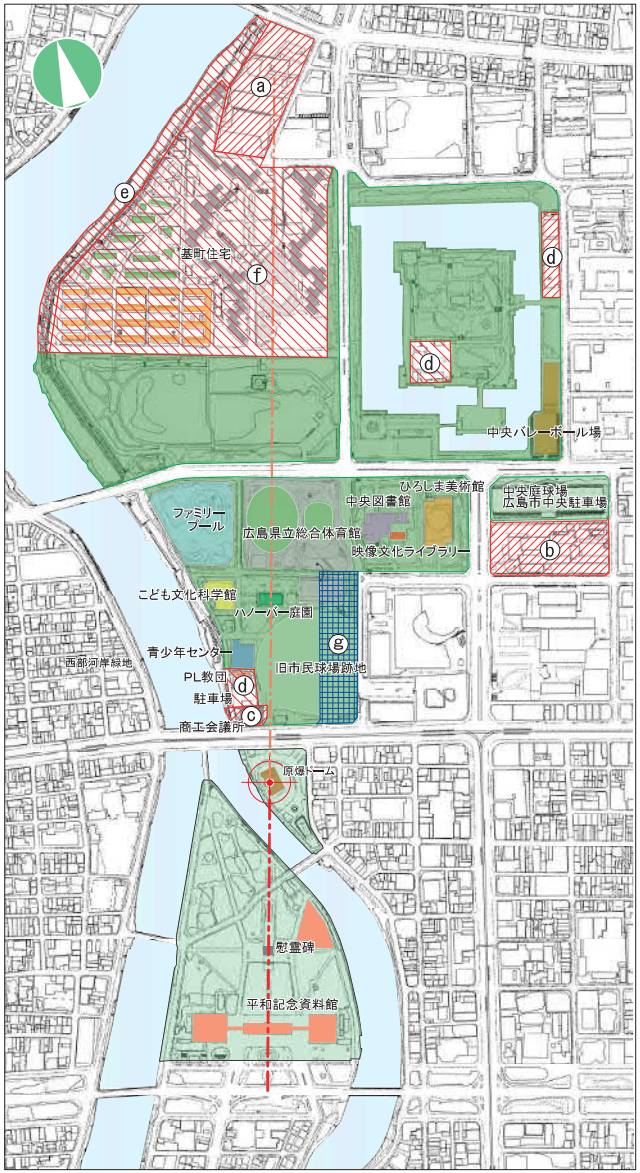
○　中央公園及び平和記念公園（図中□）は、昭和21年に都市計画決定され、昭和24年に公布・施行された「広島平和記念都市建設法」に基づき、国からの支援などを受けて整備された。

○　昭和24年に行われた平和記念公園及び記念館設計コンペで第１等に選ばれた丹下健三氏（コンペ時は丹下グループ）は、昭和25年に、平和記念公園だけでなく中央公園を含む一体の計画として「広島平和都市建設構想（案）」を発表した。

合計　約81ha

（平和記念公園を含む。）

現　在



○　昭和27年、公園区域から除外
　北側突端部の東側（図中ⓐ）
　広島市民病院敷地（図中ⓑ）
　商工会議所敷地（図中ⓒ）

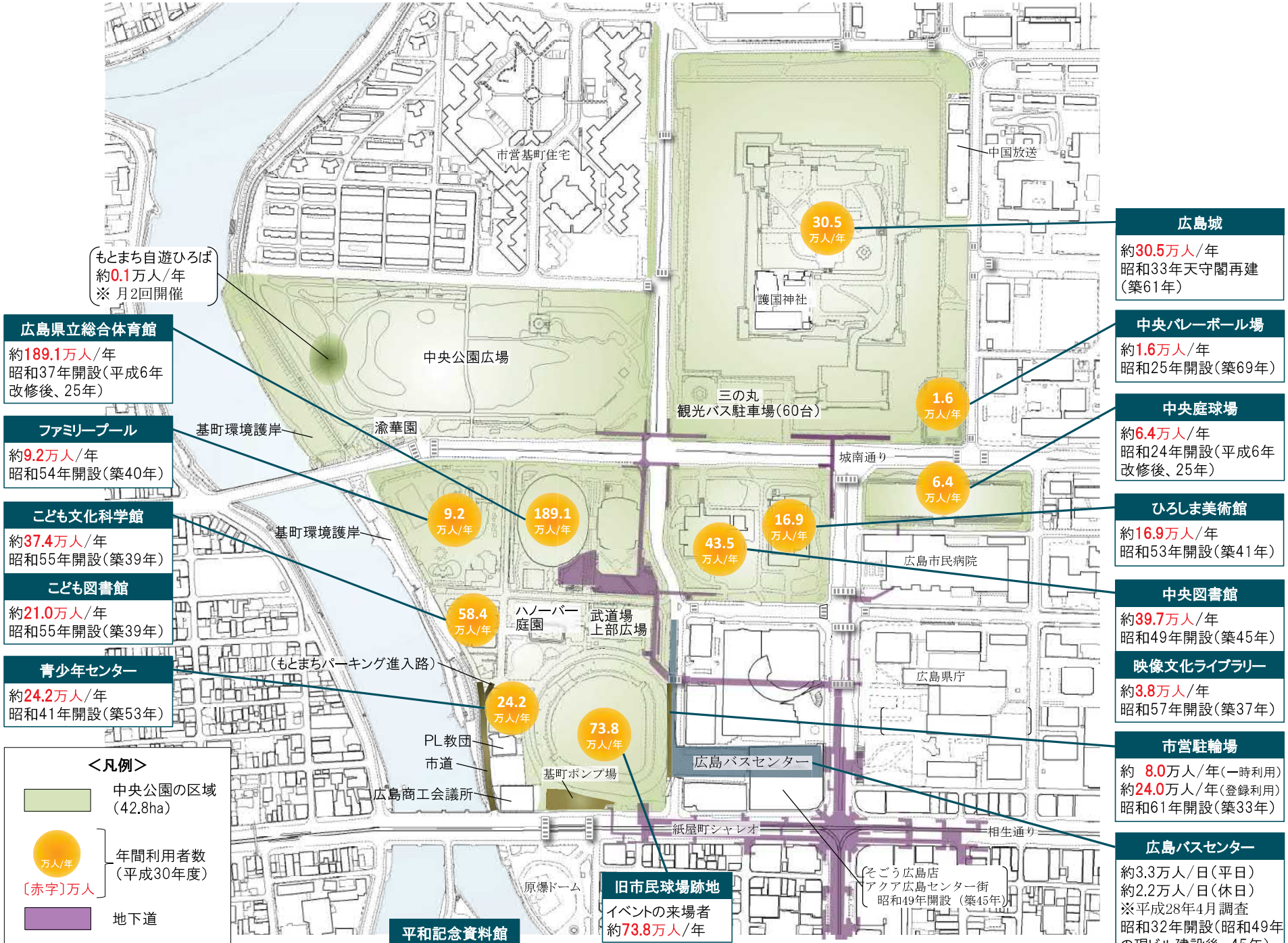
○　昭和31年、公園区域から除外
　護国神社及びＰＬ教団敷地（図中ⓓ）
　河岸緑地（図中ⓔ）
　基町住宅用地（図中ⓕ）

○　昭和32年、公園区域に編入
　現在の旧市民球場跡地東側（図中ⓖ）

合計　約55ha

（中央公園　約42.8ha
平和記念公園　約12.2ha）

3　中央公園内の公共施設等の現状



4　中央公園の特性と課題

(1) 特性

ア　都心に立地

・中四国最大の商業業務地である紙屋町・八丁堀地区に隣接している。

・平成 30 年 10 月に指定された紙屋町・八丁堀地区における都市再生緊急整備地域の区域内に含まれている（広島城を除く）。

・広島バスセンターやアストラムライン県庁前駅などに近接し、広域からもアクセスしやすい。

イ　広大な面積

約 42.8ha（平和記念公園を除く）もの広大な面積を有している。

ウ　復興のシンボル

広島城築城以来の都市づくりにおいて、重要な位置を占め、特に戦災復興において、美しい都市広島の再生のシンボルとなっている。

エ　水と緑の豊かな空間

中央公園は、平和記念公園及び比治山公園、平和大通りや河岸緑地などの緑地と、市内中心部を流れる多くの河川とともに、デルタ内における水と緑に囲まれた豊かな空間を形成している。

オ　多様な人々が集う交流空間

広島ならではの地域資源である広島城跡や文化施設、運動施設が数多く立地し、年間約 450 万人※もの人々の交流の場となっている。

※ 平成 30 年度における各施設の利用者及び旧市民球場跡地におけるイベントの来場者数の合計

(2) 課題

ア　国際平和文化都市にふさわしいにぎわいあふれる空間の創出

中央公園の持つ上記(1)の特性を生かして、くつろぎや文化を醸し出す要素を兼ね備えた国際平和文化都市の顔となるにぎわいの空間を創出し、広域的な集客の核となることが求められる。

イ　平和記念公園・中央公園全体の統一感の不足

・国有地である中央公園西側には民有施設が複数立地しており、戦災復興のシンボルとして平和記念公園に加え中央公園も含む一体の計画として策定した「広島平和都市建設構想（案）」の理念が十分に生かされていない状況にある。

・中央公園内の施設は、利用者や管理者がそれぞれ異なることもあいまって、各施設間の連携が不十分であり、利用者に配慮した運営が十分に行われているとは言い難い状況にある。

・平和記念公園と中央公園との間のみならず、中央公園内においても、幹線道路等で分断されており、全体としての一体的な利用を促す構造となっていない。

ウ　各施設の老朽化等への対応が必要

各施設は築後数十年が経過し、施設の老朽化や機能面における課題が生じており、上記ア及びイへの対応と合わせて適切に対応する必要がある。

5　活用に当たっての基本的な考え方

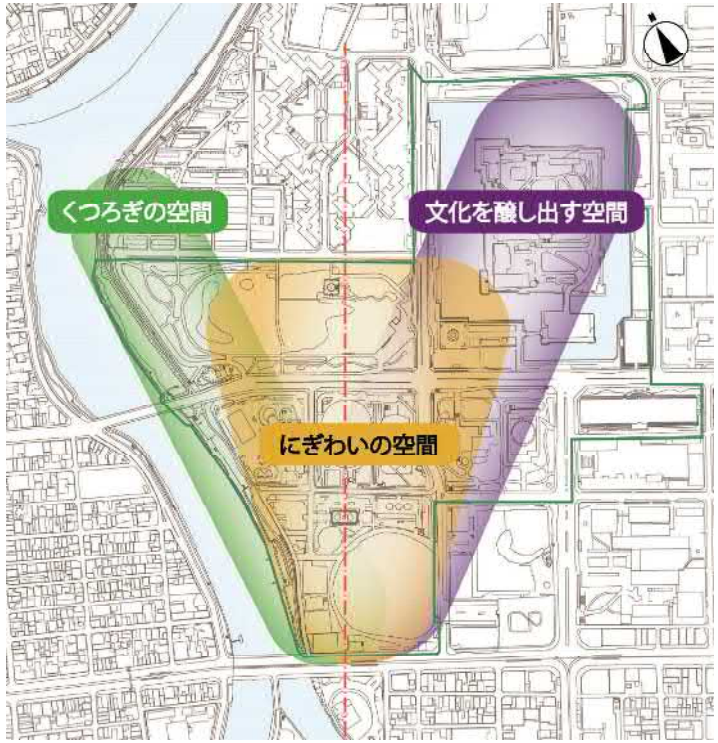
(1) 理念

中央公園は、原爆死没者を慰霊し世界恒久平和を祈念する場である平和記念公園とともに「広島平和記念都市建設法」に規定する「平和記念都市建設計画」に基づき復興のシンボルとして整備された都市公園であり、市民や国内外からの来訪者のレクリエーションや文化活動、交流の場として多くの人々に親しまれている。こうしたことを踏まえつつ、欧米の成熟した都市の類似例に見られるようなシンボル的な空間となるよう、3 つの空間特性を備えたものとする。

［にぎわいの空間］
若者を中心とする多くの市民や平和記念公園を訪れる観光客を引き付ける、魅力あるにぎわいの空間とする。

［くつろぎの空間］
広島の特性である「水」と「緑」を生かしながら、都心における花と緑にあふれたくつろぎの空間とする。

［文化を醸し出す空間］
国際平和文化都市の顔として、広島の歴史を踏まえつつ、質の高い文化・芸術・スポーツを満喫することができる、また発信する空間とする。



(2) 空間づくりに当たって留意すべきポイント

ア　中央公園内の各ゾーンにおける機能分担

球場跡地を多様なイベントが開催できる空間とすることとしているほか、中央公園広場に整備するサッカースタジアムは年間を通じて多くの人が訪れるよう、多機能・複合化を図ることとしている。また、隣接する広島城三の丸（現在の観光バス駐車場等）はにぎわい施設などの整備も視野に入れた新たな観光拠点として再構築することを検討しており、各ゾーンの機能分担が求められる（各ゾーンの方向性や取組については 6 頁参照）。

イ　民間活力を活用した公共空間の利活用

近年、都市公園の活用に当たっては、設計・整備から管理・運営までを一括して民間事業者に任せることで、公園の魅力を向上させるとともに経費を削減する事例が増えつつあり、また、平成 29 年度に都市公園法が改正され、Ｐａｒｋ-ＰＦＩ制度が創設されるなど、民間活力の活用を推進する仕組みが整えられていることから、中央公園においても、国有地であることを踏まえつつ、民間活力を最大限活用することが求められる。

ウ　周辺地域を含めたエリアマネジメントの推進

中央公園内の各施設が連携し、イベントの開催や各種広報に取り組むなど、一体的なマネジメントの推進が求められる。また、周辺の地権者などと連携し、エリアの価値を維持・向上させるエリアマネジメントの視点が求められる。

エ　外国人を中心とした観光客の増加

近年、外国人を中心に広島を訪れる観光客が増加していることから、観光サインの多言語化や案内表示の充実、無料公衆無線 LAN のエリア拡大といった環境整備に加えて、来訪者の滞在につながる夜間の観光メニューの開発など、新たな魅力づくりを通じたおもてなしの強化が求められる。

オ　ビジネス機会の形成支援

近年の昼間人口について、広島市全体ではほぼ横ばいである一方、中区では減少傾向にあることから、オフィスワーカーが安らげる質の高い憩いの場や若者が集うイベントの場を提供するなど、公園として都心のビジネス機会の形成に資する空間づくりが求められる。

カ　施設の再配置等

公園の魅力を向上させる観点から、各種公共施設の配置場所の見直しや合築、場合によっては市内の他の未利用地等への移転の可能性も含めた検討が求められる。

キ　回遊性・アクセス性の向上及び周辺地域とのネットワークの強化

ウォーカブルな歩行者動線の整備、幹線道路等による分断の解消、駐輪場の整備など、公園内の回遊性の向上のほか、広域からのアクセス手段となるＪＲやアストラムラインに加え、平和記念公園、紙屋町・八丁堀地区と中央公園を結ぶトライアングルの回遊ネットワークの形成に留意した公園へのアクセス性の向上が求められる。

また、都心全体の回遊性を高めるため、水上タクシーや観光ループバス、シェアサイクル等の活用による周辺地域とのネットワークの強化が求められる。

ク　防災機能や安全性の確保

近年、豪雨を始めとする災害が頻発化・激甚化しており、指定緊急避難場所としての機能を維持・向上することが求められる。また、子どもや女性、高齢者を始め誰もが安心して利用できる環境とすることが求められる。

ケ　原爆ドームを望む南北軸線上の眺望景観への配慮

平和記念資料館本館下から原爆死没者慰霊碑及び原爆ドームを眺望した際に、建物等が背景に入らないよう配慮することが求められる。

コ　埋蔵文化財への配慮

中央公園は、文化財保護法における周知の埋蔵文化財包蔵地（広島城跡）の範囲に含まれており、建築物等の建設に当たり、必要に応じて発掘調査などの対応が求められる。

(3) 空間づくりの進め方

ア　実践的かつ段階的な取組

中央公園内においては、サッカースタジアムの令和 6 年開業を目指すとともに、スタジアムの建設場所の決定に伴い、球場跡地についても、更なる利活用の早期実現を目指す段階を迎えており、これらの取組を本市のまちづくりの方向性に沿ったものとすることが重要である。

また、青少年センターや中央図書館等の公共施設が更新時期を迎えつつある。さらに、中央公園に隣接する広島商工会議所の移転が検討されているほか、仮に、広島バスセンターを現地で建て替えることとなった場合には、仮設のバス乗降場が必要となる。

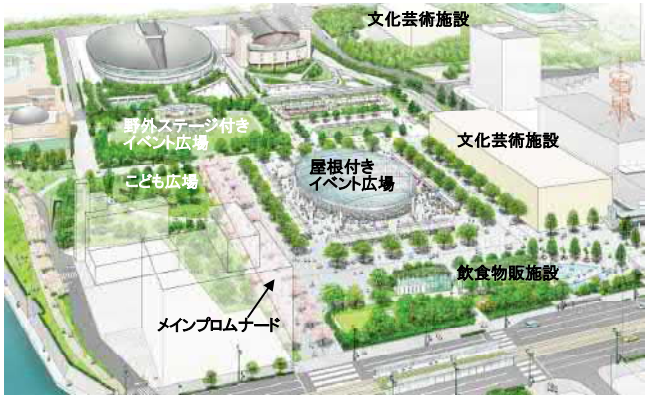
中央公園及び周辺地域を含めた空間づくりに当たっては、こうしたことを踏まえつつ、現在の施設配置を基本としたゾーニング及び施設の再配置等に関する取組、回遊性・アクセス性の向上に関する取組を整理し、各施設の事情に応じ、実践的かつ段階的に取り組むことができるようにする。

イ　球場跡地の空間づくり

球場跡地については、跡地委員会での議論を踏まえて策定・公表した「旧市民球場跡地の活用方策」（平成 25 年 3 月）や、その具体的なイメージを示した「旧市民球場跡地の空間づくりのイメージ」（平成 27 年 1 月）において、天候等に左右されることなくイベントが開催できるよう屋根を設置することや、よりイベントが開催されやすい環境整備を行うという観点からの対応も必要とされているところである。

こうしたこれまでの検討の成果を踏まえ、民間活力の活用を前提として、一定規模の屋根を備えたイベント広場を早期に整備する。

「旧市民球場跡地の空間づくりのイメージ（平成 27 年 1 月）」に示したイメージパース



6　中央公園及び周辺地域を含めた空間づくりの方向性

(1) ゾーニング及び施設の再配置等に関する取組

こどもゾーン

家族連れを中心に安心して訪れることができ、未来を担う子供が遊び学べるゾーンとする。

【中・長期的な取組】
・こども文化科学館、こども図書館の中央公園内への集約・多機能化及びファミリープールの機能移転を行う場合には、同敷地を活用した子供の遊び場空間の再整備を検討する（例：大型複合遊具やじゃぶじゃぶ池などの整備）。

スポーツ・レクリエーションゾーン

多様化するスポーツ需要に対応するとともに、多世代がアクティブに活動・交流できるゾーンとする。

【短期的な取組（概ね5年後まで）】
・広島の新たなシンボルとなるサッカースタジアムを中央公園広場に建設するとともに、年間を通じて多くの人が訪れる魅力ある空間となるよう、スタジアムのスタンド下等に効果的なにぎわい機能を導入する。

【中・長期的な取組】
・こどもゾーンにおける子供の遊び場空間の再整備と連携した空間活用を検討する。

歴史ゾーン

広島城の築城から始まった広島の歴史を肌で感じてもらうことができるよう、歴史的な雰囲気を醸し出す中心的なゾーンとする。

【短期的な取組（概ね5年後まで）】
・天守閣の耐震改修等を進めるとともに、展示機能の充実を検討する。
・三の丸を活用したにぎわい施設などの整備を検討する。
・中央バレーボール場を廃止し、観光バス駐車場（約60台）の整備を検討する。

イベント・集客ゾーン

平和記念公園や水辺空間と一体となった緑豊かなオープンスペースを中心としたゾーンとするとともに、年間を通じて多様なイベントが開催され、若者を中心とする多くの市民や平和記念公園を訪れる観光客を引き付けるにぎわいとおもてなしの心が感じられるゾーンとする。

【短期的な取組（概ね5年後まで）】
・市民や観光客等の来訪者が日常的に憩い、くつろぐことのできる花と緑にあふれる洗練されたオープンスペース及び、国際的な大会から日常的な行事まで大小様々なイベントが常時開催されるイベント広場を整備する。
・イベント参加者を始めとする来訪者が気軽に立ち寄れる飲食物販施設を誘致する（広島の「食」を楽しめるなど、おもてなしの機能を付加できるよう配慮）。

【中・長期的な取組】
・青少年センターの機能を中央公園内又は公園区域外に移転することを検討するとともに、西側民間施設の早期移転の実現を目指す。なお、青少年センターは中央公園内の公共施設の中でも特に築年数が経過していることから、その機能移転については、より幅広い年齢層の市民が多様な目的で利用できるような施設とする観点から、若者を含む幅広い世代が集うサッカースタジアムとの調和が図られるよう配慮しつつ、優先的に検討を行う。
・イベント・集客ゾーンと水辺空間を分断する基町パーキング（地下駐車場）のアクセス道路を地下化し、水辺空間と一体となった潤いのある空間の整備を検討する。
・文化芸術施設の整備に合わせて、イベント広場等の再構築や市営駐輪場の同施設内への移転等を検討する。

水辺空間

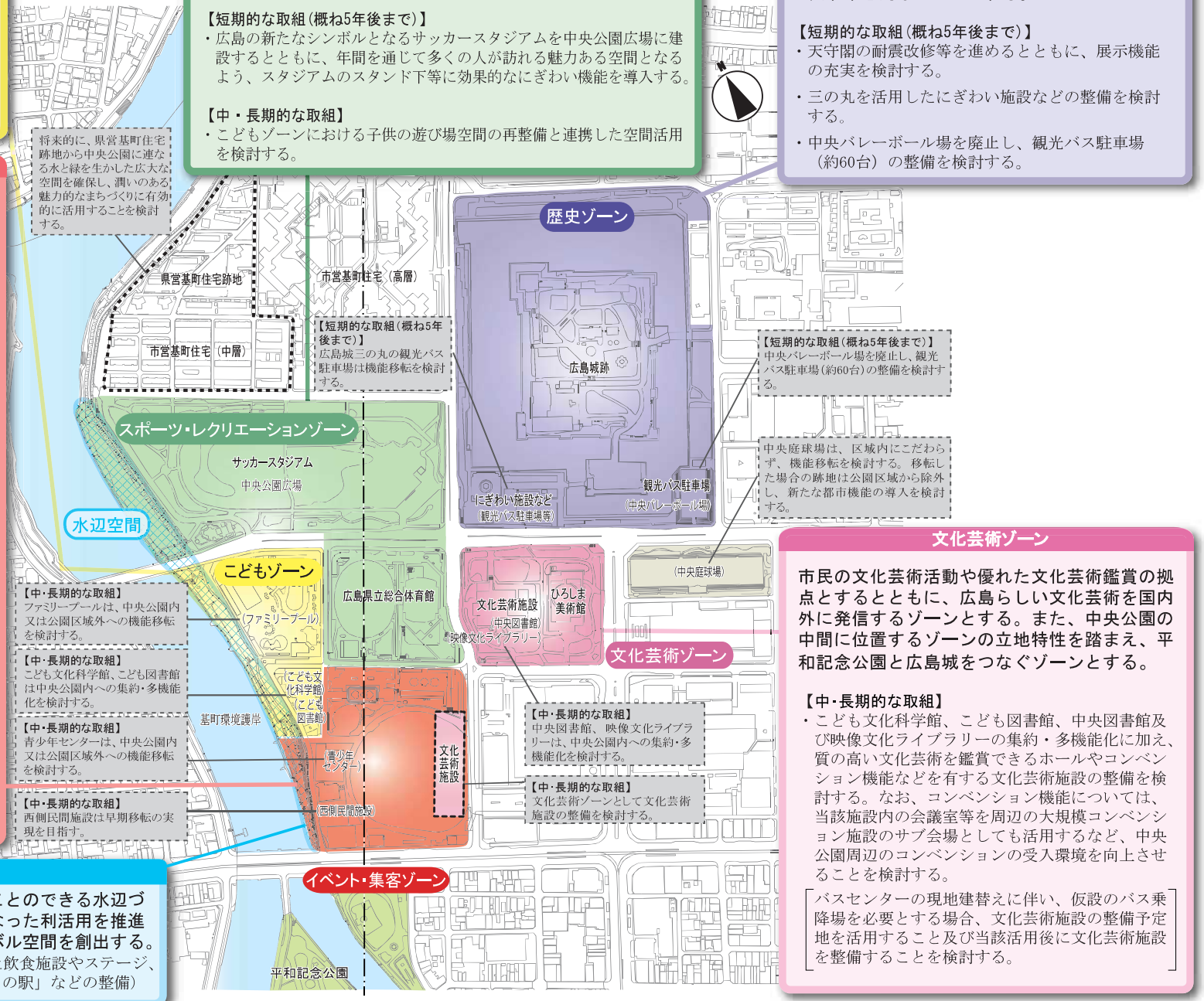
市民や観光客等の来訪者が日常的に憩い、くつろぐことのできる水辺づくりを推進するとともに、隣接するゾーンと一体となった利活用を推進することにより、「水の都ひろしま」の新たなシンボル空間を創出する。
（例：水辺を臨むロケーションを生かし、景観に配慮した飲食施設やステージ、ベンチなどの設置、水上交通などが発着できる「川の駅」などの整備）

文化芸術ゾーン

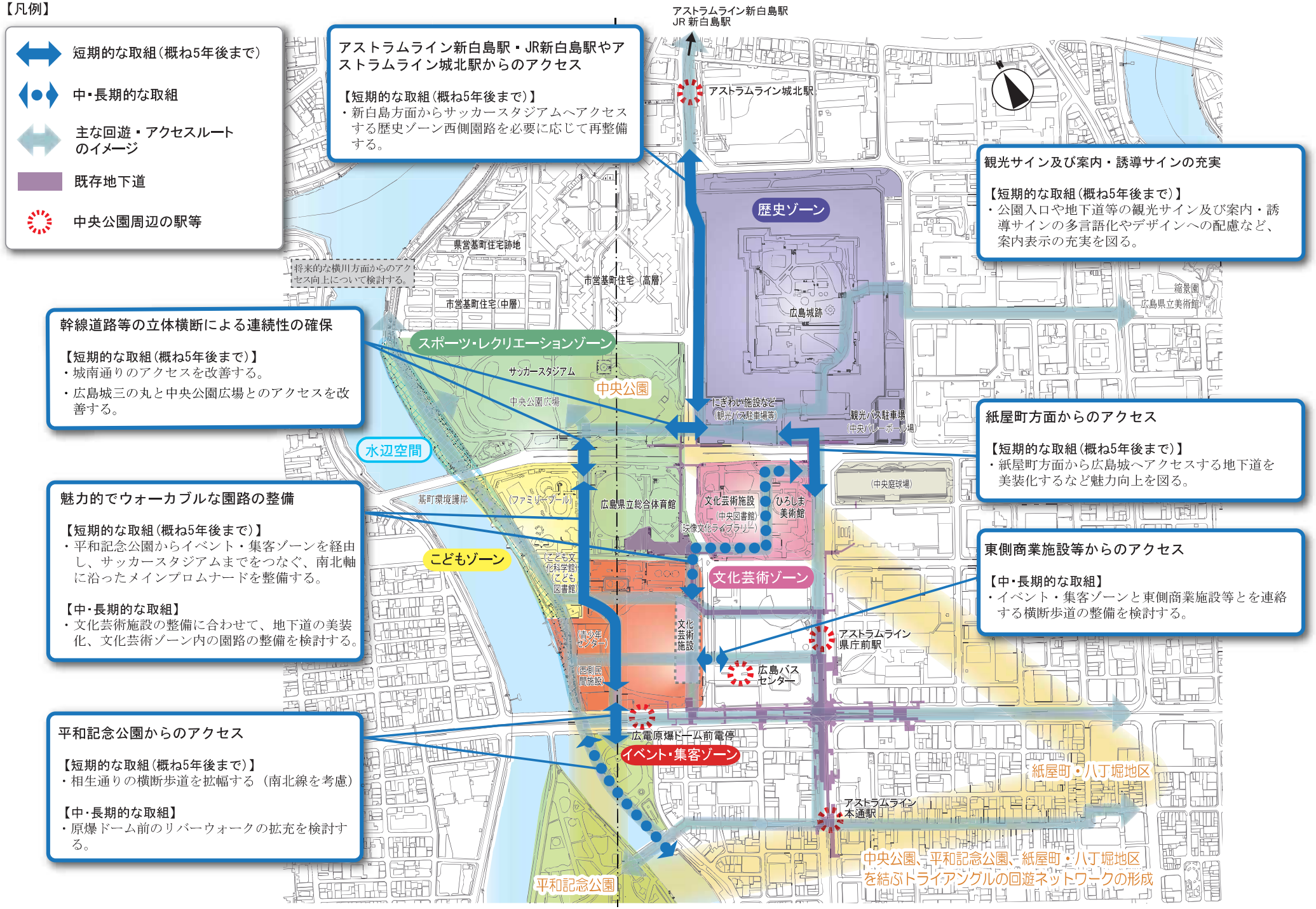
市民の文化芸術活動や優れた文化芸術鑑賞の拠点とするとともに、広島らしい文化芸術を国内外に発信するゾーンとする。また、中央公園の中間に位置するゾーンの立地特性を踏まえ、平和記念公園と広島城をつなぐゾーンとする。

【中・長期的な取組】
・こども文化科学館、こども図書館、中央図書館及び映像文化ライブラリーの集約・多機能化に加え、質の高い文化芸術を鑑賞できるホールやコンベンション機能などを有する文化芸術施設の整備を検討する。なお、コンベンション機能については、当該施設内の会議室等を周辺の大規模コンベンション施設のサブ会場としても活用するなど、中央公園周辺のコンベンションの受入環境を向上させることを検討する。

［バスセンターの現地建替えに伴い、仮設のバス乗降場を必要とする場合、文化芸術施設の整備予定地を活用すること及び当該活用後に文化芸術施設を整備することを検討する。］



(2) 回遊性・アクセス性の向上に関する取組



(3) 実践的かつ段階的な取組手順

６の(1)及び(2)に示した取組については、まずは喫緊の課題に対応するための短期的な取組を着実に行った上で、中･長期的な取組として、耐用年数を迎える公共施設を必要に応じて集約しつつ機能更新を図ることなどを検討する。なお、中・長期的な取組である公共施設の機能更新に当たっては、短期的な取組の成果や市民等のニーズ、本市の財政状況などを踏まえ、適切な機能を発揮することができるよう対応することとする。

ア　短期的な取組（概ね５年後まで）

サッカースタジアムの建設、広島城の新たな観光拠点としての再構築及び旧市民球場跡地を活用したイベント・集客ゾーンの創出を図るステージ

位置図



【施設の再配置等に関する取組】

1. イベント広場の整備
2. 来訪者が気軽に立ち寄れる飲食物販施設の誘致
3. サッカースタジアムの建設及びにぎわい機能の導入
4. 天守閣の耐震改修等に係る検討、展示機能の充実に係る検討
5. 三の丸を活用したにぎわい施設などの整備に係る検討
6. 観光バス駐車場の整備に係る検討

【回遊性・アクセス性の向上に関する取組】

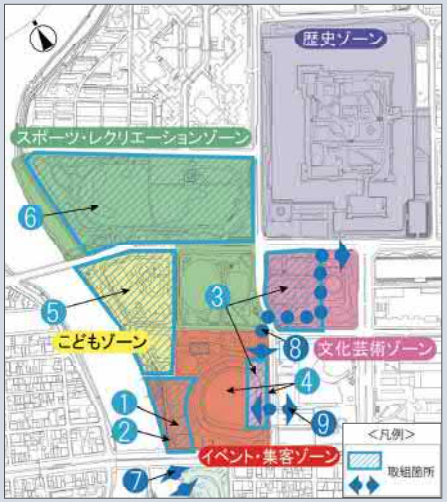
7. 横断歩道の拡幅
8. メインプロムナードの整備、城南通りのアクセス改善
9. 広島城三の丸と中央公園広場とのアクセス改善
10. 歴史ゾーン西側園路の必要に応じた再整備
11. 地下道の美装化などの魅力向上

上記の取組に併せた案内表示の充実

イ　中･長期的な取組

青少年センター及び西側民間施設の移転による水辺空間と一体となったイベント･集客ゾーンの更なる魅力向上を図り、耐用年数を迎える公共施設を集約し、必要に応じて新たな機能を有する文化芸術施設を整備するステージ

位置図



※バスセンターの現地建替えに伴い、仮設のバス乗降場を必要とする場合、文化芸術施設の整備予定地を活用すること及び当該活用後に文化芸術施設を整備することを検討する。

【施設の再配置等に関する取組】

1. 青少年センター機能の移転に係る優先的な検討、西側民間施設の早期移転の実現
2. 基町パーキング（地下駐車場）へのアクセス道路の地下化及び水辺空間と一体となった空間整備に係る検討
3. こども文化科学館、こども図書館、中央図書館及び映像文化ライブラリーの集約・多機能化、ホールやコンベンション機能などを有する文化芸術施設※の整備に係る検討
4. 文化芸術施設※の整備に合わせたイベント広場等の再構築や市営駐輪場の同施設内への移転等に係る検討
5. こども文化科学館、こども図書館の中央公園内への集約・多機能化及びファミリープールの機能移転を行う場合における子供の遊び場空間の再整備に係る検討
6. こどもゾーンにおける子供の遊び場空間の再整備と連携した空間活用に係る検討

【回遊性・アクセス性の向上に関する取組】

7. 原爆ドーム前のリバーウォークの拡充に係る検討
8. 地下道の美装化、園路の整備に係る検討
9. 横断歩道の整備に係る検討

短期的な取組のイメージ



イベント･集客ゾーンのイメージ

中・長期的な取組のイメージ



中央公園南西側上空から見たイメージ

※1 にぎわい施設など（検討中）

※2 観光バス駐車場（検討中）

サッカースタジアムについて意見を聴く会
関係資料

サッカースタジアムについて意見を聴く会　委員名簿

分　野	氏　名	所属・役職等
学識経験者	桂田　隆行	（株）日本政策投資銀行地域企画部　課長
	原田　宗彦	早稲田大学スポーツ科学学術院　教授
	藤口　光紀	広島経済大学経営学部スポーツ経営学科　教授
経済・観光	北吉　孝行	（公財）広島観光コンベンションビューロー　専務理事
	下村　純一	広島市中央部商店街振興組合連合会　理事長
	辻　孝和	（一社）日本旅行業協会中四国支部　事務局長
	福村　剛	紙屋町・基町にぎわいづくり協議会　代表幹事
スポーツ	佐藤　仁司	（公社）日本プロサッカーリーグ　クラブ経営本部 クラブライセンス事務局　スタジアム推進役
	野坂　文雄	（公財）広島市スポーツ協会　会長
	森﨑　和幸	サンフレッチェ広島　選手ＯＢ
	森﨑　浩司	サンフレッチェ広島　選手ＯＢ
福祉	高橋　博	（公財）広島市老人クラブ連合会　副会長
	向井　助三	（公社）広島市身体障害者福祉団体連合会　会長
女性団体	山田　豊子	広島市地域女性団体連絡協議会　副会長
若者代表	田中　優菜	広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科　学生

（敬称略）

「サッカースタジアムについて意見を聴く会」各委員の意見

区　分		魅力あるサッカー場の機能・仕様など	スタジアムの多機能化	中央公園広場への導入機能・施設など	その他意見
学識経験者	桂田委員	●　すべての観客席を覆う屋根の設置 ●　全ての観客席にクッションを付ける ●　観戦中の臨場感を盛り上げるための巨大（センター、リボン）ビジョンの整備 ●　中央公園内と統一した案内サインの充実 ●　１階レベルでのVIPルーム・ラウンジの整備 ●　高級感を生み出す配色 ●　ストレスを感じないネット接続環境の整備 ●　幅広いコンコース、細やかで数多い出入口ゲートの設置 ●　ICTを活用した入出場手続時間の短縮化 ●　コンコースから上層階に昇り降りするためのエスカレーターの整備 ●　数多いトイレの設置	●　コンコースでのATM設置 ●　高級感を生み出す配色 ●　試合の無い日にも、日常生活で訪れるような施設の設置（例：常設のグッズショップ、レストラン・カフェなどの飲食施設、生鮮食料品スーパー、保育園・幼稚園、カンファレンス・コンベンション施設、図書館や市役所窓口・スポーツ課といった公共機能、ランニングステーションなど） ●　中央公園内と統一した案内サインの充実	●　スタジアムから相生通りなどの周辺主要道路に出るまでの（雨に濡れないようにするための対応としての）通路屋根の設置。 ●　試合の無い日にも訪れられるような施設の設置 ●　スタジアムと統一した案内サインの充実 ●　サイクリング拠点（マツダスタジアムから中央公園までが自転車でスムーズに行けるようにし、日本を代表するサイクリングルートにしたい。） ●　バーベキュー場（洗い場、トイレも） ●　綺麗で数が多いトイレの設置 ●　何よりも、ハードに偏らない緑地空間の充実 ●　木陰での数多いベンチ（腰掛けスペース）の充実	○　プロスポーツ観戦文化が根付いている広島の場合、プロスポーツ事業に配慮した事業者選定の方法やスキームがあってもよいのではないか。 ○　都市公園法の「公園の便益施設等」の「等」の部分の柔軟な運用について議論いただきたい。 ○　民間企業にアイデアを求める際に、民間企業側に法令遵守の意識があるかを事前に精査したほうがよい。 ●　整備や運営事業者選定にあたっても法令・コンプライアンスを遵守している事業者を選定することを意識する。 ●　スタジアムのブランド形成に大きく寄与するプロスポーツクラブが、スタジアム整備運営に関与出来るスキームの構築 ●　スタジアム内、中央公園内と連動した案内サインの充実（案内サイン通り歩けば、相生通り、紙屋町の地下道、新白島駅やひろしま美術館からスタジアムまでスムーズに行けるようにする。外国人にも分かりやすい案内サインとして欲しい。） ◇　スタジアムの建設後においても、段階的な拡張などを含め柔軟に投資ができるスキームを検討する余地もあるのではないか。
	原田委員	◇　５Ｇの環境で様々なことが展開できるよう設備を整備してほしい。	○　フレンチを作れる厨房やビールを醸造するブルワリー機能 ○　レストランを日常的に開放し、ビジネスラウンジ、ホスピタリティラウンジのフード＆ビバレッジの拠点とする。 ○　会議室の貸し出し、大学の講義や小学校の授業での活用 ●　外に向けたスタジアム内のカフェレストランは重要であり、特に試合の高額チケットに付随するホスピタリティラウンジでの飲食提供には、厨房が不可欠である。 ●　試合のない日は一般市民に、試合の日はホスピタリティのゲストに向けた飲食提供が可能となる ●　設計段階では、スタジアム建設ではなく、集客施設の建設というコンセプトを念頭に置くことで、レストランに付随するスタジアム、会議室に付随するスタジアム、保育施設や高齢者施設に付随するスタジアムという発想が生まれる。	●　広島市民のアクティブなライフスタイルを促進する仕組みが必要である。歩道、パスウェイ、散歩道、自転車専用道など、中央公園と他のエリアを結ぶ動線の整備が必要である。ヨーロッパで進む「アクティブ・シティ」の考えを取り入れてはどうか。 ●　都市公園法の改正で大きめの商業施設を取り込むことが可能になったので、新しい商業エリアを創るぐらいのスケール感のある開発を望む。	○　運営方法としては、コンセッション方式で長期の運営を委ねることが考えられる。 ●　公民連携の視点から、事業者プロポーザル方式でアイデアを募集する方式を勧める。 ●　中央公園のエリアごとに命名権を設定して、その企業にイベント開催など権利をアクティベートしてもらう方法なども議論する価値はある。 ●　スタジアムの運営に関しては、サンフレッチェ広島がつくる一般社団法人のような組織と、メンテナンス業者、新聞社や広告代理店などがＪＶを組むことが理想である。 ●　隣接の市営住宅の活性化に関しては、大阪の泉北ニュータウンで成功した「ニコイチデザイナーズ住宅化」という狭い団地サイズの住居を２つ合わせ、デザイン重視の新しい居住空間をつくる手法があり、スタジアム近くのおしゃれなデザイナーズ住宅は、住民構成に変化をもたらす。 ◇　規制緩和により公園運営に柔軟性が出てきているので、スタジアムと一体化した公園運営をしていただきたい。 ◇　スタジアムを核としたダイナミックなまちづくりができれば、地域全体の地価が上がると思う。

○：第１回会議時の意見　●：追加提出意見　◇：第２回会議時の意見

区　分		魅力あるサッカー場としての機能・仕様	スタジアムの多機能化	中央公園広場への導入機能・施設	その他意見
学識経験者	藤口委員	●　サッカー競技場ではなく、サッカースタジアムであることを共通認識として理解した上で、サッカー場として、プレーヤーにとってプレーしやすい場所であることがベースである。 ●　観客にとって居心地の良いスペース、心が躍る、楽しい空間が必要である。（トイレの数、売店の位置、音響設備等） ●　特に日本のスタジアムやアリーナで問題なのは音響設備である。 ●　良いプレーを引き出す為に最も重要なのがピッチ（フィールド）の芝生である。人工芝を少し加えたハイブリッド芝も登場している。 ●　ロッカールームやウォーミングアップスペース、バスルームなどプレーヤーが気持ちよくプレーするために必要な機能。 ●　サッカーは雨が降っても試合をするので、雨対策はマストである。観客席の屋根はもちろん、コンコースや滑りにくい階段を整備。 ●　できれば、屋根には太陽光パネル発電機があれば最高である。 ●　観客席３万人規模で検討されているが、平均観客数を増加させることや国際大会の誘致の面から、３万５千人規模とすべきである。	○　非常食の備蓄や蓄電器等を備えた避難場所として有効に使用できる防災センターとしての機能。 ●　日常から老若男女、小さな子供から高齢者までが集えるスペース、そして平和都市広島には多くの外国人も来訪するので、国際交流の場所でもある、コミュニティセンターとしての機能。 ●　そのためには、カフェやレストランはもちろん、近隣企業の研修や、商店連合会の会議、寄り合い等ができるスペース、カンファレンスルームも必要である。 ●　スポーツジム（サウナ・風呂付）、フットサルコート（ハンドボールもできる）、バスケットボール（３ｘ３）コート、自転車のマナー教室（特に子供向け）が開催できるバイシクルセンターの設置をなど、スポーツセンターとしての機能 ●　加えて、スポーツミュージアムはマストである。スタジアムツアーを実施し、終着点をミュージアムとショップにするとよい。 ●　コンコースではバザーやミニイベントができるスペースづくりが必要である。	●　日常子供たちが遊べる、体を動かすことができるサブグランド（人工芝でもよい） ●　駐車場はマストである。 ●　旧市民球場跡地の仕様との関係性もあり、エリア全体で考えていかなければならない。	●　スタジアムは街のシンボルであること、スタジアム整備は街づくりの一環であることを理解し、①スポーツセンター、②コミュニティセンター、③防災センターという３つのセンター機能を明確にして考えなければならない。 ●　街づくりの一環として、広島らしさを出しながら、新たな広島を世界に向けて発信するよいタイミングであると思う。 ●　景観も大事であり、広島城との関係性も重視しなければならない。 ●　一番大きな問題は交通対策である。快適性は大事だが、地下道や歩道橋などの安全性が最重要課題である。 ●　本通り商店街やシャレオとの連携も必要である。スタジアムの一角に、ショールーム的なスペースの設置が考えられる。 ◇　スタジアム建設は、単に競技場を整備するのではなく、まちづくりの一環と捉えるべきである。 ◇　防災拠点として、有事の際の水を確保するため、雨水を溜める施設やプールなどの整備が必要だと思う。 ◇　歩行者が危険にさらされないよう、ペデストリアンデッキを整備して道路の上を通すのがよい。
経済・観光	北吉委員	●　試合の無い日でも、様々なイベントが開催され、市民、観光客が楽しめる機能を盛り込むことが望まれる ①　ピッチを利用した屋外コンサートの開催 ②　ピッチと観客席を利用した式典、表彰式等の開催 ③　ピッチを利用した野外パーティの実施　など ◇　多目的な利用ができるような機能としていただきたいが、これには周辺住民の理解が必要であるため、調整しながら検討を進めていただきたい。	●　MICE の推進において、多様な会議施設の整備が求められており、広島においては、特に大規模会議の開催が可能な施設・機能の強化が喫緊の課題である。この解決策として、本スタジアムにおいても、その一翼を担う機能を整備することが望まれる ①　観客席下のスペースを会議開催が可能な仕様とし、サッカースタジアムでの会議開催という珍しさをアピールできるものとする ②　ここでの単体での会議開催、紙屋町ゾーン利用の大規模会議のサブ的な会議開催が可能なものとするため、３～４部屋で２００名程度は利用可能な規模が最低限必要 ③　レストランは、コンベンションのユニークベニュー会場として利用できるような工夫を施す。フィールドと広島城が見えるような仕様であれば申し分ない ●　全球団のグッズが購入できる販売ショップや多彩な料理を提供するレストラン群　など	●　清潔で快適なトイレ（維持管理費の捻出方法として有料化も検討）	●　平和記念公園を訪れる観光客が、スタジアムや広島城、中心部商店街などを回遊するためには、これらの拠点をストレスなく回遊できる歩行ルートを整備することが必要である。 ①　５４号線、城南通りの「歩行空間の確保」として、デッキ（動く歩道が併設されれば最良）を整備すること ②　新白島駅から紙屋町界隈を結ぶ二次交通の充実を図ること ●　平和記念公園からの動線確保の観点からも、旧市民球場跡地及び河岸緑地を賑わいの空間として活用することが必要である。 ①　旧市民球場跡地から河岸緑地を一体的なスペースとして、低層のレストランやショップなどが川に向かって立ち並ぶ場所とする ②　河岸緑地は、定期的なマルシェの開催などにより、広島の農産物や海産物を提供する市民や観光客で賑わう魅力ある空間とする ●　ピースクルなど自転車でのアプローチが可能なルート整備の検討。 ◇　観光消費単価を上げるため、市内に１日中滞在し、宿泊してもらえる観光ルート等の開発が必要。

○：第１回会議時の意見　●：追加提出意見　◇：第２回会議時の意見

区　分		魅力あるサッカー場の機能・仕様など	スタジアムの多機能化	中央公園広場への導入機能・施設など	その他意見
経済・観光	下村委員	○　寝そべって観られる席やレストランで食事をしながら観られる席など、いろんな観戦の仕方ができる造りとしてほしい。 ●　人の目線に優しい周囲の自然環境と調和したデザインを心がける。 ●　できるだけ地産地消、地元産自然素材の使用を取り入れる。 ●　閉じられた構造物という印象でなく、できるだけ周囲にオープンでアクセスブルなデザイン。 ◇　整備する芝の仕様について、天然芝、ハイブリッド芝のメリット・デメリットを整理した上で検討していただきたい。	●　例えば、旧市民球場跡地の機能を「にぎわい」とするなら、スタジアムは文化・スポーツや健康志向スポーツジム、都会の中のアウトドアライフに対応したサービス・施設、人生の慶事、ハレの場を体験できるサービスや施設、MICE に対応する施設、青少年の文化サークル施設、海外からのアーティストや文化活動家、平和活動家が作業できるスタジオ、会議室、パブリックな公民館（中央公民館の機能）、子育て支援のサービス・拠点等。 ●　災害時に対応する避難所及び物資集積基地、ヘリポート、災害対策指令センター等の機能。 ●　コンコース部分は、旧市民球場跡地からの連続した参道空間ととらえ、広島市中央部のにぎわいゾーンとの回遊を促進する機能を最重要とする。	●　公園西部は、森の空間や木陰を提供し人々の滞留を誘い、バーベキューを楽しむ市民も多く、こどもの遊び場（冒険遊び場「基町自遊ひろば」など）も展開しており、この環境を保全すべきである。 ●　可能であれば公園西側の道路を付け替えることによって、公園西部（森）と河岸部親水部を連続したエリアとして、親自然的に一体的になだらかに整備する。岸辺は船交通ステーションとして瀬戸内の島嶼部また広島駅や中山間地へと繋がる。なお、このエリアでは人工的で大がかりな施設や店舗は排除し、周囲の自然と調和した、カフェと合体した SUP 等河川スポーツ、また、こどもの遊び場のための道具倉庫も兼ねた保護者が集うクラブハウスを配置する。 ●　オープンな親水空間とともに、人々が滞留できる木陰空間を確保すべきである。	○　旧市民球場跡地、中央公園広場、広島城などの魅力や周辺の回遊性を向上させることで、中央部が活性化できると思う。 ●　「にぎわい」とともに「憩い」の空間を意識すること、双方において質の違った滞留やアクティビティーを誘うような環境・施設を整備すること。 ●　都心の貴重なオープンスペースを巨大な施設で埋めるからには、その補完となる周辺の緑環境や親水環境を整える。 ●　広島が世界に発信すべきシンボル性を意識し、建造物と取り巻く環境を形成すること。またそこで行われるソフト、アクティビティーやコンテンツの展開についても同様に不断の問いかけと追求を通して実現する。 ◇　スタジアムから紙屋町・八丁堀までの動線を整備し、そこをサンフレロードと名付け、その周りが活性化するよう取り組んでいただきたい。 ◇　ペデストリアンデッキをスタジアムの２階から旧市民球場跡地まで繋げて整備してほしい。 ◇　試合日は単に駅と繋ぐシャトルバスではなく、紙屋町などを通るループバスを設定してほしい。
	辻委員	●　国際基準・グローバルスタンダード（国際的イベント誘致可能な基準）及びユニバーサルスタンダード（バリアフリー）を満たすこと。 ●　サッカースタジアムはクラス１の３万人規模を予定しているが、それで国際的な試合を誘致できるのか。 ●　スタジアムは、サッカーの試合が中心となるが年３０試合程度ではスタジアムとしての採算が取れないと聞いているので、ラグビー、FISE 等の他のスポーツ、コンサートなど多目的に使用できる仕様にしてほしい。 ◇　広島を訪れた方が遠くからスタジアムを見た時に、ぜひ行きたいと思うような設計としていただきたい。	●　場外イベントで移動式キッチンカーなどが使用できる電源・給排水設備等の設置 ●　追加の仮設トイレが設置できる仕様 ●　コンコースやスタンド下には、ゲームのない日でも入場でき、飲食が楽しめるようにする。（入場料を取って見せる部分と、入場料無しでも見学やレストランに行けるような設計とする） ●　広島市は「国際平和文化都市」、また「グローバル MICE 強化都市」に指定されているので、国際会議や国際的なイベントにも使用可能な仕様としてほしい。	●　広島城のバス駐車場６０台の代替箇所を中央公園の一部（西側）に設置が必要。平時は予約制観光バス駐車場のスペースと利用し、非常時は緊急車両等の駐車スペースとして確保してほしい。 ●　従来通りの災害時の避難エリアの確保。 ●　公園全体の夜間の安全対策（常夜灯の設置や交番の設置） ●　基町アパートの活性化のためのインターナショナルなカフェやレストランの誘致	○　サッカーの試合日など一時に何万人という人が移動する際の安全性を確保してほしい。 ○　基町地区について、居住する多くの外国人の言語や生活スタイルなどに配慮するとともに、この地域に若者を増やして活性化させてほしい。 ●　騒音・交通問題への充分な対策と配慮が必要であると同時に、若者が集まり、中央公園及び周辺が活性化する、その中心的な役割となるべきスタジアム像。 ●　回遊性を向上させるため、スタジアム建設に合わせ、広島城やグリーンアリーナ、平和公園など他の施設やゾーンとの機能調整と連携が必要。 ●　コンセプトとして、「広島城の見えるまちなかスタジアム」、「広島城から見えるまちなかスタジアム」としてほしい。 ◇　海外で実施しているようなスタジアムツアーを年間を通じて実施できれば、運営面での一助となると思う。

○：第１回会議時の意見　●：追加提出意見　◇：第２回会議時の意見

区　分		魅力あるサッカー場の機能・仕様など	スタジアムの多機能化	中央公園広場への導入機能・施設など	その他意見
経済・観光	福村委員		○　サッカーファン以外の方にも足を運んでいただくために、「ナイトタイムエコノミー」にまつわる機能を整備してはどうか。夜の世界を楽しんでいただければ、宿泊につながると思う。		○　サッカースタジアムへの動線と街中への回遊性について、歩行者が安全にストレスなく移動するためには、複数の動線を用意し選択できることが必要である。ペデストリアンデッキ等を整備した上で、スタジアムと都心部をループするような動線がよいと考えている。 ○　スタジアムの運営については、中央公園広場だけではなく、中央公園・都心部一体のエリアマネジメントとして、継続的・常態的にエリアの賑わいを創出することができる状態としていくべきである。 ○　「サンフレッチェコイン」のようなＩＣＴの取組や、５Ｇ等の最新のテクノロジーなども取り入れたエリアマネジメントの取組を考えていく必要がある。 ◇　市外からの多くの集客が期待されるが、まずは市民が誇れる場所とすることが重要である。 ◇　旧市民球場跡地や広島城などの周辺部も意識しながら方向性をまとめていただきたい。
スポーツ	佐藤委員	○　Ｊリーグが掲げる「理想のスタジアム」の４要件である①アクセスが優れている、②すべての観客席が屋根で覆われている、③複数のビジネスラウンジやスカイボックス、大容量高速通信設備（高密度 Wi-Fi など）を備えている、④フットボールスタジアムであるという要件を満たすこと。 ○　Ｊリーグ規約に定める「スタジアム基準」のＪ１必須条件、及び AFC チャンピオンズリーグ(ACL)の開催条件は必ず満たすこと。 ●　スタンドの傾斜、ピッチと観客席との距離など、劇場としての臨場感も大切である。また雨が観客席に降りこまないよう、屋根は低くて真っすぐな形状が望ましい。 ●　ピッチの芝の張替えや活用に備えて、幅 6m、高さ 4.5m の搬入口を２箇所確保すること ●　ラウンジの厨房やバックヤードは充実させておくべき。 ●　エスカレーター動線はとても機能的である。 ●　スプリンクラーは、インフィールド自動散水システムが効果的である。 ●　チーム更衣室に浴室があると、非常時の温浴施設としても活用が可能である。	○　行政サービスや医療・福祉・教育など、そこに行けば日々必要なことが満たせる真の「コミュニティー・ハブ」を兼ね備えた施設にすべき。 ●　スタジアムに「通勤する」、「学びに行く」「買い物に行く」といった 365 日、人々が足を運ぶ機能。 ●　コンサート対応機能や過剰な複合施設は、イニシャルコストが膨大化するため、吟味することが肝要である。コンサート利用は住民対策ができるなら可能性はゼロではないが、中央公園広場での騒音対策は難しいと考えている。 ●　スタジアム以外の中央公園広場の利用者が必要とする機能。（更衣室、シャワー室、避雷設備等） ●　コンコースは、緊急車両やケータリングカーが走行、駐車できる幅員があると機能的である。 ●　避難所、備蓄庫、自家発電、給水サービス、緊急物資輸送の中継拠点や広域支援部隊のベースキャンプ機能といった防災拠点としての機能。 ●　平和記念式典時のテントやイスなどの一部を、屋根やラウンジ、トイレ、大型映像装置のあるスタジアムに移すことも考えられるのではないか。 ●　試合のない日も人々が訪れる見学ツアー、ミュージアム、メガストア	●　スタジアムと同じ天然芝の圃場（ナーセリー）を公園内に設けて、痛んだらすぐに芝を張り替えられるようにしておくと、スタジアムのピッチをフルに稼働させることができる。天然芝のサブグラウンドは同じ役目を果たせるが、圃場を別に設けた方が作業はしやすい。 ●　夜間照明付きのフットサルコートは、全国的に稼働率が高い。 ●　スタジアムの整備と併せて、本川のリバーサイドも含む河岸エリアを整備し、お洒落で季節感のある公園にすると若者の利用が期待できる。 ●　アンケートで希望の多かったレストランやカフェも、「行く価値がある」テナントであることが大事である。 ●　公園広場の利活用に、電気(電源)、水道、搬入動線、通信環境は欠かせない。駐車場や駐輪場も一定数は必要である。	○　アクセス道路、園内の歩道を含め、夜でもスタジアムの外周を明るく、安心安全を確保するため、LED 街灯や高輝度なデジタルサイネージ、ライトアップ等を充実させることが必要である。 ●　スタジアム規模に応じたアクセス道路やコンコースの幅員、バリアフリー環境も、大規模集客施設の安全上、とても重要なポイントである。 ●　広島市内は海外からの訪問客が多いため、外国語サインの充実が必要である。 ●　お城とスタジアムが隣接するスタジアムは国内に例がないため、バックスタンドのコンコースからの景観など、お城とセットにしてのエリア設計が必要である。 ●　市外からの来場者に向けて、広島駅からの明快なアクセス(紙屋町西、広島バスセンターから)設定と告知を希望する。 ●　参考にすべきは「空港」。公共交通機関でアクセスでき、バリアフリー、セキュリティ、ご当地グルメの飲食店やお土産店、ラウンジ、飛行機を利用しない人向けの見学デッキ等が充実。外国人も迷わないサイネージ等、ヒントが詰まっている。 ◇　スタジアムから半径５㎞に住む方々に楽しんでいただける施設であることが肝要である。

○：第１回会議時の意見　●：追加提出意見　◇：第２回会議時の意見

区　分		魅力あるサッカー場の機能・仕様など	スタジアムの多機能化	中央公園広場への導入機能・施設など	その他意見
スポーツ	野坂委員	●　清潔で広いトイレ、広い通路、死角のない観客席の整備 ●　選手のスタジアム到着時、或いは試合後に選手とファンが短時間でも触れ合えるエリアの設置 ●　観客の入退場時のスムーズな動線の確保 ●　子どもたちの集客に結び付くイベントづくりや平和都市ヒロシマに相応しいイベントの定期的な開催	●　中央公園がビジネス街に近いという立地を踏まえ、ビジネスパーソンを主な対象として、スポーツを気軽に楽しめる機能を持たせる。これは企業の「健康経営」の推進にも寄与するものである。 ①　スタジアムのコンコースを活用した全天候型ランニング（ウォーキング）コースの整備 ②　ランニング（ウォーキング）ステーション（カフェ機能を併設）の整備 ・　ロッカーやシャワールームを備え、シューズやウェアもレンタルできるランニングステーションの整備 ・　ランニング後は管理栄養士による栄養バランスのとれた食事、プロテイン飲料、グリーンスムージー等を提供するカフェや低酸素トレーニングルームを併設 ●　各競技のトップ選手からジュニア選手が一堂に集まり、強化練習やトップ選手のプレーを手本にしたジュニア選手の育成・指導を行うとともに、障害者スポーツ普及・振興を図るための体育施設の整備 ●　サッカーミュージアムの整備	●　市民に憩いの場を提供する芝生広場として整備 ●　イベントは、旧市民球場跡地で開催しているプログラムとの調整が必要	○　都市公園法の制約を受けるために、事業者が出店したいと思えないような場所であれば誰も手を挙げないので、柔軟な運用ができるよう国と協議していただきたい。 ●　防災機能・避難場所機能の充実 ◇　災害時の避難場所として、空調設備など必要な機能を充実させてほしい。 ◇　積極的に規制緩和に取り組み、社会貢献をしたいという企業のためにも、広島で初めて実現できることを創ってほしい。
	森﨑(和)委員	○　選手が多くの時間を過ごすロッカー、室内練習場、グラウンドといった設備の充実と、負担のない動線作りが重要 ○　選手がホームスタジアムと感じられ、絶対勝つと感じられる装飾や雰囲気作り ○　行き届いた芝のメンテナンス ○　ピッチと距離の近いスタンドの整備 ○　歴史ある広島のサッカーヒストリーを感じられるミュージアム ●　声、手拍子含めた応援が反響する構造仕様 ●　サッカースタジアムだが、コンサートのような演出が出来るような設備 ●　スタジアムカメラを活用した演出設備 ●　女性用トイレは、拠点/個数、共に増設（着替えが出来るスペースも必要）	●　試合日、試合日外問わず人が集えるカフェ／スポーツパブ ●　テンポラリーに活用できる出展スペース（飲食含む） ●　子どもが安全に楽しめるキッズスペース（椅子等の親の監視環境の整備 ●　試合のみならず、避難時にも利活用できる適切なサイネージ設置 ◇　カフェやパブ等の整備に当たっては、利用者側の視点に立って、気持ちよく過ごせる環境を整えることが重要である。	●　フットサルコート（スタジアムの真横にあることで子供たちの夢を育て、健康増進やコミュニケーション不足の解消にも寄与できるものと考える。） ●　子供から大人まで楽しめる大型遊具整備	●　スタジアム＆公園が街中のシンボルとして活用されること、日常から夢を与えることを目的にライティング等を活用した視覚的装飾も必要であると考える。 ●　利用者に安らぎを与える、子供でも楽しんでいただける水場整備

○：第１回会議時の意見　●：追加提出意見　◇：第２回会議時の意見

区　分		魅力あるサッカー場の機能・仕様など	スタジアムの多機能化	中央公園広場への導入機能・施設など	その他意見
スポーツ	森﨑(浩)委員	●　デザイン性のあるコンセプト(カラー、ヴィジュアル) ●　ビジネスマッチング、コミュニケーションの充実を目的としたラウンジ整備（試合日以外は、貸出等にて活用） ●　発達障害の方でも安心して観戦できるセンサリールームの設置 【サポーターからの意見】 ●　入場口からスタンドまでユニバーサルフリー（子供連れ・身障者・ご年配に優しい階段の少ない環境） ●　入場待機列の場所にも屋根があった方が優しいと思う ●　コンコースは、１周出来るようにしてほしい ●　ポップアップで活用できるように車輌がコンコースにアクセスできるスロープ ●　目的別に活用できる席状を検討してほしい ●　鉄板付きでお好み焼きを焼き、食べながら観戦できる席	●　親が子供を安心して預けられる託児所 ●　年配者、ハンディキャップを持っている観戦者を配慮したバリアフリー観戦スペース ●　試合のみならず、避難時にも利活用できる適切なサイネージ設置 ●　女性用トイレは、拠点/個数、共に増設（着替えが出来るスペースも必要） 【サポーターからの意見】 ●　試合がない日でも楽しむことが出来る存在価値（ランニングロード、温浴施設など）	●　フットサルコート（スタジアムの真横にあることで子供たちの夢を育て、健康増進やコミュニケーション不足の解消にも寄与できるものと考える。） ●　公園部含めた拠点となるステーション(更衣室・シャワー)整備（ランニング等） ●　子供から大人まで楽しめる大型遊具整備	●　スタジアム＆公園が街中のシンボルとして活用されること、日常から夢を与えることを目的にライティング等を活用した視覚的装飾も必要であると考える。 ●　利用者に安らぎを与える、子供でも楽しんでいただける水場整備 ◇　スタジアムと公園を一体的に整備し、平和都市広島にふさわしく、誰もが集い、笑顔にあふれる空間としてほしい。 【サポーターからの意見】 ●　河岸エリアも活用した空間づくり ●　寄附者の芳名版は、公園利用者も閲覧できるようにしてほしい
福祉	高橋委員	●　コンセプトは「楽しく役に立つ施設」として、何度でもたくさん利用したくなる施設とする。 ●　国際平和都市広島の都心に建設されるスタジアムとして、日本のみでなく世界に誇れる機能的で使いやすい特色のあるスタジアム建設を期待する ●　高齢化社会の世界最前線を歩みつつある日本が、規模ではなくその内容において世界のお手本になるような、高齢者や障害者等の社会的弱者にも「優しい施設」で、細部まで配慮が行き届いた広島市民・県民自慢のスタジアムにする。 ①トイレは広く・多く、②エレベーターは、車椅子も乗れるように広く・多く、③可能な限りのバリアフリー化、④トイレの中も含めて各所に手摺を設置、⑤移動しやすい動線、⑥授乳室・ベビーセンター、⑦喫煙所、⑧サッカー見学できない子供達等の招待席 ●　天候に左右されにくいスタジアムとするために、少なくとも観客席は屋根付きとする。	●　多くの人が利用したくなるような広島スタジアム自慢のグルメ街 ●　試合や催し物がない時にも利用したくなるような特色のあるカフェや飲食スペース（大型バスを含め駐車場利用可能とする。） ●　スポーツジム、各種教室、会議室、談話室、災害避難施設 ●　サンフレッチェ広島を中心とした広島自慢のスポーツの歴史・成績紹介や展示スペース	●　試合や催し物がない時に施設利用者が利用できる駐車場 ●　家族で利用できる大型遊具、芝生広場 ●　基町環境護岸と一体的に利用できるよう改良する。広島市の河岸は、近年整備が進んで大変美しいものになっており、中央公園から広島スタジアム・広島城へと続くこの地域こそ、世界に誇れる親水河岸として、多くの人々が憩える魅力的なスペースにする。	●　都心部との一体的利用を促進させるために、人の回遊に配慮し、動線部分の改良を図る。 ●　広島駅方面・紙屋町方面への地下通路を安全で楽しいものに改良する。(広く、明るく、清潔なエレベーターや通路やスロープ) ●　スタジアム周辺の公共バス便及びバス停の見直し ●　旧広島市民球場跡地との連動性（動線）配慮 ◇　国際試合などで海外から訪れた人が「広島のスタジアムは素晴らしい、様々な面で参考となる」というものとしてほしい。 ◇　福祉の面での設備を整えるための投資は惜しむべきではないと思う。

○：第１回会議時の意見　●：追加提出意見　◇：第２回会議時の意見

区　分		魅力あるサッカー場の機能・仕様など	スタジアムの多機能化	中央公園広場への導入機能・施設など	その他意見
福祉	向井委員	○　バリアフリーの取組として、段差がないこと、スロープの両側に手すりを設置すること、車イスが入れるエレベーターの広さを確保すること、分かりやすい非常口の表示をすることなど ○　視覚障害者の利用のため、各所に点字ブロックを設置すること。 ○　車イス席は、前の人が立ち上がっても座ったままピッチが見える高さとすること。 ○　多目的トイレを複数箇所に設置し、同伴の介護者が男女供用で入れるようにすること ●　全体的にサンフレッチェ広島カラーとする ●　サービスカウンターの床面からの高さを700㎜～800ｍｍとする ◇　スタジアムのカラーの検討に当たっては、周辺との調和に配慮する必要がある。	●　コンコースの売店は、固定された売店のスペースにすることにより、高級感を持つのではないかと思います。 ●　スタンド下には、カフェ、レストラン、スポーツジム、フットサル場、卓球場、その他運動のできる場所	○　大小の遊具があれば、親子で遊びに来られる。 ○　南北の水路について、鯉などの魚が泳いでいれば子どもが楽しめる。 ○　広場にステージを造る場合には、騒音対策をしっかり検討していただきたい。 ●　周回ランニングコース（スタジアム～中央公園広場外周コース、距離表示） ●　専用のスケボー施設 ●　ベンチ等を置いて、憩いの場としての広場、木陰が必要	●　水害対策として、スタンド、広場の下に雨水溜池を設置してはどうか。 ◇　広島市は大型駐車場が少ないため、イベント時の対応ができるよう駐車場を整備してほしい。
女性団体	山田委員	○　スタジアムを造る際には、子育て目線、女性目線で考えていただきたい。 ●　トイレには、必ず授乳室やおむつ替えコーナーを整備していただきたい。	●　試合のない時でも、コンコースを利用して、散歩やジョギングができるようにしてほしい。 ●　スタンド下もファミリーが一日買い物や食事が楽しめるような空間があればよい。	○　現状の子育て世代は、駐車場があり、遊具も無料で使える郊外に遊びに行っているので、そうした点を考慮していただきたい。 ◇　基町環境護岸について、子どもたちが水と親しんで遊べる環境を整備してほしい。	●　スタジアムに行く道をわかりやすく、高齢者や体の不自由な方、子ども連れファミリーにも優しい（ベビーカーが通れる）道路にしてほしい。 ●　景観計画の方針にもあったが、広島城や平和記念公園に今度はサッカースタジアムが加わり、都市機能が調和するよう、形、色、全体のバランスを考えてほしい。 ◇　ペデストリアンデッキを整備し、スタジアムまでの分かりやすい動線づくりをしてほしい。
若者代表	田中委員	●　サッカーの試合を臨場感をもって楽しむために、サッカー場と観客席が近いことが望ましい。より選手と観客の距離が近いスタジアムだと、選手の士気も上がり観客もより強く試合の熱気を体感することができる。 ●　サッカー場に可動式の屋根をつける。雨天時もより良い状態でサッカーの試合を行い、観客も快適に試合を観戦することができる。 ●　段差が少なく、手すりなどが設置されているバリアフリーな施設にする。特に階段近くにはエレベーターの設置が必要であると考える。	●　レストランやカフェなどの飲食施設の充実。サッカーの試合が行われる時以外も、市民が利用できるように解放された飲食施設にする。飲食施設内のテーブルと椅子で食べられるスペースがあるとなお良い。	○　公園内にカフェやレストランなどが揃っていれば、公園内ですべて完結し快適に過ごすことができる。 ○　公園内で子ども向けのスポーツイベントの開催 ●　中央公園の利用頻度が高い親子連れのために大型の遊具を導入すべき。市中心部に大型の遊具がある公園は少ないので、大型の遊具を設置すれば、子どもが何度でも遊びに来たくなる場所になる。 ●　イベント開催が可能な場所の整備 ●　野外ライブ、野外シネマ（芝生などの上に大型のスクリーンを設置し、映画を上映するイベント） ●　全国で催されている芸術祭を広島中心部で開催する際、スタジアム内や中央公園の空間を芸術作品の展示空間として活用する。 ●　ベンチを多めに設置してほしい。高齢者や障害のある方など幅広い人が心地よく過ごすために、休憩できる場所を多めに設置すること必要。	○　イベントの運営に広島県内の学生を動員すれば、より若者を集められるアイデアが出てくると思う。

○：第１回会議時の意見　●：追加提出意見　◇：第２回会議時の意見

新しいサッカースタジアム・公園に関するアンケート集計結果

1.調査の実施方法

ＷＥＢアンケート調査

調査対象

広島県民・市民など

調査目的

スタジアムと中央公園広場を年間を通じて県民・市民など多くの人が訪れる、街中にふさわしい魅力ある空間にしていくために、県民・市民などのニーズ、行動や消費パターン等を把握する

調査方法

インターネットを活用し、広島市のホームページ上でアンケートを実施

アンケート回答数

9,517人

調査期間

2019年10月1日(火)～14日(月・祝)まで

2.回答者属性

（１）性別等

回答者は30～50代の男性が中心であり、会社員・公務員が約67%を占めている。

性別 N = 9,517

（人）

選択肢	回答数	%
男性	6,404	67.3%
女性	3,113	32.7%

職業 N = 9,517

（人）

選択肢	回答数	%
会社員・公務員	6,342	66.6%
自営業	425	4.5%
専業主婦（夫）	490	5.1%
学生	1,023	10.7%
パート・アルバイト	802	8.4%
無職	288	3.0%
その他：	147	1.5%

年代 N = 9,517

（人）

選択肢	回答数	%
10代・20代	2,285	24.0%
30代	1,986	20.9%
40代	2,529	26.6%
50代	1,977	20.8%
60代以上	740	7.8%

（２）居住地域

回答者の居住地域は広島県が70%以上を占めており、そのうち広島市内は約60%である。
広島市内では安佐南区の回答者の割合が一番高い。

居住地域（都道府県） N = 9,517

（人）



居住地域（広島県内）

選択肢	回答数	%	選択肢	回答数	%
広島市中区	578	8.2%	庄原市	85	1.2%
広島市東区	410	5.8%	大竹市	29	0.4%
広島市南区	515	7.3%	東広島市	413	5.8%
広島市西区	796	11.2%	廿日市市	283	4.0%
広島市安佐南区	1,007	14.2%	安芸高田市	32	0.5%
広島市安佐北区	366	5.2%	江田島市	82	1.2%
広島市安芸区	208	2.9%	安芸郡府中町	153	2.2%
広島市佐伯区	377	5.3%	安芸郡海田町	76	1.1%
呉市	367	5.2%	安芸郡熊野町	48	0.7%
竹原市	43	0.6%	安芸郡坂町	29	0.4%
三原市	162	2.3%	山県郡安芸太田町	16	0.2%
尾道市	149	2.1%	山県郡北広島町	24	0.3%
福山市	608	8.6%	豊田郡大崎上島町	31	0.4%
府中市	52	0.7%	世羅郡世羅町	28	0.4%
三次市	112	1.6%	神石郡神石高原町	12	0.2%

3.現状の観戦状況

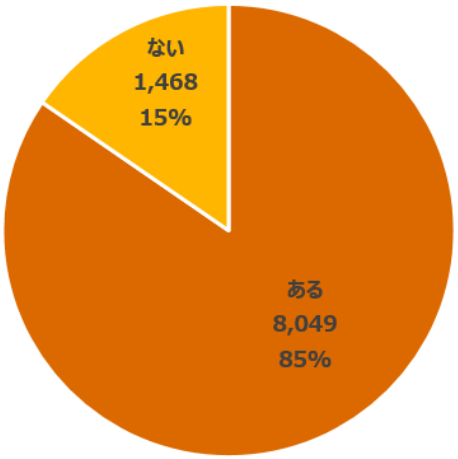
（１）観戦実績等

回答者の85%が、現行のエディオンスタジアムで観戦経験がある。

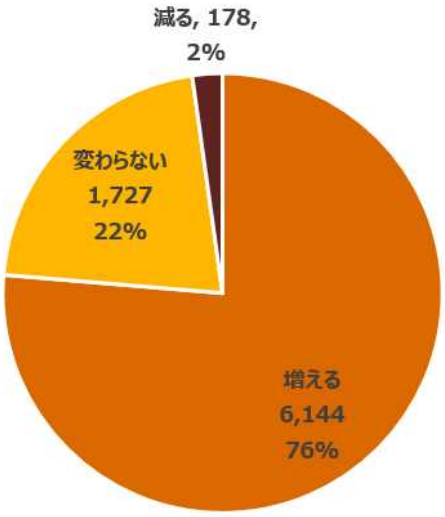
回答者の76%が、新スタジアムができた際はこれまでと比較して観戦頻度が増えると回答している。

エディオンスタジアムでの観戦実績 N = 9,517

（人）



新スタジアムでの観戦頻度 N = 8,049

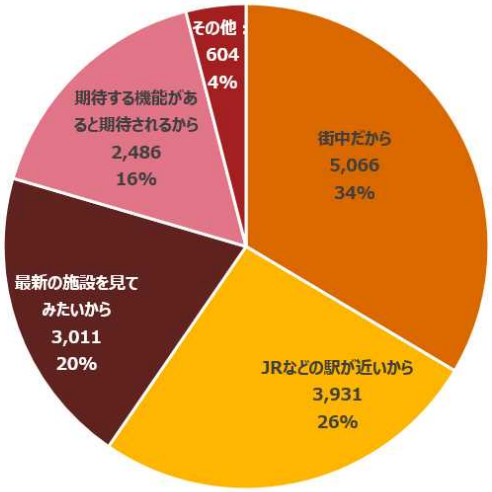


（２）観戦頻度の増加理由等

観戦の増加理由で「街中」「駅が近い」が半数以上を占めており、現スタジアムで観戦実績がない人でも、60%以上が新スタジアムには行ってみたいと回答している。

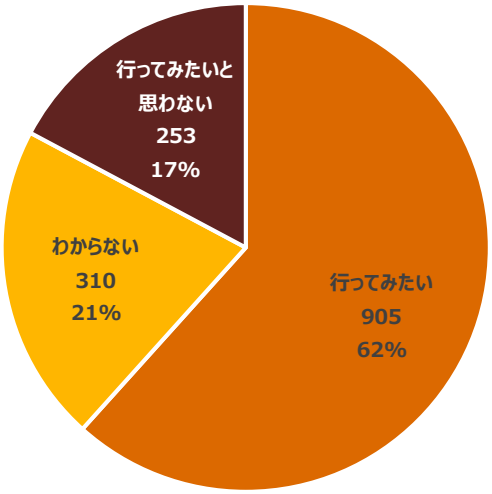
観戦頻度の増加理由（複数回答可） N = 6,144

（人）



新スタジアムでの観戦意欲 N = 1,468

（人）



4.新スタジアムについて

（１）新スタジアムに望む機能

回答者の約9割が試合における臨場感を求めており、客席とピッチの近さを重要視している。
運営面については、入退場のスムーズさ、売店の充実およびスムーズさにおける意見が多くみられた。
また、試合における臨場感や入退場のスムーズさは年代・性別に関係せずニーズが高い一方で、
ハード面における映像や演出、WiFi整備については若年層のニーズが高かった。

新スタジアムに望む機能（複数回答可）　　N = 9,517

（人）

選択肢	回答数	%
《ハード面》		
客席とグラウンドが近く臨場感がある	8,216	86.3%
どの客席からもピッチが見やすい	6,990	73.4%
トイレの数や広さが充実している	6,707	70.5%
客席がゆったりとしている（広い）	6,443	67.7%
WIFIが整備されている	4,262	44.8%
ユニバーサルデザインやバリアフリーなど、福祉環境が整っている	4,078	42.8%
映像が見やすい	4,034	42.4%
照明が明るく、また眩しくない	3,990	41.9%
コンコースが広い	3,791	39.8%
映像や照明を使った演出がおもしろい	3,655	38.4%
音響が聞こえやすい	3,094	32.5%
客席のバリエーションがある	3,059	32.1%
売店（コンコース）からピッチが見える	2,873	30.2%
その他	681	7.2%
《運営面》		
入退場がスムーズ	8,052	84.6%
売店・屋台が充実している	6,769	71.1%
売店・屋台での購入がスムーズでストレスがない	5,498	57.8%
食事が美味しい	5,492	57.7%
観戦前後やハーフタイムに楽しいプログラムが用意されている	4,362	45.8%
アプリなどで観戦中に楽しめる	1,829	19.2%
その他	411	4.3%

（２）新スタジアムに期待するイメージ

多世代で楽しめるスタジアムを求める声が最も多く、約70%を占めている。
次いで、にぎわいが溢れている、広島ならではともいえる平和の象徴が期待されている。
また、年代に関係せず期待するイメージは概ね共通しており、多世代で楽しめることや、にぎわい等を期待している。
若年層においてはデザインのかっこよさについての期待が高く、高齢者層は多様なスポーツが楽しめることへの期待が高かった。

新スタジアムに期待するイメージ（複数回答可）　　N = 9,517

（人）

選択肢	回答数	%
多世代で楽しめる	6,494	68.2%
にぎわいが溢れている	5,762	60.5%
平和都市広島の象徴となる	5,343	56.1%
デザインがかっこよい	5,069	53.3%
人にやさしい	4,975	52.3%
多様なスポーツが楽しめる	3,999	42.0%
最新の情報・技術に触れることができる	3,418	35.9%
緑があふれている	3,215	33.8%
国際色が豊かである	2,791	29.3%
歴史を感じる	1,459	15.3%
その他	488	5.1%

（３）サッカー以外で利用したいイベント

コンサート・音楽フェス、パブリックビューイングを期待する回答が多く、約70%を占めていた。
またこれらは、年代に関係せずニーズが高い一方で、高齢者層においては、サッカー以外のスポーツ大会を求める回答が多かった。

サッカー以外で利用したいイベント（複数回答可）　N = 9,517

（人）

選択肢	回答数	%
コンサート・音楽フェス	7,003	73.6%
パブリックビューイング	6,313	66.3%
サッカー以外のスポーツ大会	4,241	44.6%
ピッチを使ったイベント	3,545	37.2%
プログラム（スポーツ教室等）	2,578	27.1%
フリーマーケット・マルシェ	2,577	27.1%
特にない	456	4.8%
その他	399	4.2%

（４）スタンド下やコンコース部分で試合開催日以外に利用したい施設や機能

カフェ、レストラン、ショップ、スポーツミュージアム、子どもの遊び場、スパ・温浴施設が50%以上を占めていた。
またこれらは、年代に関係せずニーズが高い一方で、若年層については、VR施設やeスポーツの需要が高く、高齢者層は多目的ホールを求める回答が多かった。

スタンド下やコンコース部分で試合開催日以外に利用したい施設や機能（複数回答可）　N = 9,517

（人）

選択肢	回答数	%	選択肢	回答数	%
カフェ	6,834	71.8%	託児所	2,501	26.3%
レストラン	5,974	62.8%	ボルダリング/クライミングウォール	2,421	25.4%
ショップ	5,597	58.8%	キッチンカー	2,314	24.3%
スポーツミュージアム（サッカーなど）	5,402	56.8%	eスポーツ	2,091	22.0%
子どもの遊び場（遊具・アスレチック等）	5,223	54.9%	ランニングステーション	2,087	21.9%
スパ・温浴施設	4,820	50.6%	観光案内所	2,079	21.8%
ランニングコース	4,718	49.6%	サイクリング拠点	1,935	20.3%
コインロッカー	4,072	42.8%	3X3コート	1,765	18.5%
リラクゼーション施設（マッサージなど）	3,332	35.0%	公共施設（図書館など）	1,691	17.8%
フィットネスジム	3,191	33.5%	会議室	1,588	16.7%
手荷物預かり所	3,168	33.3%	クリニック	1,199	12.6%
VR施設	2,819	29.6%	荷物配送サービス	1,166	12.3%
多目的ホール・スタジオ	2,776	29.2%	その他	406	4.3%
			特にない	189	2.0%

5.中央公園広場について

（１）中央公園広場で利用したい施設やイベント等

施設機能としてはカフェ・レストラン、子どもの遊び場のニーズが高く、
イベントについてはパブリックビューイングとフードフェスタのニーズが高かった。
年代を関係せずカフェやレストラン、スポーツミュージアム、子どもの遊び場、パブリックビューイングのニーズが高い一方で、高齢者層は健康増進施設の需要が高かった。

中央公園広場で利用したい施設やイベント等（複数回答可）　N = 9,517

《施設》

（人）

選択肢	回答数	%	選択肢	回答数	%
カフェ	6,735	70.8%	じゃぶじゃぶ池	2,229	23.4%
レストラン	5,696	59.9%	ジップライン（ワイヤーロープを滑車で滑る遊具）	2,098	22.0%
子どもの遊び場（遊具・アスレチック等）	5,161	54.2%	フィットネスジム	2,069	21.7%
スポーツミュージアム（サッカーなど）	4,311	45.3%	ボルダリング/クライミングウォール	1,914	20.1%
フットサル	4,078	42.8%	観光案内所	1,736	18.2%
ランニングコース	4,008	42.1%	ランニングステーション	1,697	17.8%
ショップ	3,779	39.7%	eスポーツ	1,680	17.7%
コインロッカー	3,674	38.6%	サイクリング拠点	1,667	17.5%
ウッドテラス	3,375	35.5%	デイキャンプサイト	1,610	16.9%
BBQ施設	3,189	33.5%	宿泊所	1544	16.2%
健康遊具	2,869	30.1%	3X3コート	1,429	15.0%
キッチンカー	2,868	30.1%	グランドゴルフ	974	10.2%
手荷物預かり所	2,763	29.0%	特にない	234	2.5%
VR施設	2,238	23.5%	その他	192	2.0%

《イベント》

選択肢	回答数	%
パブリックビューイング	5,731	60.2%
フードフェスタ	4,697	49.4%
ビアガーデン	3,873	40.7%
フリーマーケット・マルシェ	3,136	33.0%
プログラム（スポーツ教室等）	2,067	21.7%
特にない	234	2.5%
その他	126	1.3%

（２）中央公園広場を利用する際の交通手段

公共交通機関を利用する回答者が多い一方、自動車を利用すると答えた回答者は3割程度存在した。
広島市中心エリアの在住者は公共交通機関や自転車の利用が多く、中心部以外の在住者はJR等の公共交通の利用よりも自動車利用が多かった。
また、市外在住者はJRと自動車の利用者が多かった。

広場への交通手段（複数回答可）　N = 9,517

（人）

選択肢	回答数	%
市内電車	4,397	46.2%
JR在来線	4,024	42.3%
自動車	3,265	34.3%
路線バス	3,105	32.6%
アストラムライン	2,438	25.6%
新幹線	2,278	23.9%
徒歩	2,132	22.4%
自転車	1,838	19.3%
高速バス	1,254	13.2%
バイク	518	5.4%
その他	119	1.3%

（３）公共交通機関を利用しない理由

自動車を選択した人のうち公共交通機関を利用しない理由は、広島市内外在住者ともに家族・子ども連れでの移動に不便という回答が最も多かった。
市外在住者は自宅付近に公共交通がないことも理由として多かった。

公共交通機関を利用しない理由（複数回答可）　N = 3,265

（人）

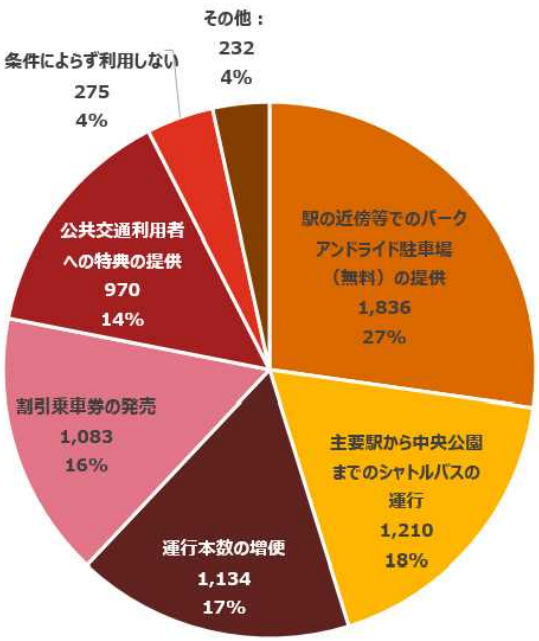
選択肢	回答数	%
家族・子ども連れでの移動に不便	1,386	42.5%
紙屋町・八丁堀周辺の駐車場から歩ける	1,040	31.9%
駅や車内が混む	836	25.6%
公共交通が自宅付近に無い	805	24.7%
時間が読めない	681	20.9%
運行本数が少ない	649	19.9%
荷物が多い	640	19.6%
費用が高い	632	19.4%
その他	338	10.4%
乗り方やアクセス方法が分からない	116	3.6%

（４）公共交通機関を利用する条件

パークアンドライドの無料提供との意見が最も多く、約1/4あった。
次いで、主要駅から中央公園までのシャトルバスの運行との意見が多かった。
パークアンドライドの無料提供の意見は、広島市内市外に関係なく最も多かった。

公共交通機関を利用する条件（複数回答可）　N = 3,265

（人）



6.余暇・消費額等の動向

（１）余暇の時間帯等

回答者の大半は休日が余暇の時間となっており、買い物をして余暇を過ごす人が最も多く70%以上を占めている。
また、娯楽、食事、スポーツと回答した方も半数程度いることがわかる。

余暇の時間帯（複数回答可）　N = 9,517

（人）

選択肢	回答数	%
平日午前	944	9.9%
平日午後	2,684	28.2%
休日午前	6,460	67.9%
休日午後	8,172	85.9%

余暇の使い方（複数回答可）　N = 9,517

（人）

選択肢	回答数	%
食事	5,539	58.2%
買い物	6,929	72.8%
観光	3,134	32.9%
娯楽	5,723	60.1%
スポーツ	4,551	47.8%
その他	695	7.3%

（２）行ったことがあるお出掛けスポット

市内中心部（紙屋町・八丁堀など）が最も多く、約80%を占めている。
次いで、厳島神社が多く、原爆ドームや宮島水族館も４割を超えている。

行ったことがあるお出掛けスポット（複数回答可）　N = 9,517

（人）

選択肢	回答数	%	選択肢	回答数	%
広島市内中心部（紙屋町・八丁堀など）	7,641	80.3%	休暇村 大久野島	1,625	17.1%
広島平和記念資料館	3,674	38.6%	千光寺公園	3,297	34.6%
原爆ドーム	4,095	43.0%	福山城	1,724	18.1%
広島城	3,310	34.8%	鞆の浦	2,688	28.2%
安佐動物公園	3,579	37.6%	みろくの里	2,832	29.8%
湯来温泉	1,547	16.3%	君田温泉	1005	10.6%
縮景園	2,128	22.4%	広島三次ワイナリー	3,422	36.0%
マリホ水族館	1,715	18.0%	備北丘陵公園	3,536	37.2%
厳島神社	6,309	66.3%	帝釈峡	2,115	22.2%
宮島水族館	4,097	43.0%	神楽門前湯治村	1,242	13.1%
弥山	2,350	24.7%	三段峡	2,506	26.3%
大和ミュージアム	3,184	33.5%	土師ダム	2,409	25.3%
西条酒蔵通り	1,790	18.8%	その他	481	5.1%
たけはら街並み保存地区	1,662	17.5%	遠出しない	655	6.9%

（３）お出掛けする際の消費額

飲食・お土産ともに1,000～3,000円程度の消費額が最も多く約50%を占めている。
消費総額では5,000～10,000円程度の消費額が最も多い。

飲食の消費額 N = 9,376

（人）

選択肢	回答数	%
0円	65	0.7%
1,000円以下	859	9.2%
1,000～3,000円程度	4,866	51.9%
3,000～5,000円程度	2,186	23.3%
5,000～10,000円程度	1,133	12.1%
10,000～15,000円程度	205	2.2%
15,000～20,000円程度	26	0.3%
20,000円以上	36	0.4%

お土産の消費額 N = 9,376

（人）

選択肢	回答数	%
0円	799	8.5%
1,000円以下	1,647	17.6%
1,000～3,000円程度	4,182	44.6%
3,000～5,000円程度	1,864	19.9%
5,000～10,000円程度	710	7.6%
10,000～15,000円程度	131	1.4%
15,000～20,000円程度	23	0.2%
20,000円以上	20	0.2%

消費総額 N = 9,376

（人）

選択肢	回答数	%
0円	50	0.5%
1,000円以下	194	2.1%
1,000～3,000円程度	1,289	13.7%
3,000～5,000円程度	2,507	26.7%
5,000～10,000円程度	3,229	34.4%
10,000～15,000円程度	1,356	14.5%
15,000～20,000円程度	441	4.7%
20,000円以上	310	3.3%

7.その他自由意見

（１）その他自由意見（主なもの）

○サンフレッチェを新しいスタジアムで応援したい。

○早く完成してほしい。早期開業を目指して整備してほしい。

○平和都市広島らしいスタジアムにしてほしい。

○サッカー以外にもさまざまなイベントができるようにしてほしい。

○国際試合ができるスタジアムにしてほしい。

○素晴らしいスタジアムを期待している。

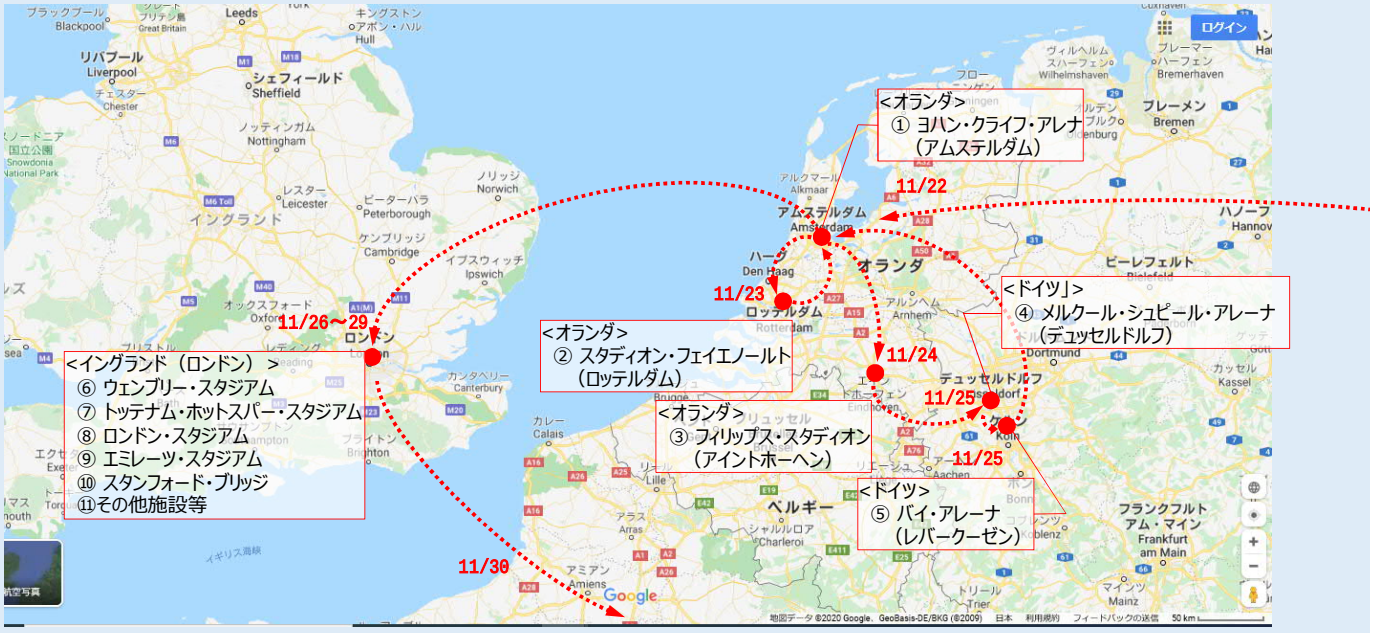
○サンフレッチェカラーの紫を取り入れてほしい。

○コンサートなどができるスタジアムにしてほしい。

欧州サッカースタジアム等視察について

令和元年１１月２２日（金）～１１月３０日（土）

スケジュール・視察先



出典：Googleマップ

【位置図】



【鳥瞰図】



出典：Googleマップ

スタジアム名	ヨハン・クライフ・アレナ
所在地	アムステルダム（オランダの首都）
アクセス	アムステルダム駅から電車で15分、下車後徒歩3分
立地	街なか ・（郊外）
ホームクラブ	AFCアヤックス
リーグ	エールディビジ(オランダ1部リーグ)所属（視察時点で1位）
主なタイトル	リーグ優勝26回、UEFAチャンピオンズリーグ優勝4回　等
竣工・開場年	1996年開場
建設費	1億4,000万ユーロ（約170億円※）
収容人数	53,000人
屋根	開閉式屋根
芝	ハイブリッド芝（天然90%：人工10%）
多目的利用	コンサート、ほか各種イベント
多機能化	ファンショップ、レストラン
複合化	ショッピングモール、コンサートホール、映画館、ホテルなど
周辺対策	試合終了後70名の誘導員を配置。コンサート開催時は屋根を閉じる。

※　2019年11月30日時点でのレート換算による（参考）

アムステルダム／オランダ　①ヨハン・クライフ・アレナ



スタジアム外観

カラフルな各種複合施設がスタジアムに併設。



ピッチ全景

グローライトにて芝の養生を実施。



ピッチにてライトショー

音と光の競演によるライトショー。



VIPラウンジ

バーのようなラウンジ。
試合の前後及びハーフタイム中は非常に混雑していた。



車両進入路

スタジアム2階へ車両が直接アクセス可能。
歩車分離が明確で、安全な歩行空間を確保。



複合施設

ショップ、ホテル、オフィスなどが併設。

【位置図】



【鳥瞰図】

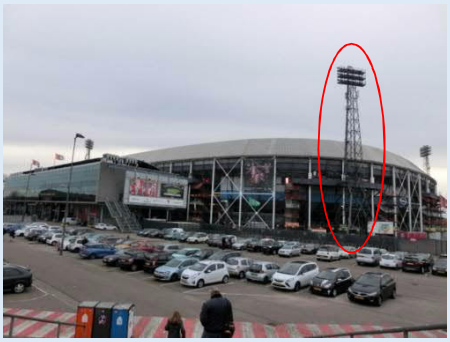


出典：Googleマップ

スタジアム名	スタディオン・フェイエノールト
所在地	ロッテルダム（オランダ）
アクセス	ロッテルダム中央駅からトラムで30分、下車後徒歩2分
立地	街なか ・ (郊外)
ホームクラブ	フェイエノールト
リーグ	エールディビジ(オランダ1部リーグ)所属（視察時点で7位）
主なタイトル	リーグ優勝10回、UEFAチャンピオンズリーグ優勝1回　等
竣工・開場年	1937年開場
建設費	5,400万ユーロ（約65億円※）
収容人数	51,177人
屋根	観客席上部のみ固定屋根
芝	天然芝
多目的利用	コンサート
多機能化	クラブミュージアム、レストラン
複合化	ファンショップ、屋内スポーツ施設
周辺対策	試合日の駐車場利用は関係者のみ。

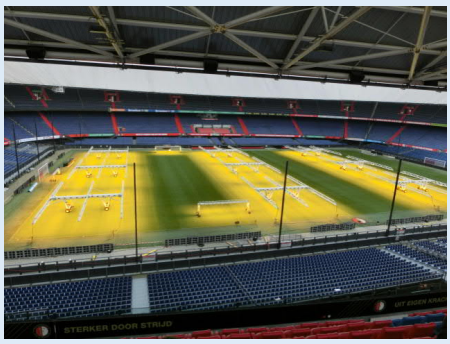
※ 2019年11月30日時点でのレート換算による（参考）

ロッテルダム／オランダ　②スタディオン・フェイエノールト



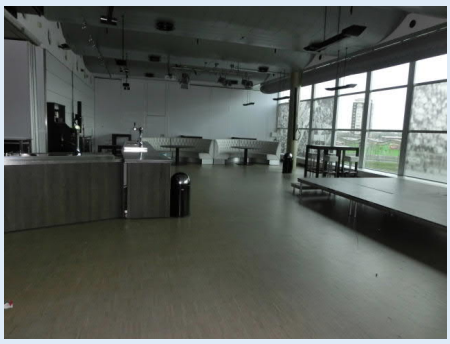
スタジアム外観

増築された照明塔。
最近のサッカースタジアムにはほとんど見られない。



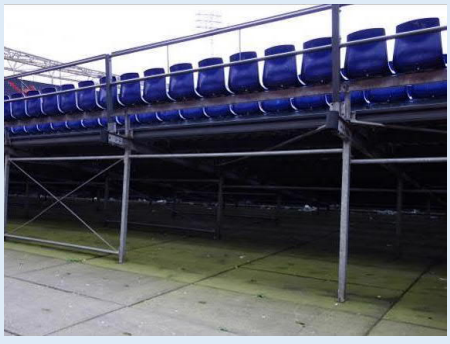
ピッチ全景

グローライトにて芝の養生を実施。



VIPラウンジ

別棟のVIPラウンジ。



1階仮設席

1階は仮設の観客席が設けられており、車いす席も設置。



プレーヤーズトンネル

スタジアムツアーは平日でも賑わっていた。
プレーヤーズトンネルには過去にスタジアムで開催されたコンサートの記録なども描かれていた。



ミュージアム

スタジアムツアーに組み込まれており、トロフィーや盾に加え、選手の靴・ユニフォームなどチームの歴史を紹介。

【位置図】



【鳥瞰図】



出典：Googleマップ

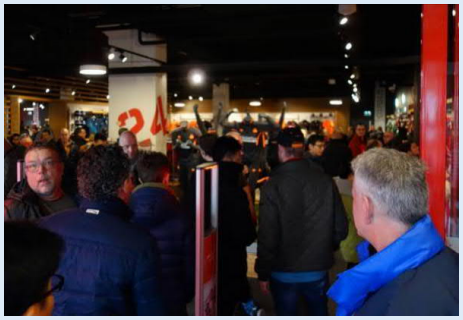
スタジアム名	フィリップス・スタディオン
所在地	アイントホーヘン（オランダ）
アクセス	アイントホーヘン駅から徒歩10分
立地	(街なか)・ 郊外
ホームクラブ	PSVアイントホーヘン
リーグ	エールディビジ(オランダ１部リーグ)所属（視察時点で3位）
主なタイトル	リーグ優勝21回、UEFAチャンピオンズリーグ優勝１回　等
竣工・開場年	1913年開場、その後随時大改修
建設費	―
収容人数	36,500人
屋根	観客席上部のみ固定屋根
芝	天然芝
多目的利用	コンサート
多機能化	ファンショップ
複合化	レストランなど
周辺対策	試合日は住宅地の入口にて誘導員が誘導。 立入禁止措置はされていない。

アイントホーヘン／オランダ　③フィリップス・スタディオン



スタジアム外観

住宅街が近接。



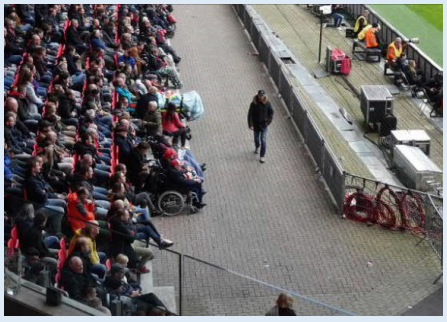
ファンショップ

スタジアムに併設するファンショップは、移動も困難なほどの大混雑。



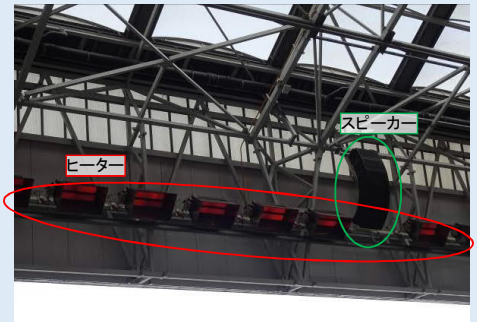
ゼロタッチ

観客席最前列はピッチと同レベル（ゼロタッチ）であり、臨場感を味わえる。



車いす席

車いす席がピッチレベルの最前列に設けられていた。



屋根裏のヒーターと指向性のあるスピーカー

冬季の観戦での寒さ対策として、屋根裏にはヒーターが設けられており、観戦環境の向上に寄与。
周辺への騒音対策として、指向性のあるスピーカーを採用。



VIPラウンジ

ラウンジから直接観戦することも、ラウンジ外のVIPシートから観戦することも可能。ラウンジ外にもヒーターが設けられていて、快適な観戦環境を整備。

【位置図】



【鳥瞰図】



出典：Googleマップ

スタジアム名	メルクール・シュピール・アレーナ
所在地	デュッセルドルフ(ドイツ)
アクセス	デュッセルドルフ中央駅から地下鉄で20分、駅直結
立地	街なか ・(郊外)
ホームクラブ	フォルトゥナ・デュッセルドルフ
リーグ	ブンデスリーガ(ドイツ1部リーグ)所属(視察時点で1位)
主なタイトル	ドイツカップ優勝2回　等
竣工・開場年	2004年開場
建設費	2億4,000万ユーロ(約310億円※)
収容人数	51,500人(全て着席) ～54,600人(立ち見あり)
屋根	開閉式屋根
芝	天然芝(芝の下にヒーター設置)
多目的利用	アイスホッケー、ボクシング、マラソン大会などのスポーツの他、コンサート、カーレースなど
多機能化	レストラン、事務所
複合化	ホテル、展示場など
周辺対策	試合時の混雑緩和のため、試合開始前後は鉄道を増便。

※　建設当時のレート換算による

デュッセルドルフ／ドイツ　④メルクール・シュピール・アレーナ



スタジアム外観

駅直結のスタジアム。



車いす席

車いす席は1階の中段あたりに設置。



開閉式の屋根

屋根を閉じて展示場として使用することもある。



屋根裏のヒーター

冬季の観戦での寒さ対策として、屋根裏にはヒーターが設けられており、観戦環境の向上に寄与。



多目的利用

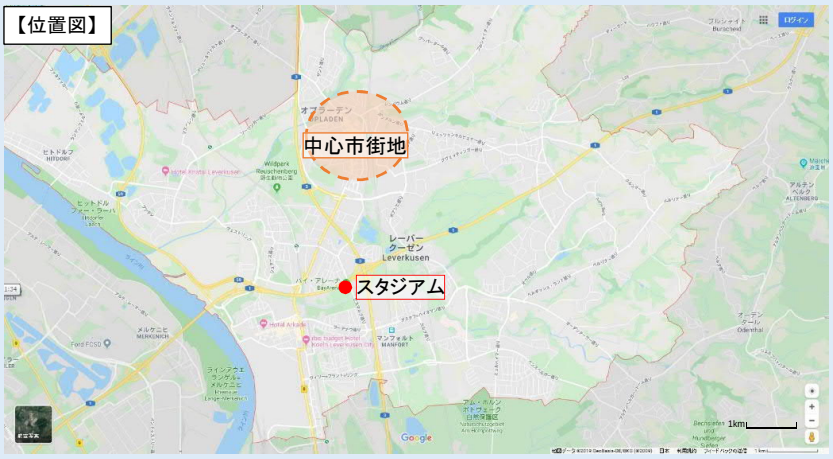
ピッチの多目的利用では、コンサートだけでなくカーレースを実施するなど、多彩なイベントに活用。



複合施設

ホテルが併設されており、ホテルのレストランからもピッチにアクセスでき、観戦が可能。

【位置図】



【鳥瞰図】



出典：Googleマップ

スタジアム名	バイ・アレーナ
所在地	レバークーゼン（ドイツ）
アクセス	デュッセルドルフ中央駅から鉄道で15分、下車後徒歩15分
立地	街なか ・（郊外）
ホームクラブ	バイエル・レバークーゼン
リーグ	ブンデスリーガ(ドイツ1部リーグ)所属（視察時点で9位）
主なタイトル	ドイツカップ優勝1回、UEFAカップ優勝1回　等
竣工・開場年	1956年開場
建設費	7,000万ユーロ（約84億円※）（1986大改修時）
収容人数	30,210人
屋根	観客席上部のみ固定屋根
芝	天然芝
多目的利用	結婚式
多機能化	ホテル、レストラン、オフィス、貸会議室、クラブ事務所
複合化	―
周辺対策	自家発電を完備、地元住民の避難所としても使える。

※　2019年11月30日時点でのレート換算による（参考）

レバークーゼン／ドイツ　⑤バイ・アレーナ



スタジアム外観

後付けの屋根が特徴的なデザイン。



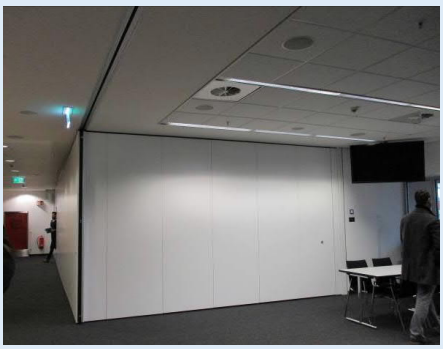
ピッチ全景

屋根が半透明のためピッチはとても明るく、芝にも良い環境。



聴覚障害者席

聴覚障害者専用の席を確保。専用のヘッドフォンにより、観戦を楽しめるよう、配慮。



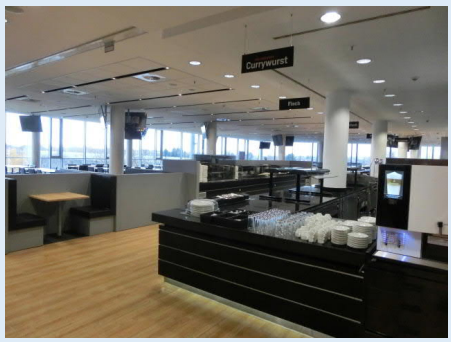
多機能化

貸し会議室が設けられており、移動間仕切りにより部屋の広さが変更でき、フレキシブルな運用が可能。稼働率の向上に寄与。



多機能化

ホテルが併設されており、ホテルの会議室からピッチを眺めることも可能。



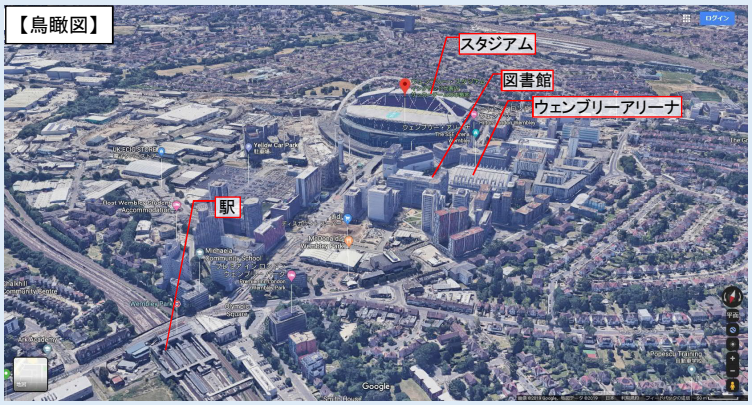
VIPラウンジ（1000人収容可）

非試合日にも会議室として貸し出しており、300人規模の会議等の会場として利用可能。

【位置図】



【鳥瞰図】



出典：Googleマップ

スタジアム名	ウェンブリー・スタジアム
所在地	ロンドン（イングランドの首都）
アクセス	ウオータールー駅から地下鉄で30分、下車後徒歩15分
立地	街なか ・（郊外）
ホームクラブ	イングランド代表
リーグ	―
主なタイトル	―
竣工・開場年	2007年開場
建設費	7億9,800万ポンド（1,890億円※）
収容人数	90,000人
屋根	観客席上部のみ固定屋根
芝	ハイブリッド芝（天然80%：人工20%）
多目的利用	NFL、ラグビーなどスポーツの他に、コンサートなど各種イベント
多機能化	―
複合化	ショッピングモール、図書館、マンション、ホテルなど。現在も開発が継続中。
周辺対策	試合前後の2時間は駐車場の使用を禁止。

※ 建設当時のレート換算による

ロンドン／イングランド　⑥ウェンブリー・スタジアム



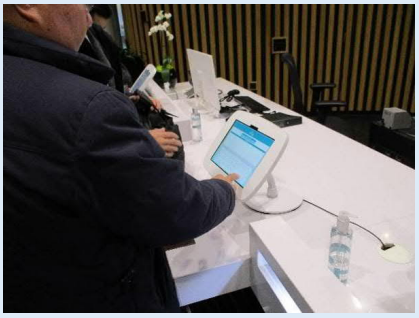
スタジアム外観

「サッカーの聖地」と称されている。
スタジアムを核とした周辺開発が現在も進行中。



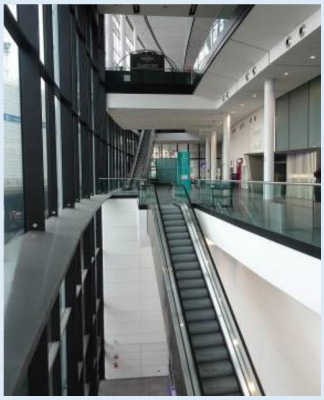
跳ね上げ式のスタンド

コンサートステージなどを設置することが可能。
多目的利用としての幅広い活用が可能。



ITCを活用した受付システム

スタジアムツアーの受付はタッチパネル。
顔写真の撮影もあり、パスに印刷される。



エスカレーター

上下のフロア移動は主にエスカレーター。



VIPラウンジ

高級感あふれるシックな設えのラウンジ。



周辺施設

周辺には子供の遊び場も設けられており、平日にもかかわらず多くの親子が利用していた。

【位置図】



【鳥瞰図】



出典：Googleマップ

スタジアム名	トッテナム・ホットスパー・スタジアム
所在地	ロンドン（イングランドの首都）
アクセス	ウオータールー駅から地下鉄・鉄道で45分、下車後徒歩5分
立地	街なか ・（郊外）
ホームクラブ	トッテナムホットスパーFC
リーグ	プレミアリーグ（視察時点で14位）
主なタイトル	FAカップ優勝8回、UEFAカップ優勝2回など
竣工・開場年	2019年開場
建設費	10億ポンド（1,450億円※）
収容人数	62,062人
屋根	観客席上部のみ固定屋根
芝	2重構造 上部：天然芝（サッカー用） 下部：人工芝（NFLなどサッカー以外利用時） （サッカー以外の利用時は、上部天然芝がスライドしてスタンド下に収納。下部の人工芝で行われる。（英国初））
多目的利用	NFL、ラグビーなどスポーツの他に、コンサートなど各種イベント
多機能化	フードコート（ビール醸造所など）
複合化	ショッピングセンターなど。現在も開発が継続中。
周辺対策	試合時には、警備員とバリケードの設置により、住宅地への観客の進入禁止。前面道路の封鎖。

※　建設当時のレート換算による

ロンドン／イングランド　⑦トッテナム・ホットスパー・スタジアム



スタジアム外観

2019年にオープンした最新のスタジアム。



観客席

観客席最前列はピッチよりも低いレベルであり、非常に臨場感がある観戦を楽しむことができる。



映像装置

大型映像装置や帯状映像装置による、多彩な演出が可能。



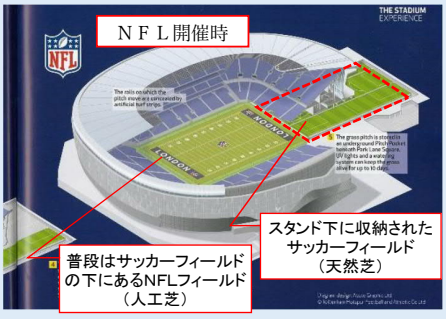
ビール醸造所

出来立ての新鮮なビールを堪能することができる。
地元ブルワリーの採用により、地元愛の増強にもつながっている。スタジアム内のビール醸造所は世界初。



VIPラウンジ

プレーヤーズトンネルに面したVIPラウンジ。試合前後の選手の様子を間近で感じることができる。
他にもスカイラウンジ等、多彩なVIPラウンジを用意。



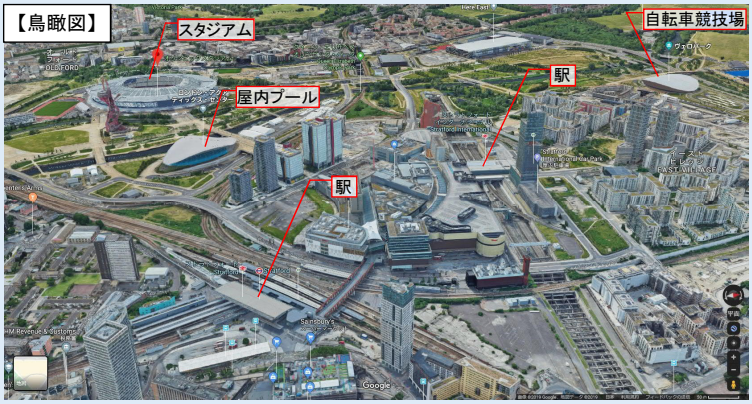
2重構造のフィールド

上部は可動式のサッカーフィールド。NFL開催時には、サッカーフィールドをスライドしてスタンド下に収納し、下部のNFLフィールドにて競技を実施。

【位置図】



【鳥瞰図】



出典：Googleマップ

スタジアム名	ロンドン・スタジアム
所在地	ロンドン（イングランドの首都）
アクセス	ウオータールー駅から地下鉄で20分、下車後徒歩15分
立地	街なか ・（郊外）
ホームクラブ	ウエストハム・ユナイテッドFC
リーグ	プレミアリーグ（視察時点で16位）
主なタイトル	FAカップ優勝3回、UEFAウィナーズカップ優勝1回など
竣工・開場年	2011年開場
建設費	4億8,600万ポンド（660億円※）
収容人数	60,000人
屋根	観客席上部のみ固定屋根
芝	ハイブリッド芝（天然97%：人工3%）
多目的利用	野球、アメフト、ボクシング、陸上などスポーツの他に、コンサートなど各種イベント
多機能化	貸会議室
複合化	屋内プール、多目的アリーナ、自転車競技場など、多数のスポーツ施設。現在も開発が継続中。大学も新設された。
周辺対策	試合日は駐車場の使用を禁止。

※ 建設当時のレート換算による

ロンドン／イングランド　⑧ロンドン・スタジアム



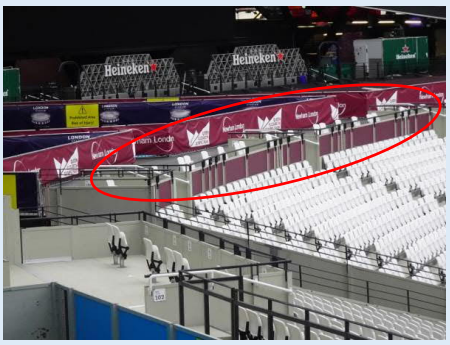
スタジアム外観

周囲には2012年ロンドンオリンピックで使用された競技施設が多数存在し、スポーツの拠点にもなっている。



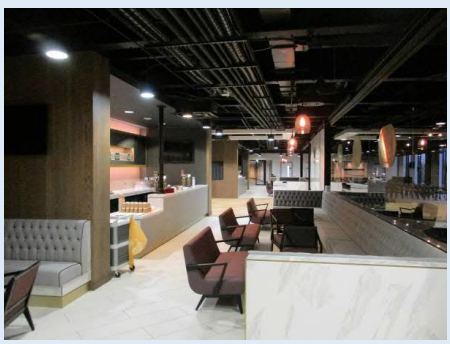
ベンチと観客席

ベンチの隣で観戦ができるプレミアムシートも設けられている。



車いす席

車いす席の床を高くすることで、観戦中に前の人が立ち上がっても、車いす観戦者からピッチが見えるよう配慮。



VIPラウンジ

試合日のみ利用できるラウンジ。



多目的利用

野球、アメフト、ボクシングなどのスポーツの他にコンサートも行われ、多様な利用がされている。



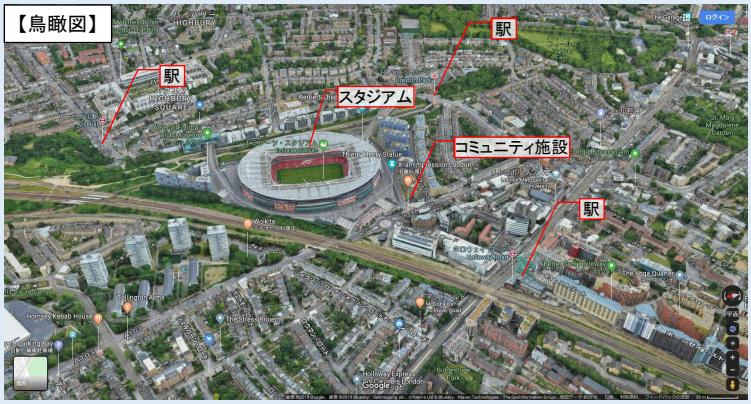
周辺施設

周辺にはショッピングモールもあり、平日でも賑わっていた。

【位置図】



【鳥瞰図】



出典：Googleマップ

スタジアム名	エミレーツ・スタジアム
所在地	ロンドン（イングランドの首都）
アクセス	ウオータールー駅から地下鉄で20分、下車後徒歩5分
立地	街なか ・（郊外）
ホームクラブ	アーセナルFC
リーグ	プレミアリーグ（視察時点で6位）
主なタイトル	プレミアリーグ優勝13回、UEFAウィナーズカップ優勝1回など
竣工・開場年	2006年開場
建設費	4億3,000万ポンド（890億円※）
収容人数	60,432人
屋根	観客席上部のみ固定屋根
芝	天然芝
多目的利用	コンサート
多機能化	ファンショップ
複合化	コミュニティ施設、クラブミュージアム
周辺対策	地元住民が優先的に利用できるコミュニティ施設を設置。 試合時には、警備員とバリケードの設置により、前面道路の封鎖。

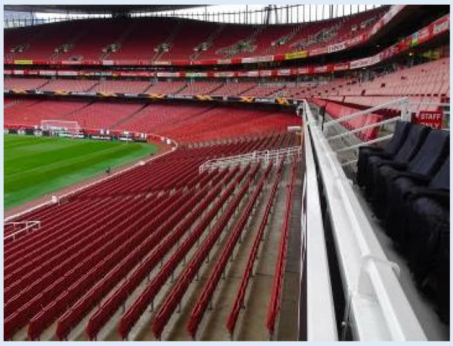
※ 建設当時のレート換算による

ロンドン／イングランド　⑨エミレーツ・スタジアム



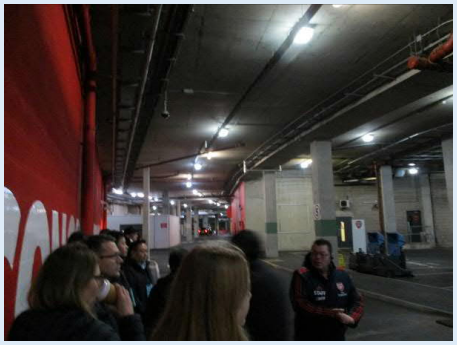
スタジアム外観

周辺の再開発とともにスタジアムも建設された。
周囲には住宅や商業ビルが立ち並んでいる。



スタンド

1階は緩勾配、上層階ほど急勾配でピッチに近くなっており、臨場感や一体感のある観戦が楽しめる造り。



スタジアムツアー

スタジアムツアーは平日でも家族連れで賑わっていた。
また、ツアーガイドは9か国語＋イギリス手話に対応。



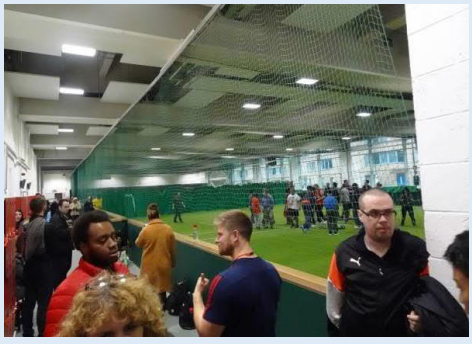
VIPラウンジ

高級感のあるラウンジ。
会員には専用のロッカーも用意。



前面道路の封鎖

試合時には、警備員とバリケードの設置により、前面道路を封鎖。



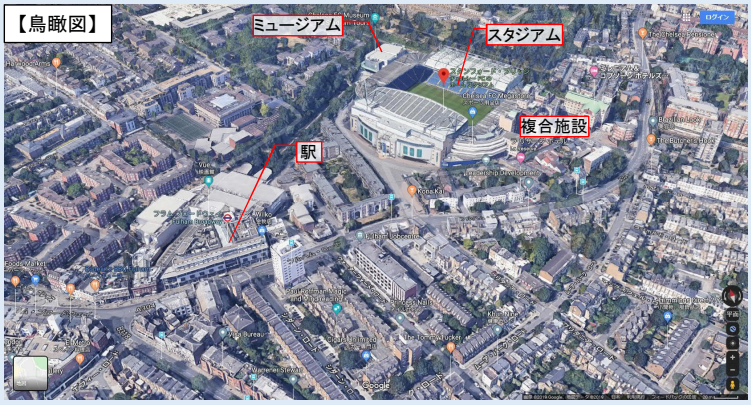
地域との共存

地元住民が優先的に利用できるコミュニティ施設「アーセナル・ハブ」を併設。“地域との共存”を目的としており、平日にもかかわらず多くの人が利用。

【位置図】



【鳥瞰図】



出典：Googleマップ

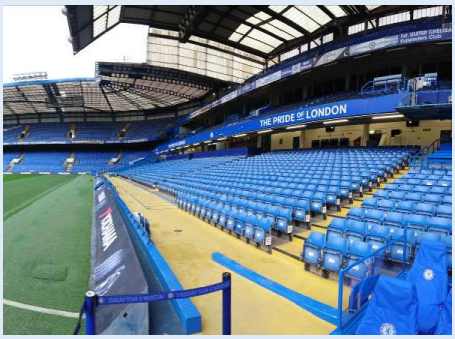
スタジアム名	スタンフォード・ブリッジ
所在地	ロンドン（イングランドの首都）
アクセス	ウオータールー駅から地下鉄で25分、下車後徒歩5分
立地	(街なか)・ 郊外
ホームクラブ	チェルシーFC
リーグ	プレミアリーグ（視察時点で3位）
主なタイトル	FAカップ優勝6回、UEFAチャンピオンズリーグ優勝2回など
竣工・開場年	1877年開場
建設費	―
収容人数	41,798人
屋根	観客席上部のみ固定屋根
芝	天然芝
多目的利用	サッカー以外の利用は無し
多機能化	ファンショップ、ライブハウス
複合化	ホテル、スパ、カフェ、クラブミュージアム
周辺対策	試合日は駐車場の使用を禁止。（障害者に限り使用可能）

ロンドン／イングランド　⑩スタンフォード・ブリッジ



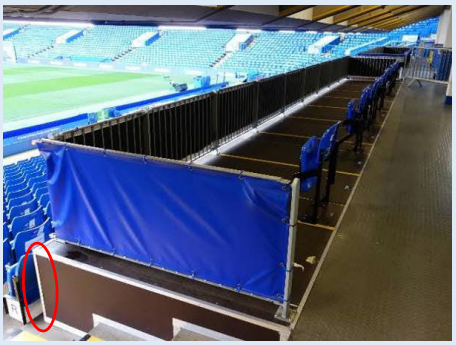
スタジアム外観

街なかにあるスタジアム。
周辺には高級住宅街が存在。



ゼロタッチ

観客席最前列はピッチと同レベル（ゼロタッチ）であり、臨場感を味わえる造り。



車いす席

車いす席の床を高くすることで、観戦中に前の人が立ち上がっても、車いす観戦者からピッチが見えるよう配慮。



センサリールーム

発達障害者（感覚過敏）用の個室。
この他に聴覚障害者用の専用ヘッドフォンも用意されており、障害者への配慮が手厚い。



VIPラウンジ

会議利用時には移動間仕切りでカウンターを区切ることが可能。



複合施設

セレブにも人気のスパ（温浴施設）を敷地内に設置。

【位置図】



施設名	ウインブルドン・ローンテニスクラブ・センターコート
アクセス	ウオータールー駅から鉄道・地下鉄で30分、下車後徒歩20分
概要	ウインブルドン選手権（全英オープンテニス）開催期間中の2週間のみ使用される。 施設は1922年に完成、1992年に大改修を行い、2009年には開閉式の屋根を設置。 レストランやミュージアムショップが併設。 運営費用はクラブ会員からの会費で全てを賄っているため、多目的利用は行っていない。 「アオランギテラス」(No.1コート横の丘)ではパブリックビューイングも行われる。

施設名	O2（オーツー）アリーナ
アクセス	ウオータールー駅から地下鉄で15分、下車後徒歩5分
概要	商業施設等の大規模複合施設である「TheO2」内にある欧州最大規模の多目的屋内アリーナ。 TheO2には、ショッピングモール、シネマコンプレックスなどが入っている。

施設名	グラナリースクエア
アクセス	ウオータールー駅から地下鉄で30分、下車後徒歩10分
概要	キングスクロス駅周辺の開発の一環で整備された広場。 パブリックビューイングやマーケットも開催される。

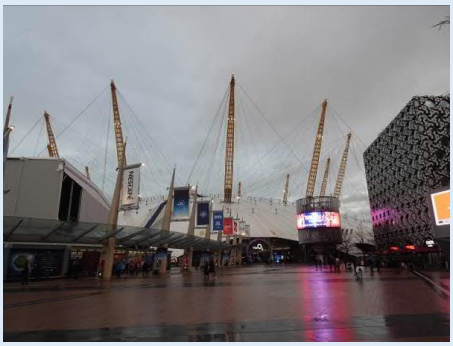
施設名	ハイドパーク
アクセス	ウオータールー駅から地下鉄で10分、下車後徒歩5分
概要	王立公園。世界初の万国博覧会(ロンドン万博)の会場やロンドンオリンピックの競技場としても使用。 毎年クリスマスマーケットが開催される。

出典：Googleマップ



The O2平面図

O2アリーナの周囲をショッピングモールで回遊可能。



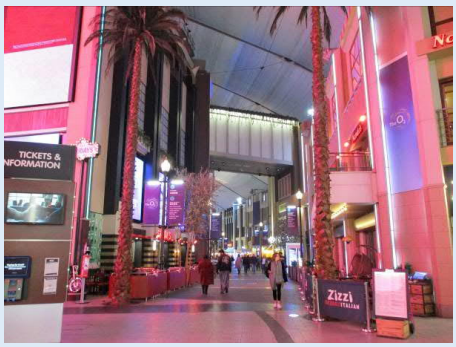
施設外観

マスト（黄色の支柱）と膜屋根で覆われた特徴的なデザイン。



複合施設

間接照明などで彩られた空間。

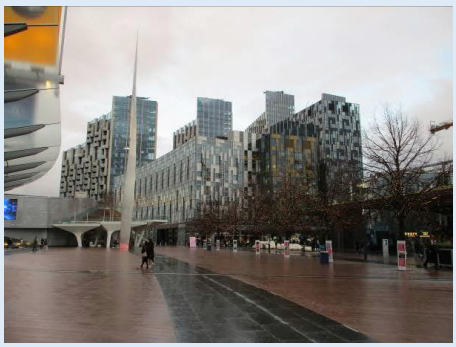


複合施設

間接照明などで彩られた空間。

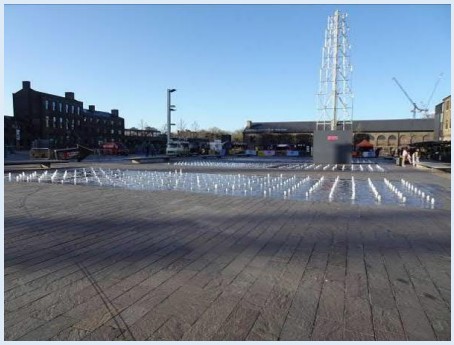


複合施設（シネマコンプレックス）



周辺施設

周辺には店舗等が建ち並ぶ。



親水公園

小さな噴水からリズミカルに水が噴き出る様子。



レンガ倉庫のスーパー

古いレンガ倉庫を改修して、スーパーとして活用。



スーパー内部

古い柱や壁、扉などが残されていた。



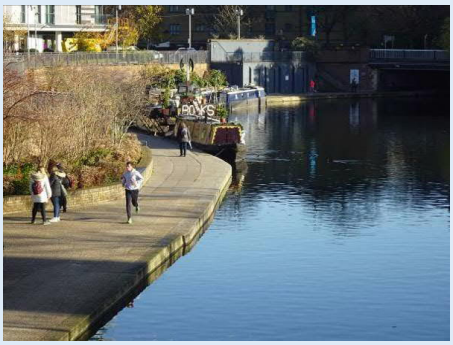
川辺

イベントとして、パブリックビューイングが開催される川辺。



川辺

パブリックビューイングの様子《ネットから取得》
https://4travel.jp/travelogue/11522019



川辺

川辺でランニング。



パークの正門



イベントマップ

毎年、大規模なクリスマスマーケットを開催。



クリスマスマーケット

園内には仮設のスケート場も設置。



クリスマスマーケット

平日にもかかわらず、多くの人で賑わっていた。



クリスマスマーケット

仮設とは思えないほど本格的な遊園地も設置。



クリスマスマーケット

園内には、歩行空間だけでなく、仮設建物の下にも
ゴム製の仮設床材が敷き詰められていた。



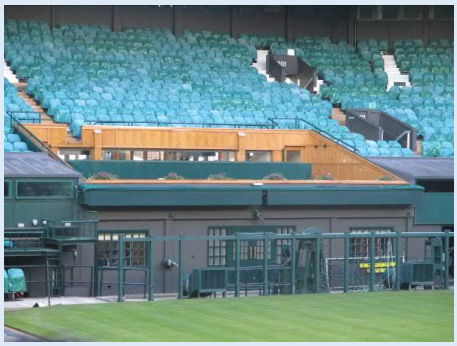
施設全景

全英オープンテニスの大会期間中のみ使用される。



車いす席

今回視察したスタジアムと同様に、補助者席が併設。



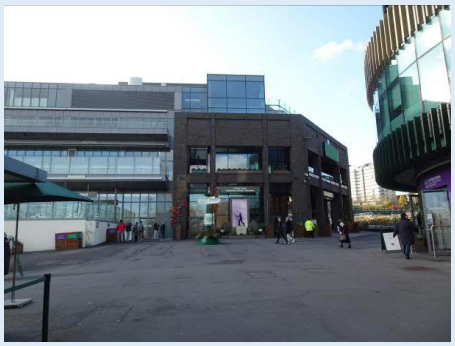
ロイヤルボックス（VVIP）

VVIP用の部屋を用意。



開閉式の屋根

会員等からの要望により、2009年に設置。



複合施設

レストラン、ミュージアムショップが併設。



複合施設

「アオランギテラス」(No.1コート横の丘)ではパブリックビューイングも行われる。《ネットから取得》
https://ameblo.jp/britain-park/entry-12044054065.html

■　スタジアム建設の意義（コンセプト）

視察したスタジアムに共通していたのが、「スタジアムは街の中心であり誇り」であること。
ミュージアムだけでなく、スタジアム内の至る所に過去の写真（優勝時や選手など）が散りばめられ、地域の歴史、クラブの歴史がとても大切にされていた。
また、子供からお年寄りまで、様々な年齢層が訪れることからも、サッカーが文化として地域社会にしっかり根付いていることがわかった。
特に、ファミリー層の観客が多く、非試合日のスタジアムツアーで同行したメンバーは、ファミリーばかりだった。
試合日においても、子どもから高齢者まで幅広い世代の観客が来場し、スタジアム内で子供が遅い時間まで遊んでいた。
また、車いす席をゴール裏最前列に用意したり、聴覚障害者・精神障害者向けの席・部屋を用意するなど、障害を持つ方に対する細やかな配慮に、地域と共存していくスタジアムの姿を見ることができた。

■　多目的・多機能利用

❶　ＶＩＰラウンジ・スカイボックス等による安定的な年間収入

視察したスタジアムにはＶＩＰラウンジやスカイボックス、ビジネスラウンジ等が完備されていた。
試合開催の有無にかかわらず、会議で利用できたり、接待などで活用することで、稼働日と客単価を上昇させ、重要な収入源としているスタジアムもあった。
また、契約者が自由に改装出来る個室から大人数を収容する安価なラウンジ席まで、顧客のニーズや負担力に応じた複数の席種を用意することにより、多様なニーズに対応し、収益の向上を図っていた。
今回、新たなスタジアムの経営を考える上で、安定した収入源対策として、このようなビジネスユースを取り入れることは非常に有益である。

■ 多目的・多機能利用

❷ 劇場のような空間演出

欧州のスカイボックスやビジネスラウンジは、キャンセル待ちが出るほど人気があるが、その要因として、どのスタジアムもピッチとの距離が近く、見やすく、また、スタンド最前列の高さをピッチレベルとするゼロタッチの採用や、スタンドを緩勾配にするなどによる圧倒的な臨場感など、スタジアム自体が持つ魅力が大きく貢献していた。
音響や照明システムもうまく活用することで、エンターテインメント性を向上させ、あたかも「劇場」のような空間としている。

❸ 大規模イベントへの活用

多くのスタジアムにおいて、大規模集客が可能な環境を生かし、コンサートやイベント等を開催しており、収入に繋げていた。
ただし、イベント後の芝の張り替えが必要であり、消極的なチームがあったのも事実。短時間で張り替えを行う技術や張り替え費用の負担等の課題があるものの、このような多目的利用を進めることは、収入面でも大きな魅力であり、稼働率を高める意味でも意義があるものと考える。

❹ 地域とクラブのための多機能施設

多くのスタジアムにファンショップやクラブミュージアムがあり、非試合日においても開放されていた。
また、有料のスタジアムツアーは、見学ルートに一般者が入ることの出来ない選手のロッカールームなどの関係者エリアや、クラブの栄光の歴史を伝えるミュージアムを目玉の一つとして組み込むことで、非試合日でもファンが訪れていた。
また、地域貢献として地ビールの醸造所を設けている事例もあった。

■ 複合化

飲食（カフェ、レストラン）・物販（ショッピングモール）・宿泊（ホテル）・会社（オフィス）等が併設され、スタジアムを核に 1 つの小さな街を形成している例が多く見られた。
観戦者のためにアクセスの良い場所にスタジアムを整備し、スタジアムができた後に、アクセスの良さを活かした様々な機能が複合施設として周辺に整備されるという構図が主流だったが、このためにも魅力的なスタジアムを整備し、そこをマグネットにターゲット層に繋がる複合施設を整備していく必要性を感じるとともに、まちづくりの観点からも大いに参考になる。

■ 地域との共生

運営面では、今回建設を予定している「街なかスタジアム」を念頭に、周辺住民への配慮や渋滞対策を中心にヒアリングを行った。
近くに住宅がある多くのスタジアムにおいて、試合日には住宅地内やスタジアム前面道路への人や車両の進入防止対策が十分に取られるケースが多かった。また、日頃からの地域とのコミュニケーションを大切にしており、地域向けイベントの開催や地域のためのコミュニティ施設を整備している事例があるなど、地域との共生が図られていた。
渋滞対策として、公共交通機関で来場してもらうようにクラブ側が観客の交通費の一部を負担している事例があったほか、スタジアム内のビジネスラウンジやパブを試合前後 2 時間程度オープンし、帰宅時間を分散させることにより渋滞緩和につなげていた。